SHOGAKUKAN

乱世に生きる

史記

横山光輝

6

CHINESE HISTORY[SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

BIG GOLD COMICS

史記 6 横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

ISBN4-09-189046-6

C0379 P670E

定価670円
(本体650円)

CHINESE HISTORY[SHIKI]

話題を呼ぶ中国古代英雄列伝!!
大国化していく秦に決戦を挑んだ諸国の公子たち——。
趙の平原君、楚の春申君、魏の信陵君の波瀾万丈の大活躍、
そして、秦の始皇帝の父・子楚を趙から救い出し、
秦の上層部へ駆け上がった政商・呂不韋の金力と野望!!
いよいよ秦の全国制覇への地響きが聞こえる
ダイナミックな横山『史記』、激動の第6巻です!!

横山光輝

MITSUTERU YOKOYAMA PROFILE

昭和29年に「音無しの剣」でデビュー。「鉄人28号」「おてんば天使」「伊賀の影丸」等で不動の地位を確立する。昭和42年より「水滸伝」を連載、さらに昭和46年からライフワークともいえる「三国志」の連載を開始する。「バビル2世」「時の行者」等、SFの傑作も多い。「史記」は、古代中国史全体を見極めようとする新しいライフワークだ。

ビッグゴールド・コミックス

史記①～⑥……横山光輝
平成野球草子①～④……水島新司
妖怪博士の朝食①～②……水木しげる
ゼンマイ仕掛けの犯罪白書①……青柳裕介
青柳裕介作品集①～②……青柳裕介
ケースハード①～②……松本零士
アトンの娘①～③……里中満智子
博愛の人①～③……ジョージ秋山
迷路のない町……齋藤なずな
紅(くれなる)にほふ①～②……竹宮恵子
トワイライト・ミュージアム……岡崎二郎
理想宮①……畑中 純
HATAGO〈旅籠〉①……石ノ森章太郎

SHOGAKUKAN

乱世に生きる

史記

横山光輝

6

BIG GOLD COMICS

BIG GOLD COMICS

史記 6

横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

BIG GOLD COMICS

CHINESE HISTORY[SHIKI]

SHOGAKUKAN

乱世に生きる

史記

横山光輝

6

BIG GOLD COMICS

史記◇6 乱世に生きる　目次

CHINESE HISTORY [SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

第1話　嚢中の錐……5

第2話　老いの野望……53

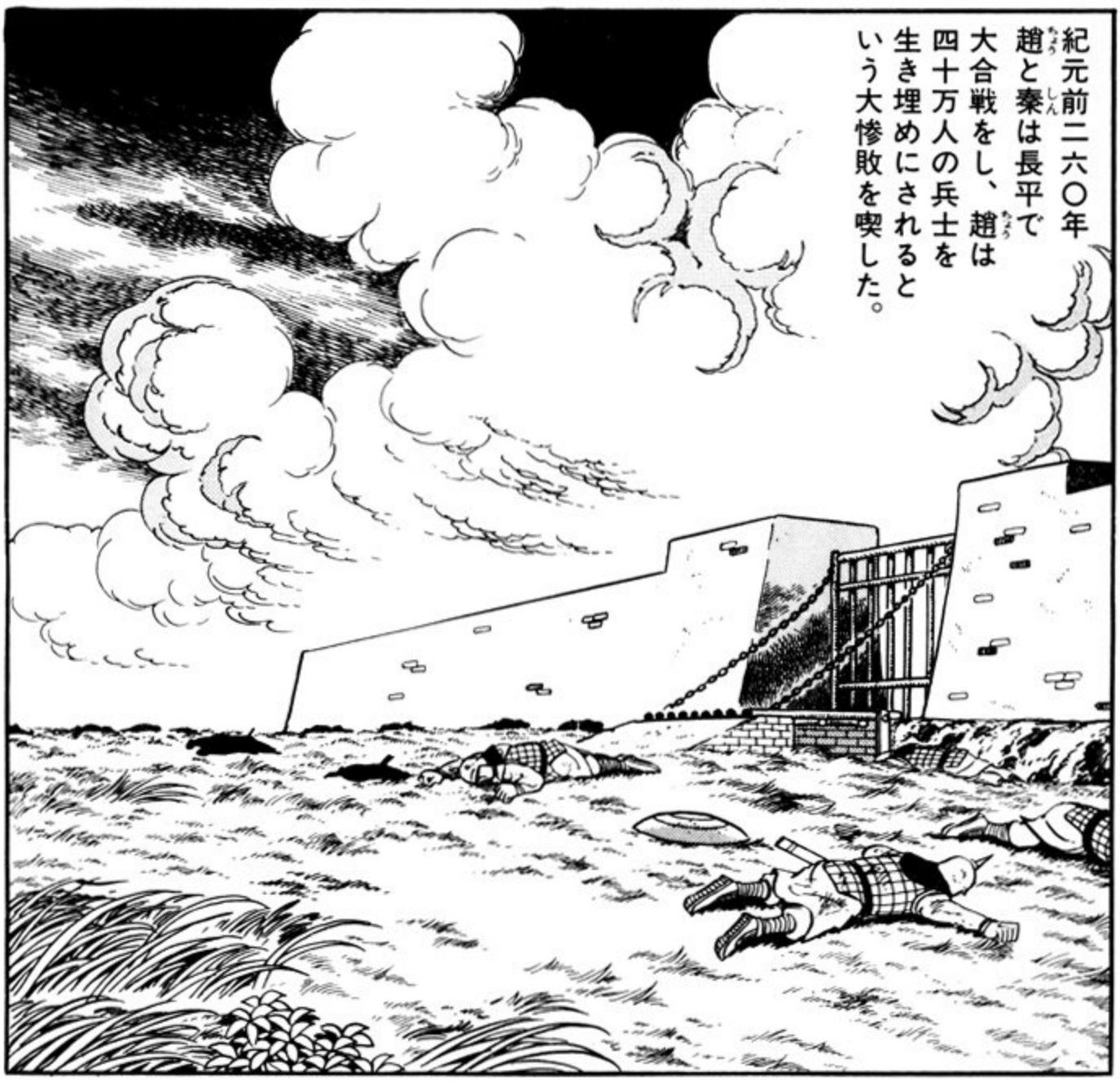
第3話　主を震わす者……113

第4話　奇貨　居くべし……213

第1話

嚢中の錐

戦国の四公子のひとり
平原君趙勝は
趙の恵文王の弟で、
恵文王と孝成王の
二代に仕え
三度宰相をつとめ
多くの食客を抱えていたので
有名である。



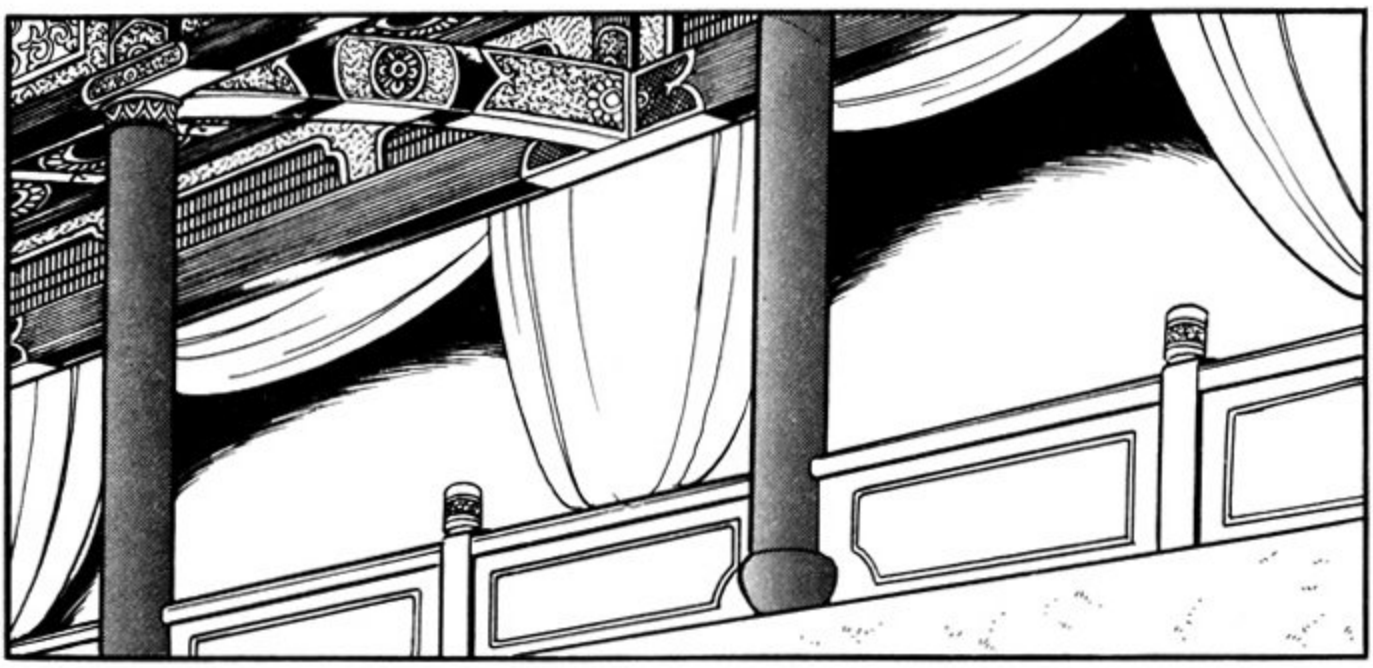
それから二年後、
秦は再び趙に攻め入り
趙の国都・邯鄲を
包囲した。

秦

秦

3

趙は懸命に防戦し、
両軍の攻防は
九か月にわたった。



4

平原君よ、わが軍は九か月にわたってよく持ちこたえている。だがこれも限界じゃ、このままでは趙は滅亡する。

はい。

5

これはむつかしい任務だ。楚は国都・郢を奪られた時、秦と盟約を結び侵攻をまぬがれた。おいそれとはわが国との同盟には応じまい。

ともかく食客の中から知勇兼備の士二十名を補佐としてつれていこう。

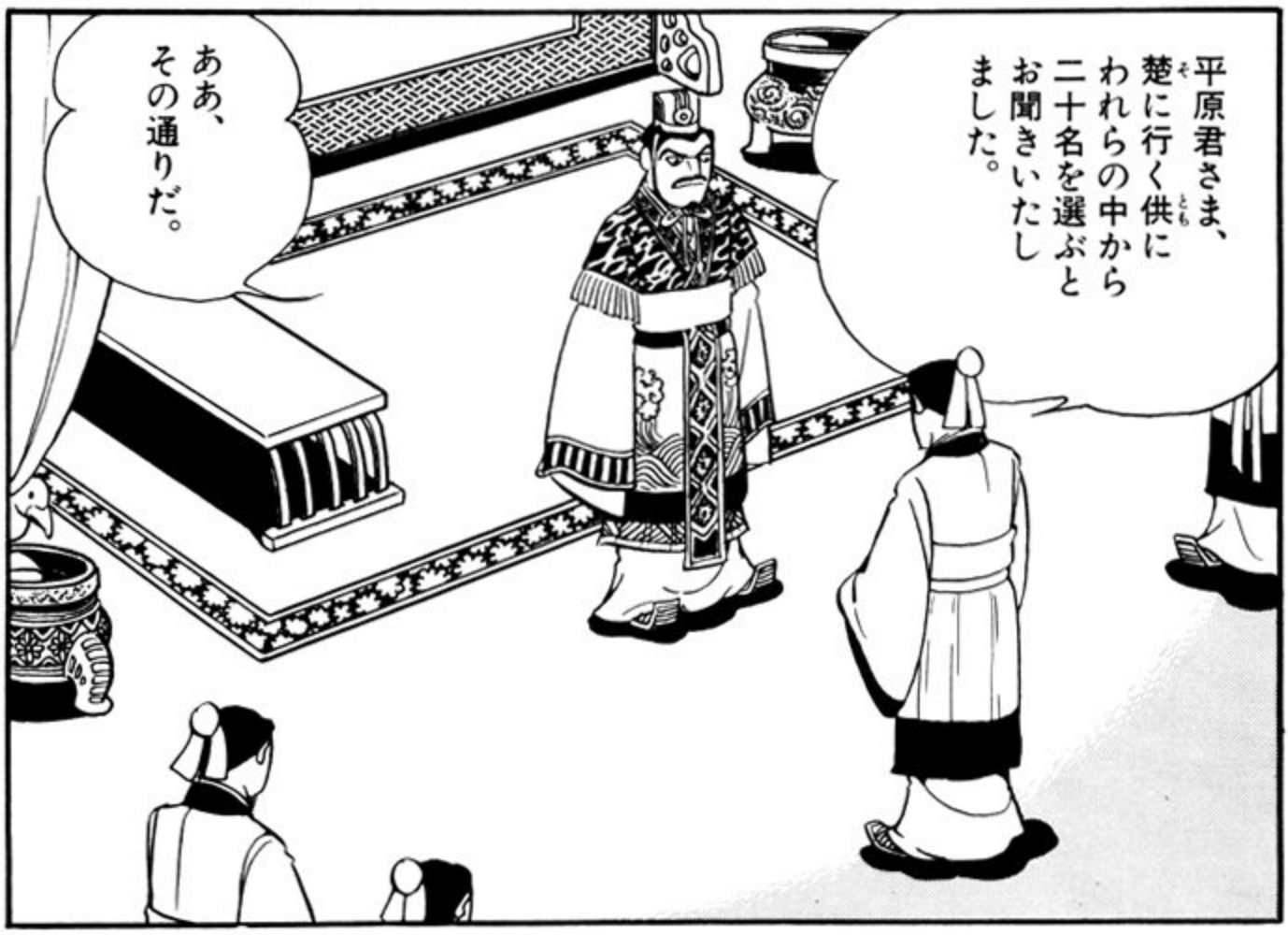
ご主人さま、近頃 何かうかぬ顔をなされていますがいかがなされました。
うむ、今度の役目の人選に頭をいためている。

6

今度の役目は趙の存亡がかかっている。どうしても成功させねばならぬ。
そこで食客の中から知勇兼備の士を二十名連れていこうと思ったのだが十九名しか決まらぬ。あと一人を誰にしようかと迷っている。

7

楚に甘く見られてはまとまる話もまとまらなくなる。はてさてあと一人誰がよいものか。


平原君さま、楚に行く供にわれらの中から二十名を選ぶとお聞きいたしました。
ああ、その通りだ。

8

まだ一人が未定とうかがいましたが、それならばわたくしをお供に加えてくださりませ。

先生のお名は……
えーと……
えーと。

毛遂にございます。

おうそうだった……ところで毛遂どのはここにこられて何年になられる。
三年です。

才能ある人物はたとえてみれば錐のようなものだ。錐は袋に入れればたちまち先が突き出るもの……

9

ところで毛遂どのはわたしのところに参って三年にもなるというのに、いっこうに名も出なければ功名もない。このたびの任務は重大ゆえ悪いが連れていけませぬ。

それは今まで袋に入れられる機会がなかっただけです。わたしを袋に入れていただけたならば先端どころか柄まで突き抜けていたでございましょう。

なにとぞお供の一人にお加え下されませ。お役に立てると思いまする。

う、うむよかろう。

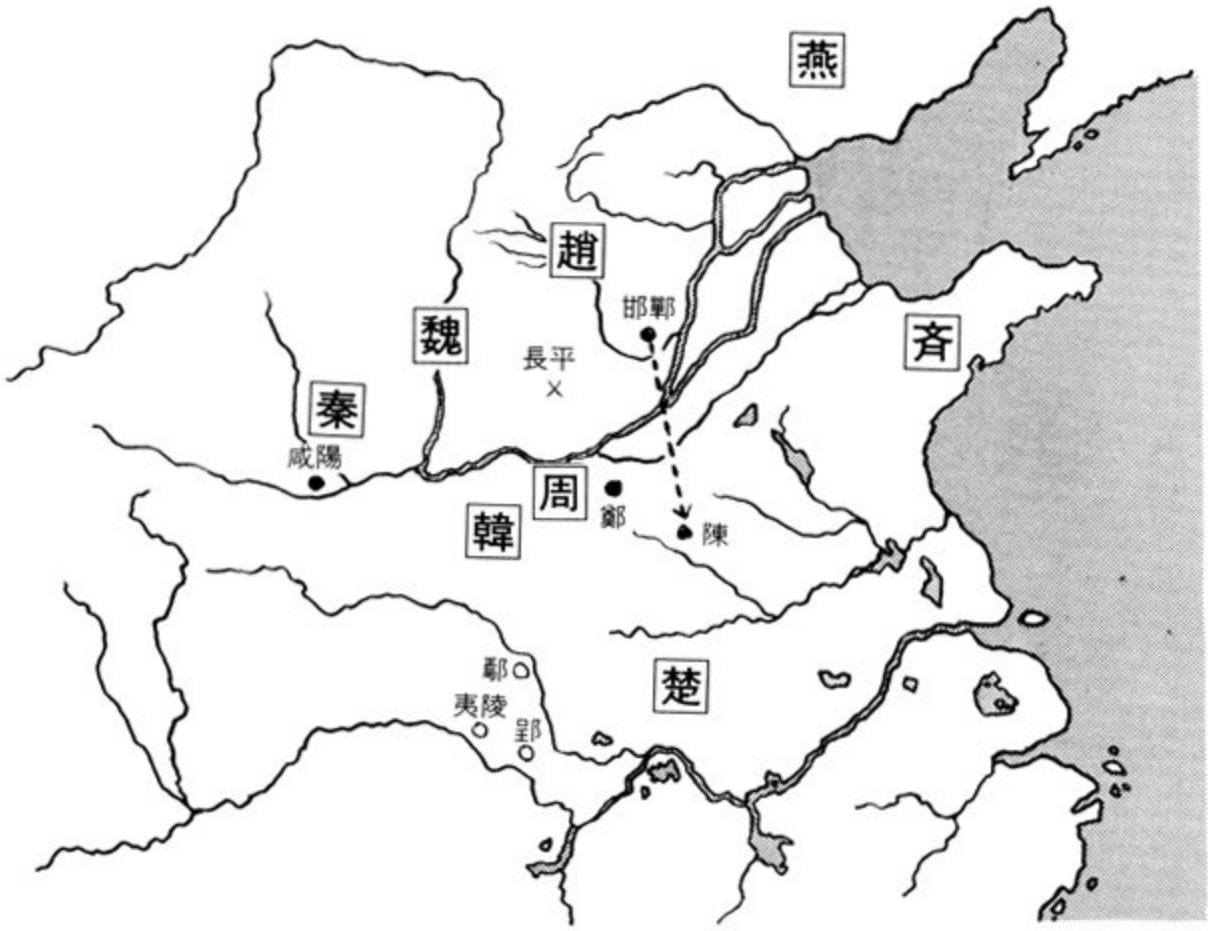
10

まあ、なんとあつかましい男だ。

名を売りたいのでござろう。

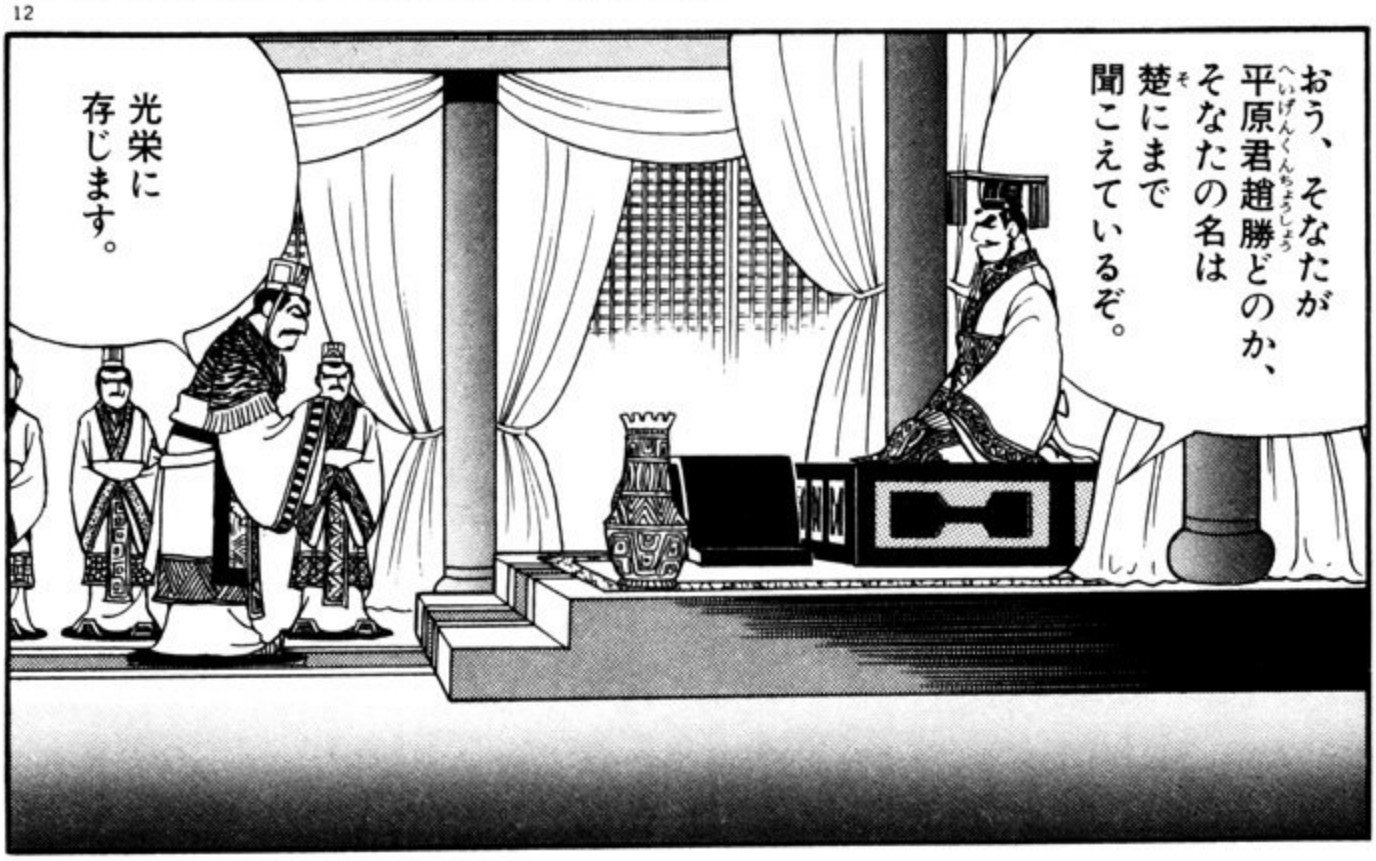
化の皮がはがれなければいいがな。

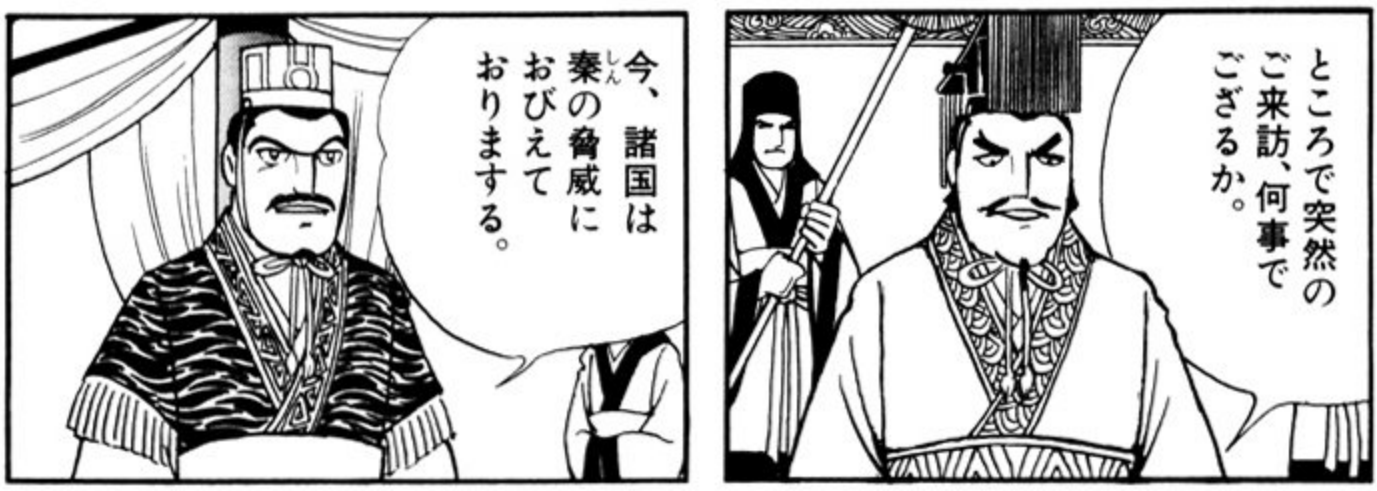
こうして
平原君一行は
楚へ向かった。

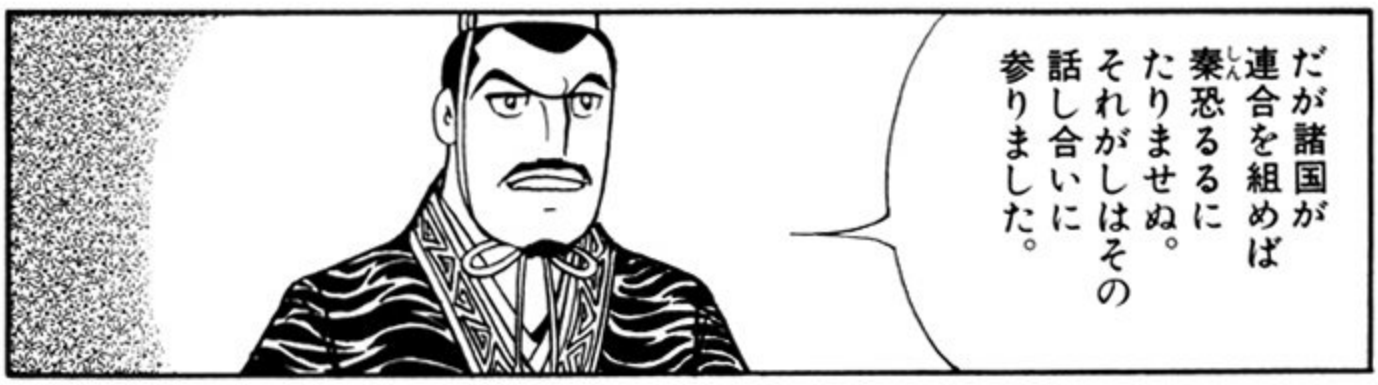


その頃、楚は秦の白起将軍に国都・鄢、郢を奪られ東方の陳へ遷都していた。

12




ところで突然のご来訪、何事でござるか。
今、諸国は秦の脅威におびえておりまする。

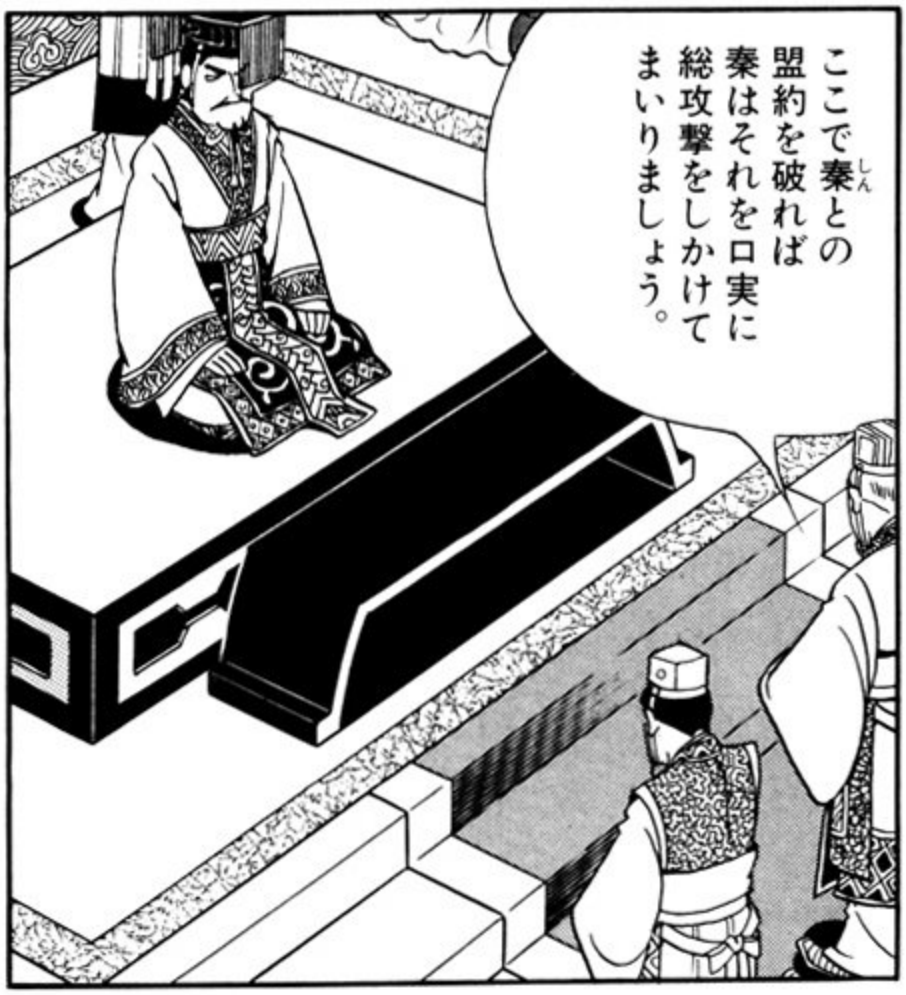

だが諸国が連合を組めば秦恐るるにたりませぬ。それがしはその話し合いに参りました。

13

わかった……日を改めて話し合いましょう。
はっ。

楚王さま、
趙との同盟は
わが国を危機に
さらすものですぞ。

14



それから数日後、
会談が始まった。

だが会談は
難航した。
楚王は秦の怒りを
買うことを恐れた
からである。

15

長いのう、
もう半日になる。

同盟が結べねば
趙は亡ぶぞ。

そう思われるのなら
なぜ平原君さまを
補佐なさらぬ。
それがためのお供で
ござろう。

そう申されても
……

ならば
それがしが
補佐をつとめ
ましょう。

16

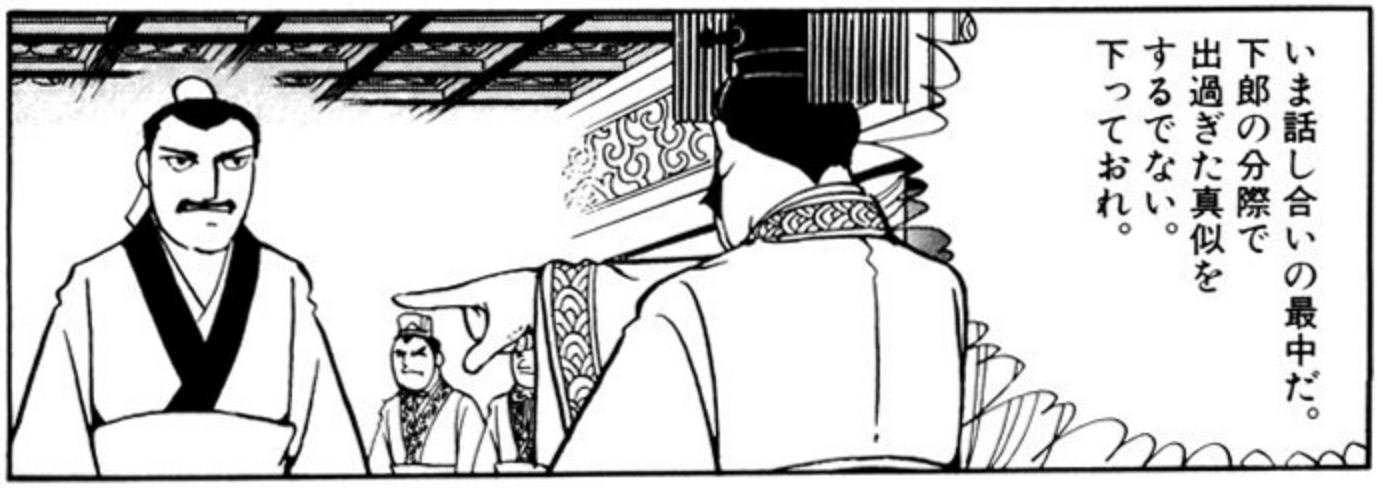
?

趙・楚が同盟を結べば有利。結べなければ不利。こんな簡単なことがまだ決定されぬということはどういうことです。

何者じゃ。

わたしの供の者です。

17


いま話し合いの最中だ。下郎の分際で出過ぎた真似をするでない。下っておれ。

王さまがわたしを叱られますのはまわりに腕ききの兵がいるからでございましょう。しかしこの距離でその腕ききの兵が間にあいましょうか。王さまのおん命はわが手にかかっておりまするぞ。

18

わが趙の国のものまで
それを恥と考えていますのに
王さまはそれを
恥と思われませぬのか。
いま趙と楚が同盟を結び
秦に当たろうというのは
趙のためではない。
楚のためを思えば
こそでござるぞ。

19

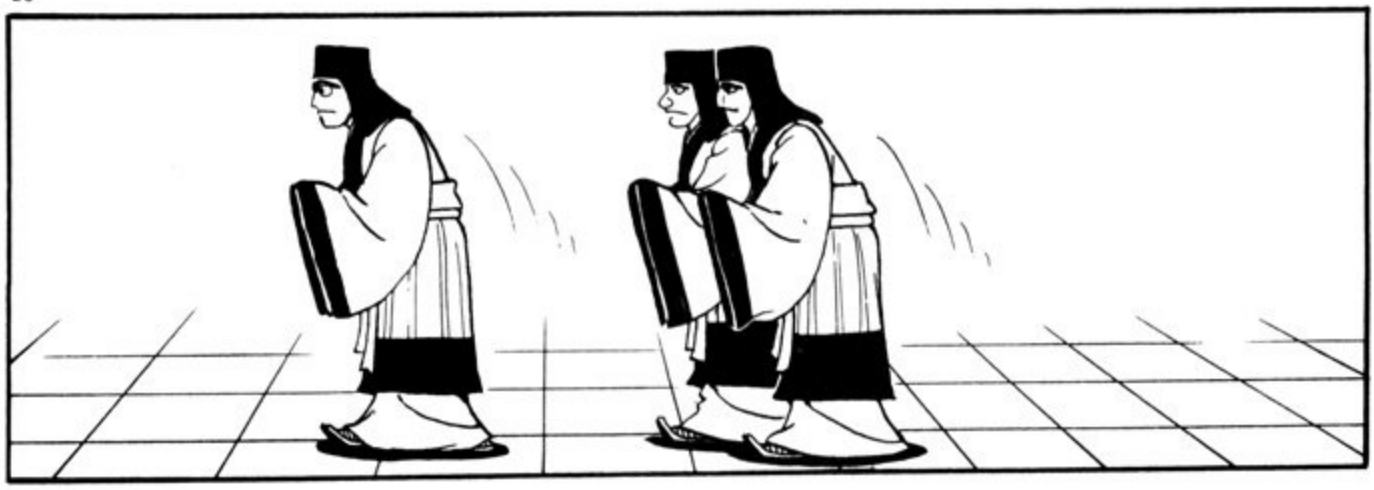
ある……
ある！

おのおの方
聞かれた通りだ。
楚王さまは
恥をそそぎたいと
言われる。
これで同盟は
まとまった。

すぐに儀式の
犠牲の血を
用意なされ。

用意いたせ。

20



すぐに犠牲の血は用意された。

ご苦労。

まず王さまからこの血をすすって同盟の誓いをたててくだされ。つぎはわが君、その次はわたくしでございます。

21

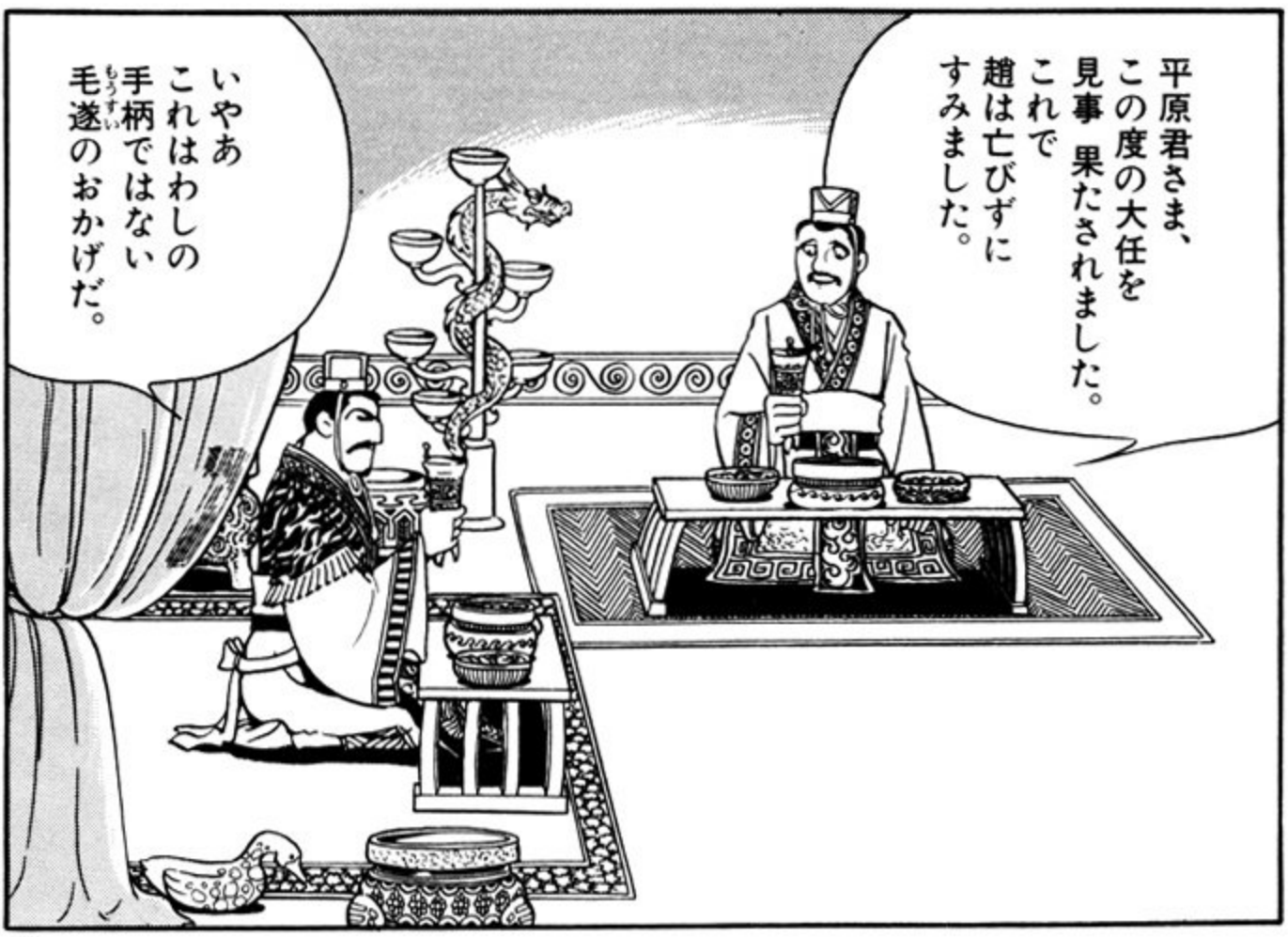
趙と同盟を結ぶことを天に誓う。

22

さて貴公たちも
そこで飲むのだ。
言うことは言うが
いざという時に
なんの役にもたたぬ。

23

こうして
平原君(へいげんくん)は
大任を果たして
帰国した。


平原君さま、この度の大任を見事 果たされました。これで趙は亡びずにすみました。
いやあ これはわしの手柄ではない 毛遂のおかげだ。

24

わしは今まで何千人も人を評価し人を見る目に誤りはないと自信を持っておった。だが、毛遂どのの一件で自分の不明を思い知らされましたわい。

毛遂どのの三寸の舌は百万の大軍にもまさる。わしはこれから人を評価するのはやめますわい。

25

平原君は毛遂を客分として最上位の待遇を与えて報いたのである。

一方、楚は宰相の春申君(四公子の一人)を将軍として援軍を送ることを決定した。

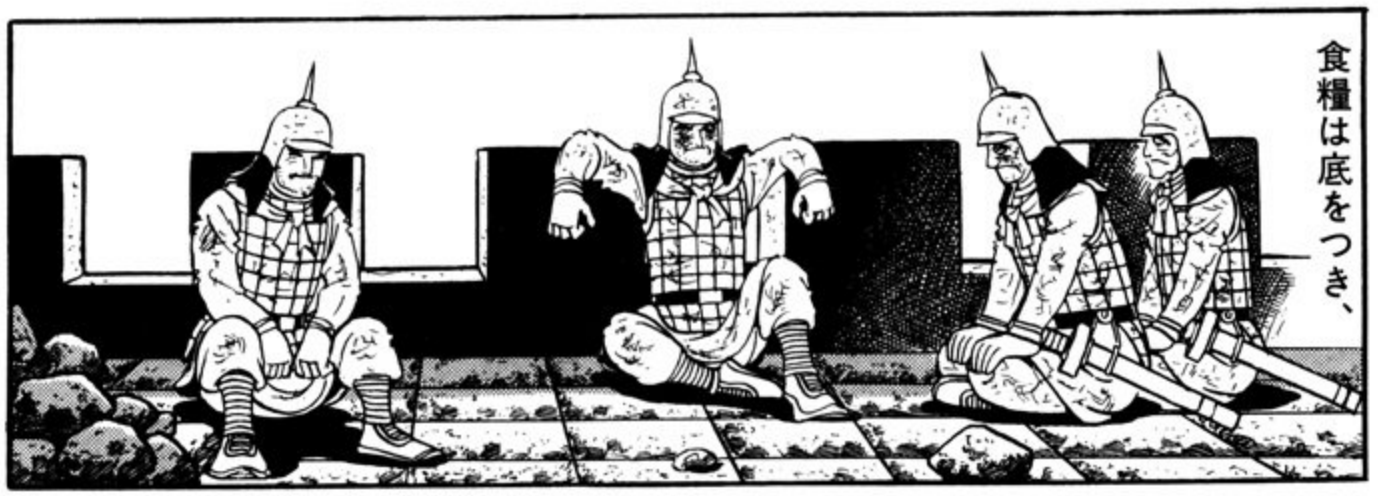
26

また魏でも信陵君(四公子の一人)が勝手に国軍を動かし趙を助けようと動いた。

だがその間に
秦は邯鄲に
猛攻撃を加え
……

27

兵士は懸命に
防戦したが
もはや敗色が
濃厚となった。



28

人骨が燃料の代用となった。

武器もなくなり兵卒は木をけずって槍や矢を作った。

29

邯鄲(かんたん)陥落は時間の問題であった。

宿場役人の李同と申します。平原君さまに申しあげたきことがございます。

おうなんじゃ。

30

あなたさまは趙の滅亡を他人事のようにみつめておられます。

馬鹿を申すでない。趙が滅びればわしもおしまいだ。

では今の民衆の
現実をなんと
見られます。

?

いま人々は
自分の子を交換して
殺して食糧とし、
木をけずって
武器として
趙のために
戦っております。

ところが
平原君さまの
側室数百人は
あいもかわらず
きれいな着物をまとい、
うまいものは
食べ放題……

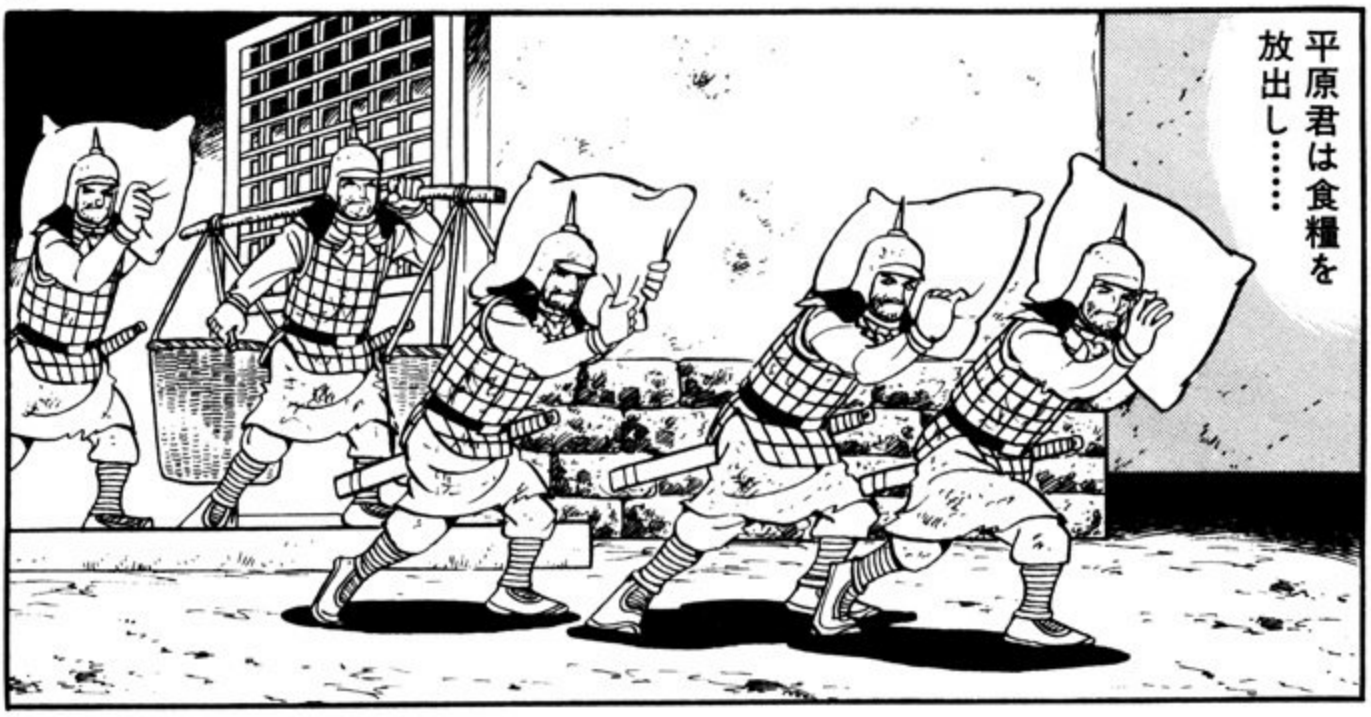
31

兵卒が木の槍で
戦っているのに
お屋敷の中は
銅の器物で
うまっております。
趙が滅びれば
あなた様の後宮も
財産もなくなりまする。
わたしが
他人事のように見て
いると申したのは
その事なのです。

なにとぞ趙のために
ご夫人方も働かせ、
武器を作るために
銅製品を放出して
くださりませ。
人々は感謝するで
ございましょう。

李同とやら、
よくぞ申してくれた。
女達にも働かせよう。
屋敷の中で
使えるものは
すべて放出しよう。
ははーっ。

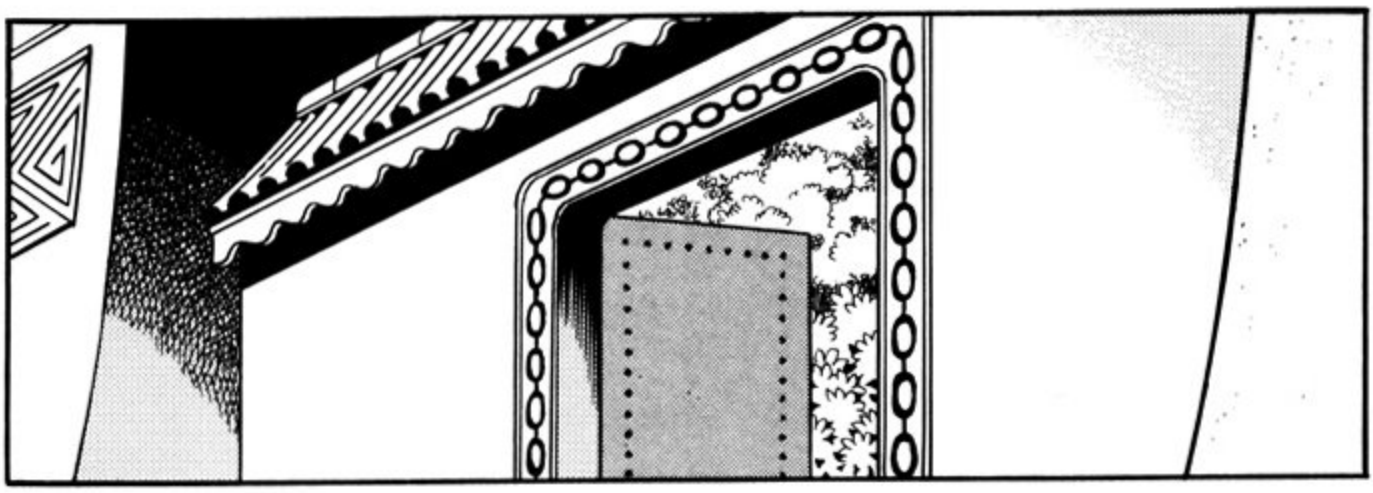
32


平原君は食糧を
放出し……

武器に使えるものはすべてはきだした。

33

女達も炊出しや負傷兵の看病にあたらせた。



平原君さま、人々は生気を取り戻しました。有難うございました。
そうか、それはよかった。

34

ははは、みてみよ、そちの進言のおかげで屋敷の中は空になったわ。
申しわけございませぬ。

まだ役に立つものが残っていれば持っていってよいぞ。

ありがとうございます。

平原君さまに一つお聞きしたいのですが、楚は援軍をさしむけましょうか。
ああ、それは間違いなく来る。

楚と趙は誓約を交わしたのじゃ。これを反古にすれば楚は天下の諸侯から相手にされなくなる。楚とてそれくらいのことは百も承知だ。

35

それにのう、魏の信陵君も援軍にかけつける。その知らせも入っている。

では両国の援軍が到着するまで持ちこたえれば趙は助かりますな。

なんだ？

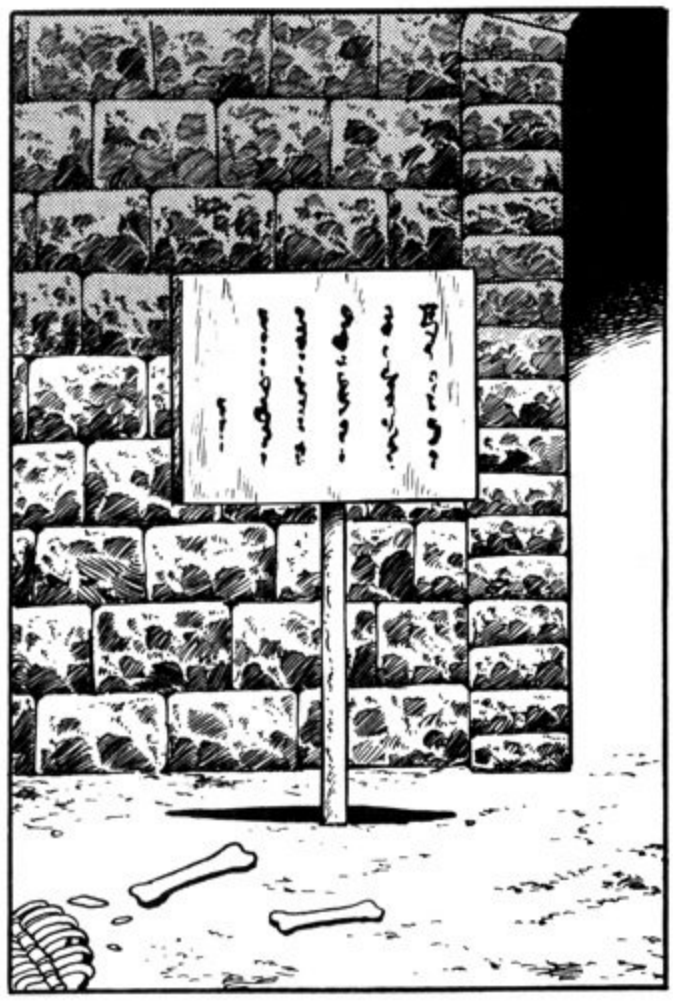
決死隊をつのりたいと思います。なにとぞご許可を。

36

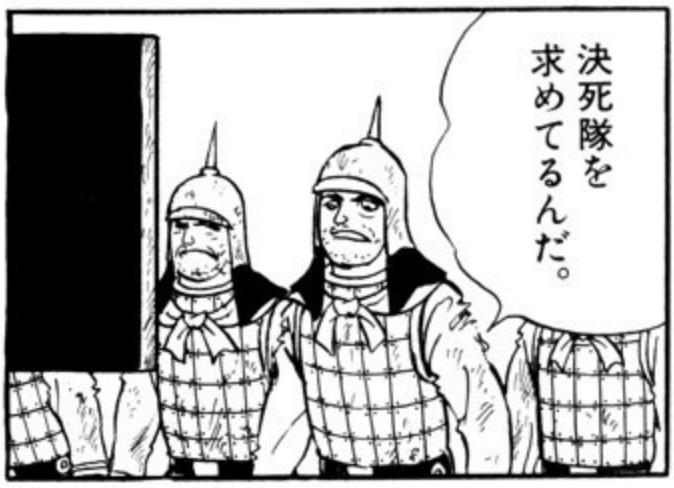
37

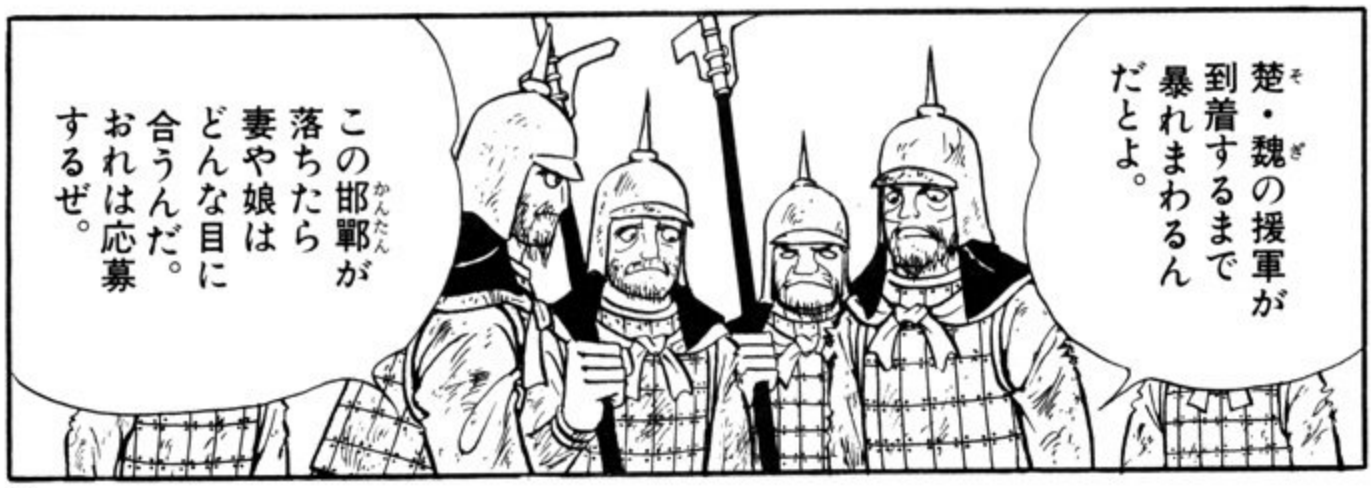
そうか うれしい言葉だ。存分にやってくれい。

ははーっ。



なんだ
なんだ。


決死隊を
求めてるんだ。


楚・魏の援軍が
到着するまで
暴れまわるん
だとよ。
この邯鄲が
落ちたら
妻や娘は
どんな目に
合うんだ。
おれは応募
するぜ。

38

おれは子供を
交換して
食っちまった。
その罪ほろぼしを
させてもらう。

おれも応募するぜ。

決死隊の応募者は
三千に達した。

39

李同(りどう)ひきいる
決死隊は
出撃した。

決死隊は一直線に秦に突入していった。

死ぬ気の軍勢である。一歩も退かずに戦った。

40

人間死ぬ気になると
その力は五倍にも
十倍にもなった。
秦軍はたまらず
後退をした。

それを見ると
決死隊は
さっと引き揚げた。

41

城内で休息を
とり……

再び出撃していった。

42

その攻撃は
昼夜を問わず
くり返された。

しかし秦軍もこの決死隊の動きに閉口し、陣を三十里後退させたのである。

この時
楚の春申君
……

44

魏の信陵君の
ひきいる援軍が
到着した。
決死隊の時間
かせぎは成功
したのである。

45

とくに
政治家としても
兵法家としても
すぐれていた
魏の信陵君の働きは
めざましく、
秦軍を次々と
撃破していった。

46

形勢は一変した。
秦軍は敗走に
敗走をかさねた。

秦の昭王は
あわてて
白起(はくき)将軍に
出陣を命じた。

だが白起(はくき)は
その命令に
頑として応じ
なかった。

47

怒った昭王が
白起(はくき)に自決を
命じたのは
この年であった。

趙は滅亡をまぬがれ
再び平和を
とり戻した。
戦死した李同は
その手柄によって
父親に領地が与えられ
李侯と
呼ばれるようになった。

48

第2話

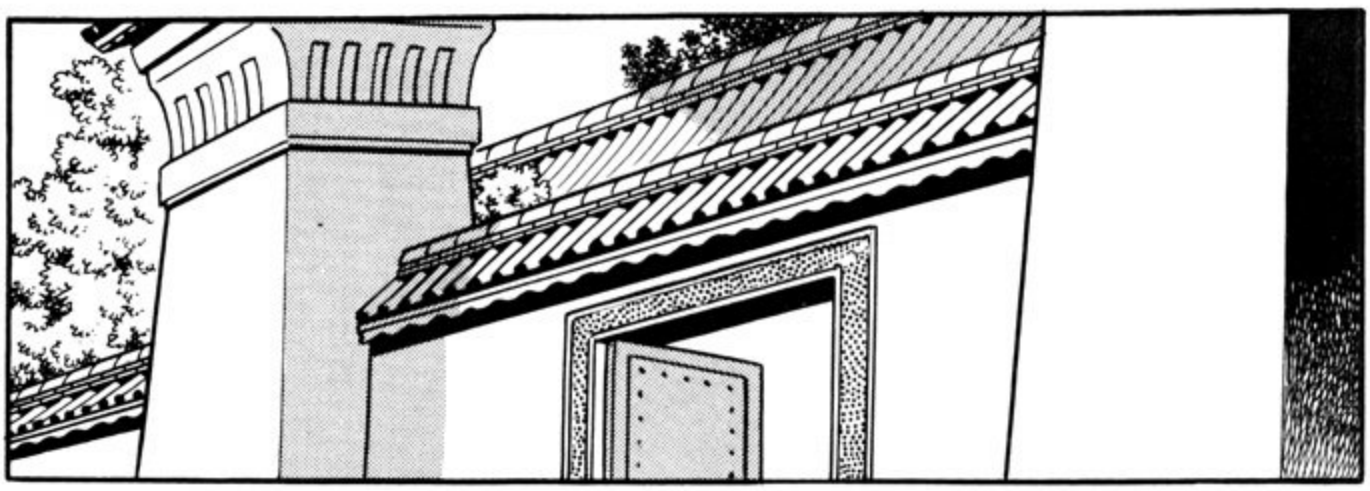
老いの野望

戦国時代の四公子の一人、
楚の春申君は
姓は黄、名は歇という。
楚の三十七代頃襄王に
仕えていたが、
学識もあり度胸も備わり
楚王に高く
評価されていた。

秦は追討ちをかけるように白起に楚制圧を命じ、さらに服従している魏や韓にも協力するよう命じた。

3

こんな時に黄歇は楚の使者として秦にやってきたのであった。

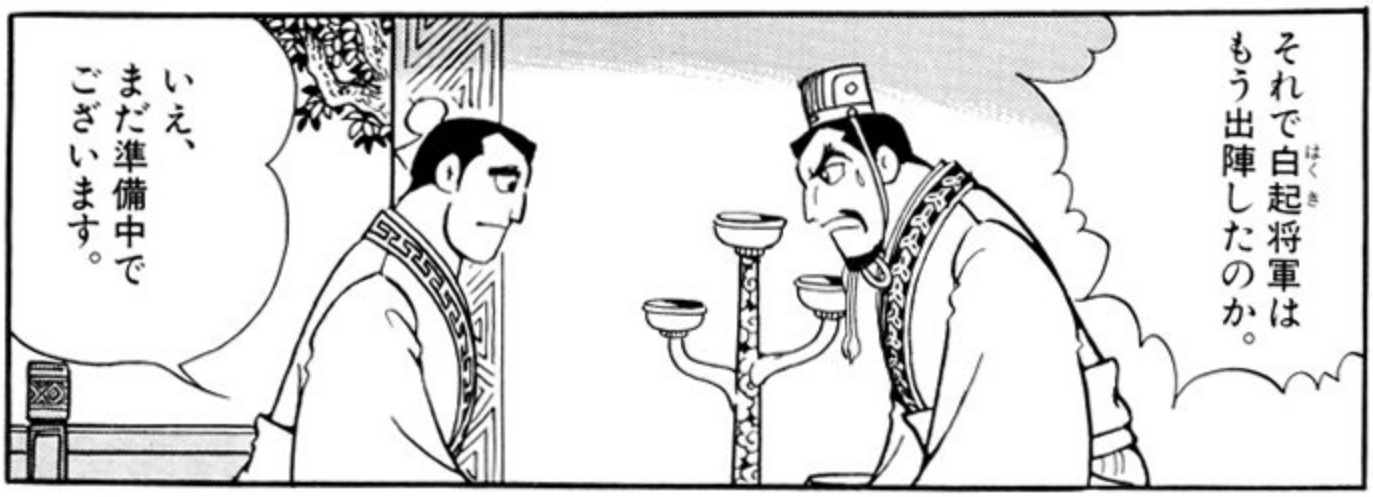


なにっ、秦王が楚攻略を白起将軍に命じたと。
はい、そればかりか魏や韓にも出兵するよう命じたそうにございます。

4

なにっ、魏や韓まで軍勢を出すのか。

白起将軍一人でも手こずるのに魏や韓まで加われば楚は滅亡する。

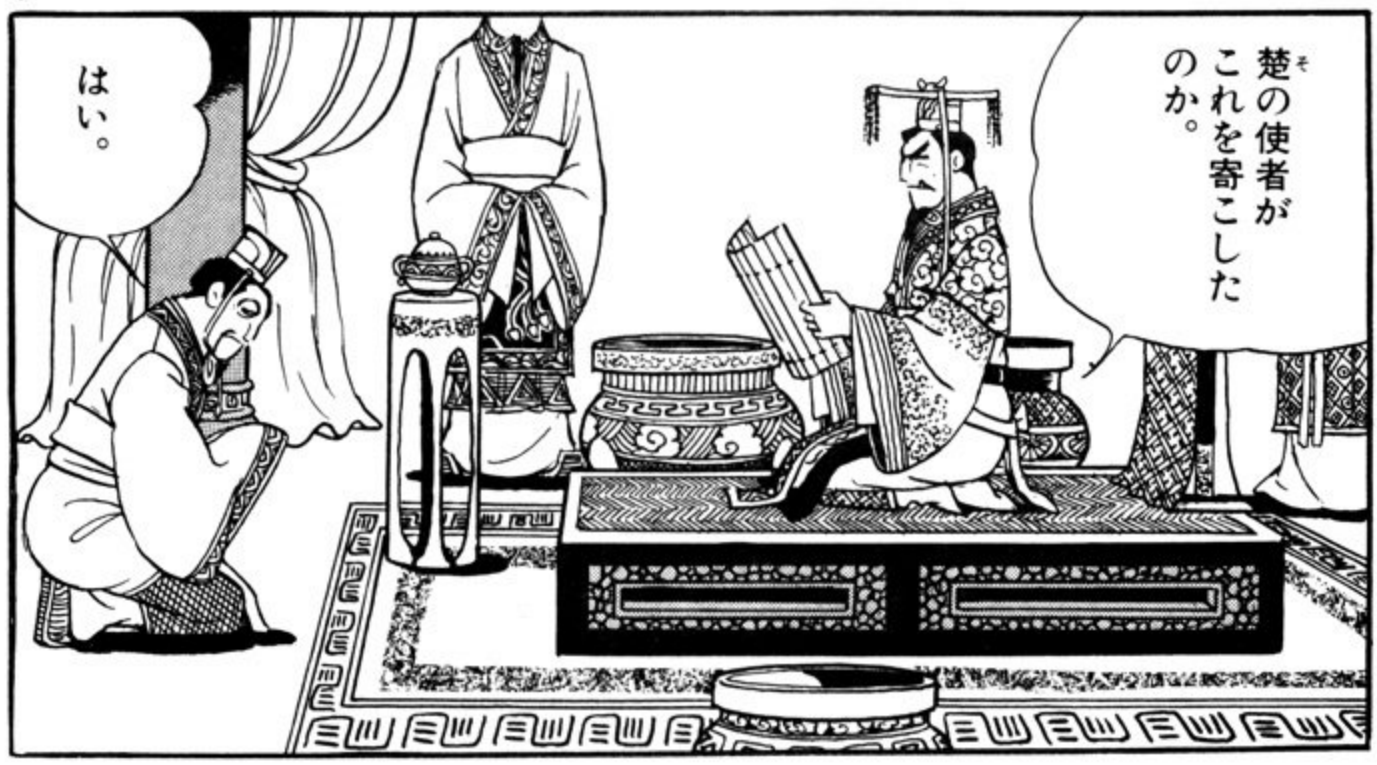

それで白起将軍はもう出陣したのか。
いえ、まだ準備中でございます。

そうか、よく知らせてくれた。
はい。

5

黄歇はいそいで秦王に書簡をしたためた。

6



7

そうなれば駄犬でもその虎を襲うことはできまする。

このようなことを申す理由は、魏や韓はへりくだっておりますが、心から服従しているのではなく目前の危機を逃れるための服従にございます。

なぜなら秦は魏や韓に恩をほどこしたことはなく、累代うらみをかっております。

魏や韓の兵士たちは親子兄弟つぎつぎと秦との戦いで戦死し……

8

国境付近にはその骸骨がまだゴロゴロところがっております。

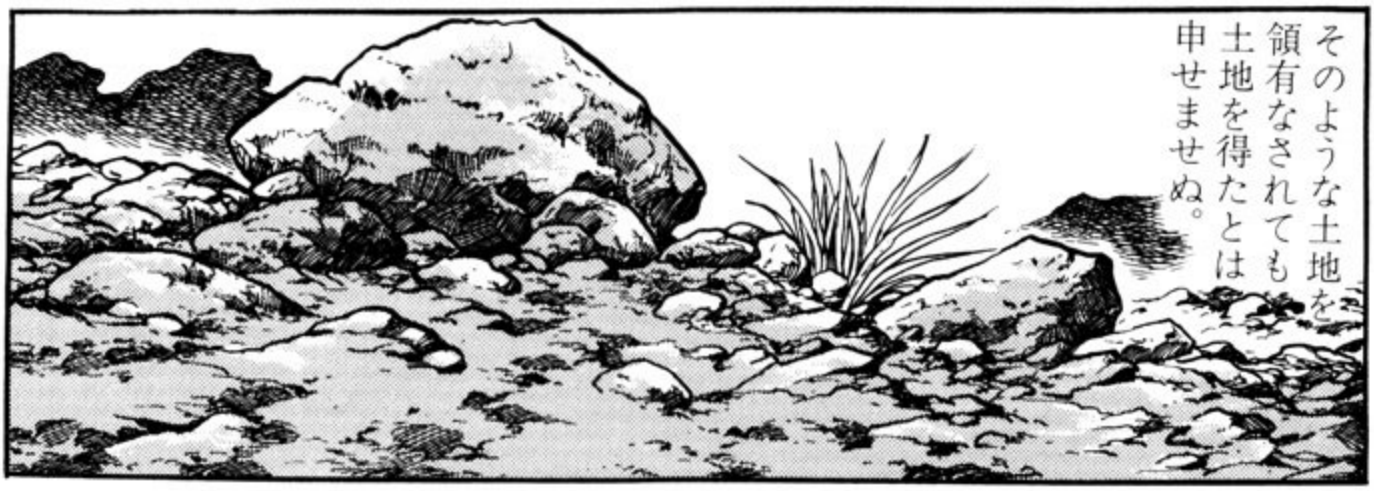
9

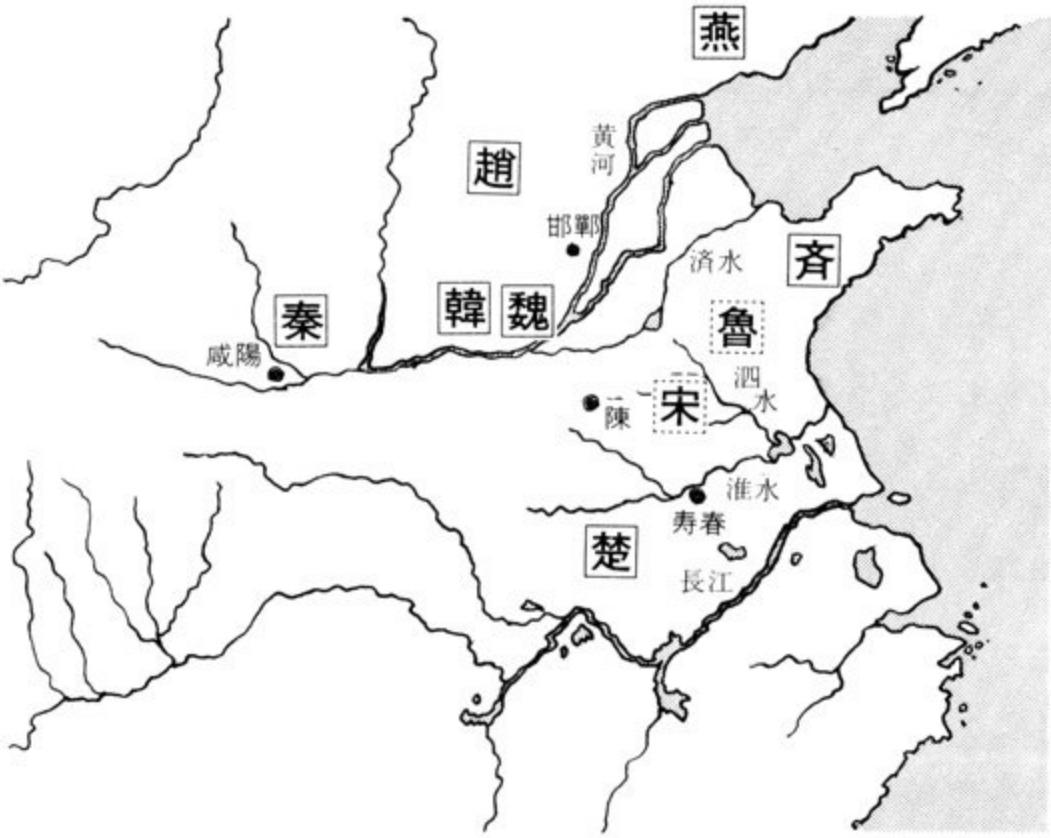
宗廟は焼かれ、
その恨みは大変なものです。
これで魏や韓が心から
服従していると
お考えでしょうか。
隙あらばと狙って
いるとお考えに
なるべきです。

それに楚を攻める時
いずこより兵を
お出しになりまするか。
魏や韓の路を借りる
おつもりならば、
背後より襲われ
先発した秦軍が
帰って来ぬことを
お覚悟すべきです。

10

もしまた路を借りぬ
おつもりならば、
陳の随水西岸より
お攻めなされるほかは
ございますまい。
あそこは川幅ひろく
すべて山林渓谷で
農業の出来ぬ
土地でございます。





魏はもとの宋の地を取り尽し、斉が南にむかって攻めれば泗上の地はその手に落ちましょう。

※泗上＝泗水の北側

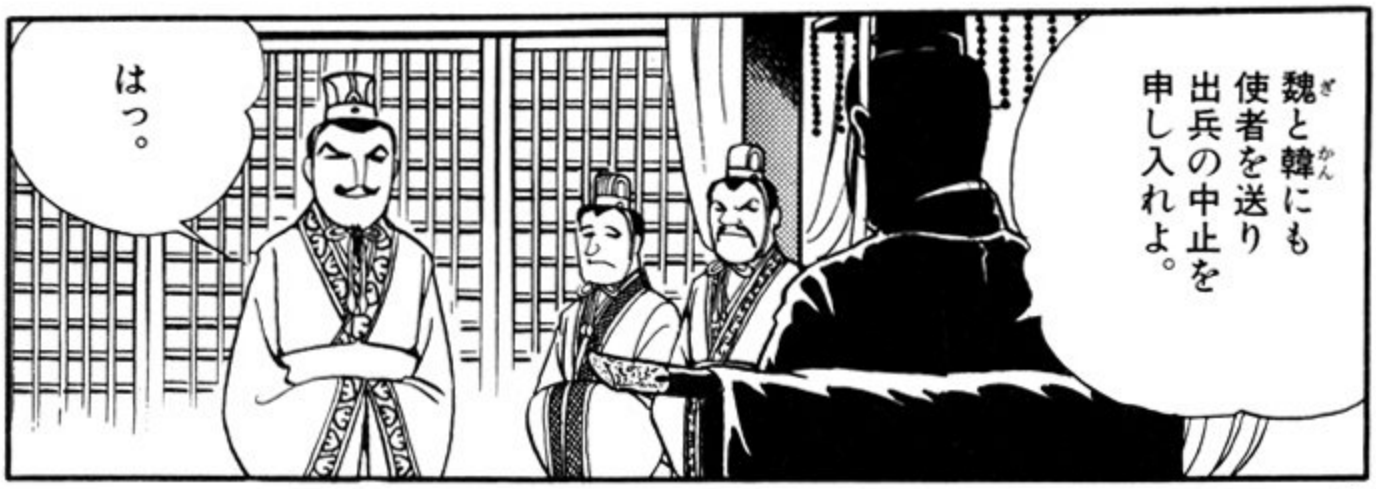
これらの土地は平原にて交通の便もよく、よく肥えた土地ばかりです。秦と楚が戦っている間にこれらの地を他国が手に入れ、昔のように強国となっていきましょう。

12

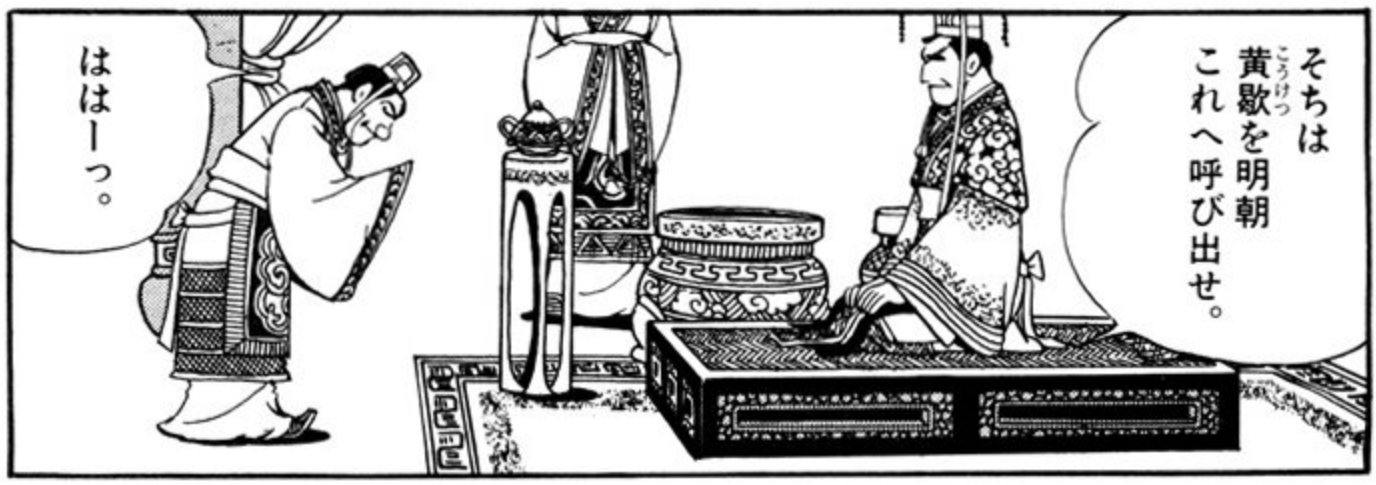
秦と楚が戦うことは敵国を利するだけで、より強力な国を育てるようなものです。秦と楚は同盟を結ぶことが両国の安全となると考えまする。

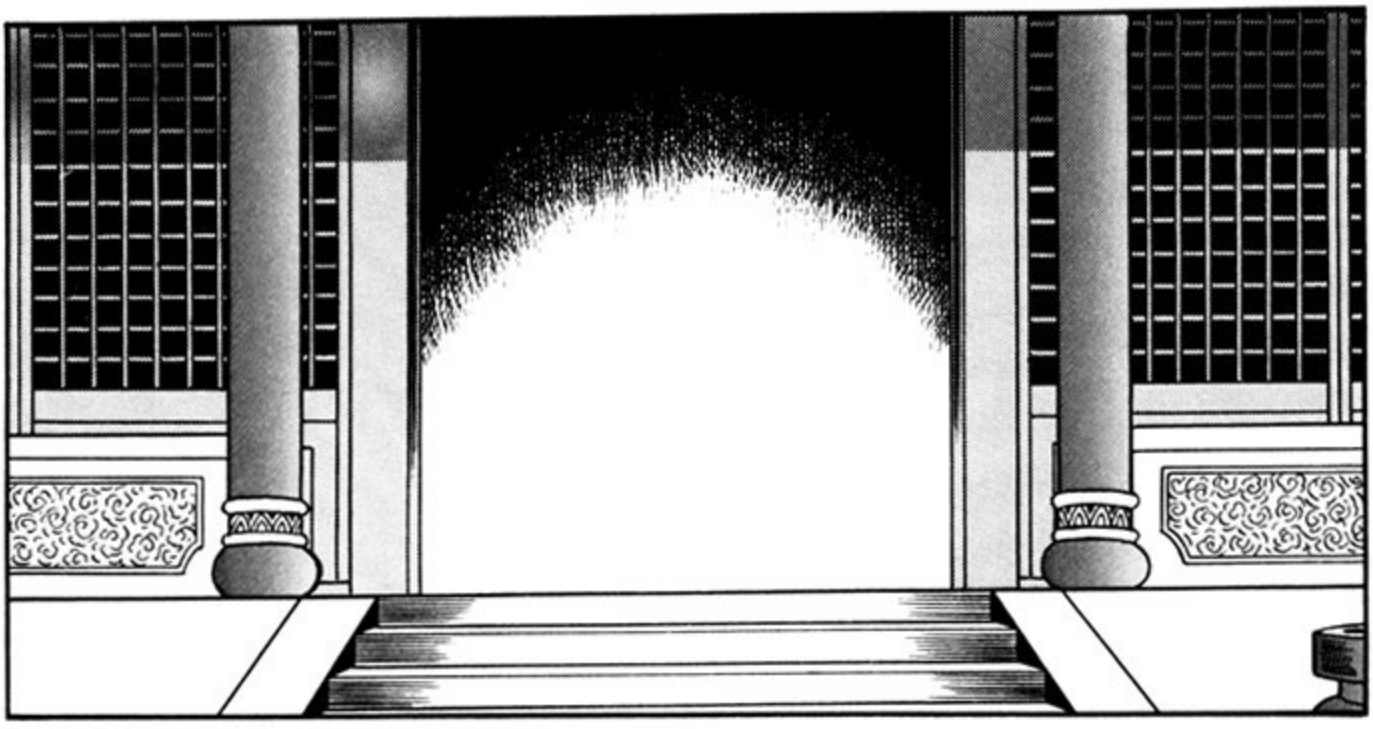
ふむう、まさに黄歇の申す通りだ。

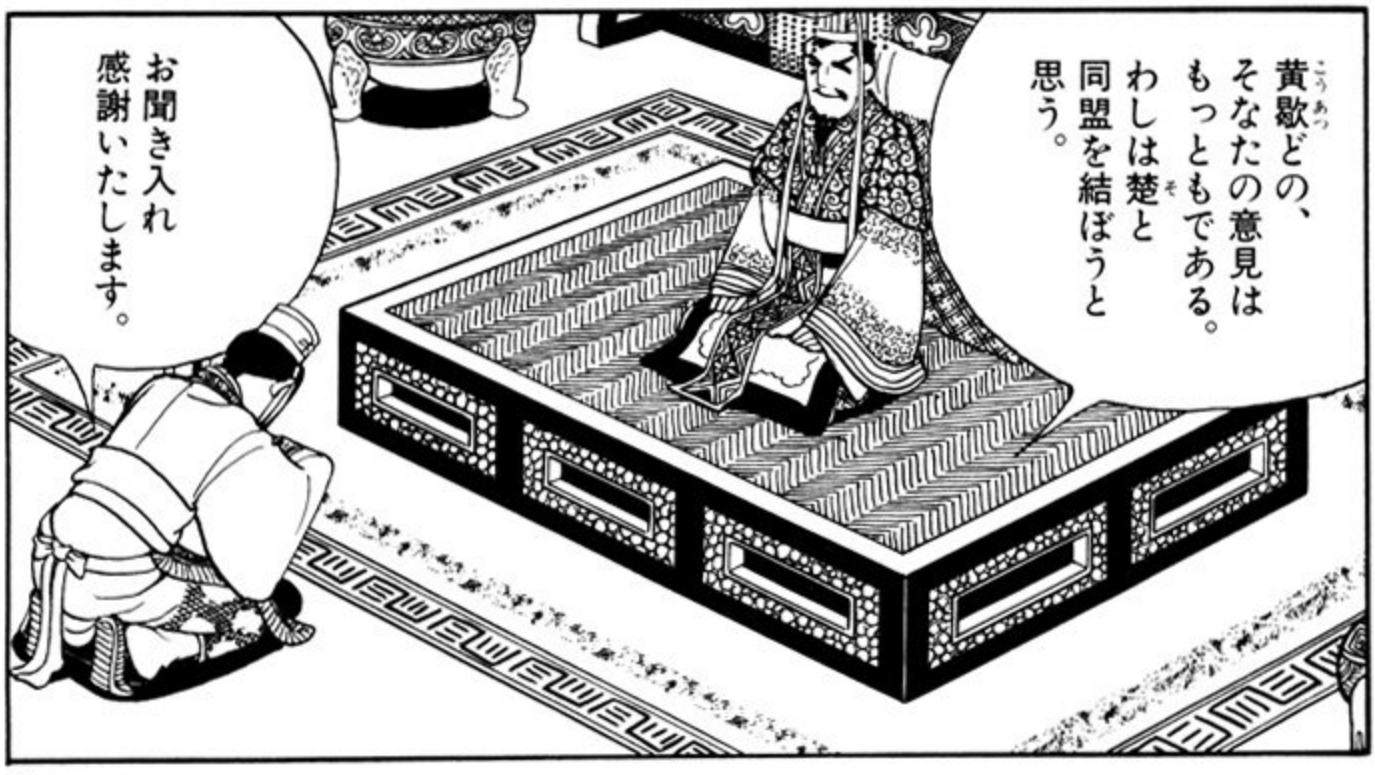
これ、すぐに白起に出陣を中止させよ。
はっ。


魏と韓にも使者を送り出兵の中止を申し入れよ。
はっ。

13


そちは黄歇を明朝これへ呼び出せ。
ははーっ。




黄歇どの、そなたの意見はもっともである。わしは楚と同盟を結ぼうと思う。
お聞き入れ感謝いたします。

14

なんでございましょう。

……
ただ同盟を結ぶには条件がある。

15

こうして
黄歇は楚に
引き返した。

頃襄王は
太子完を人質に
差し出すことを
認め、黄歇を
太子の付け人として
秦に行かせた。

16

これで
両国の同盟は
まとまった。
楚は黄歇の一通の
書簡で、滅亡を
まぬがれたのである。

太子と黄歇が秦で暮らすようになって数年が流れた。

なにっ、頃襄王が病で倒れなされたと。

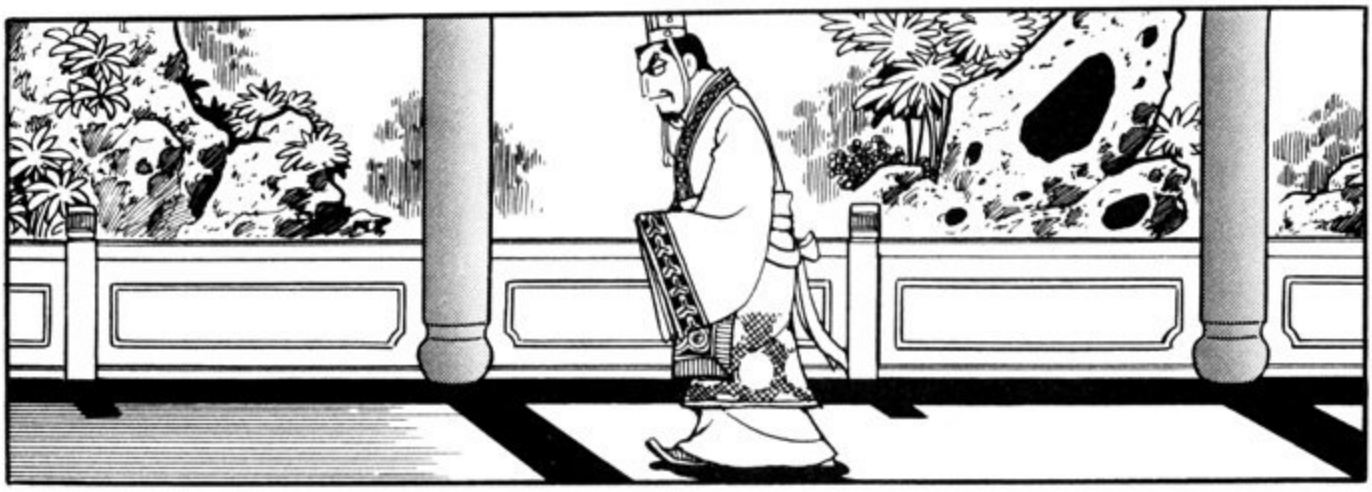
はい、重病にございます。

17

太子さまが帰国なさらねば他の公子が楚王となりましょう。

わかった、命にかえてもかならず帰国させる。

はい。

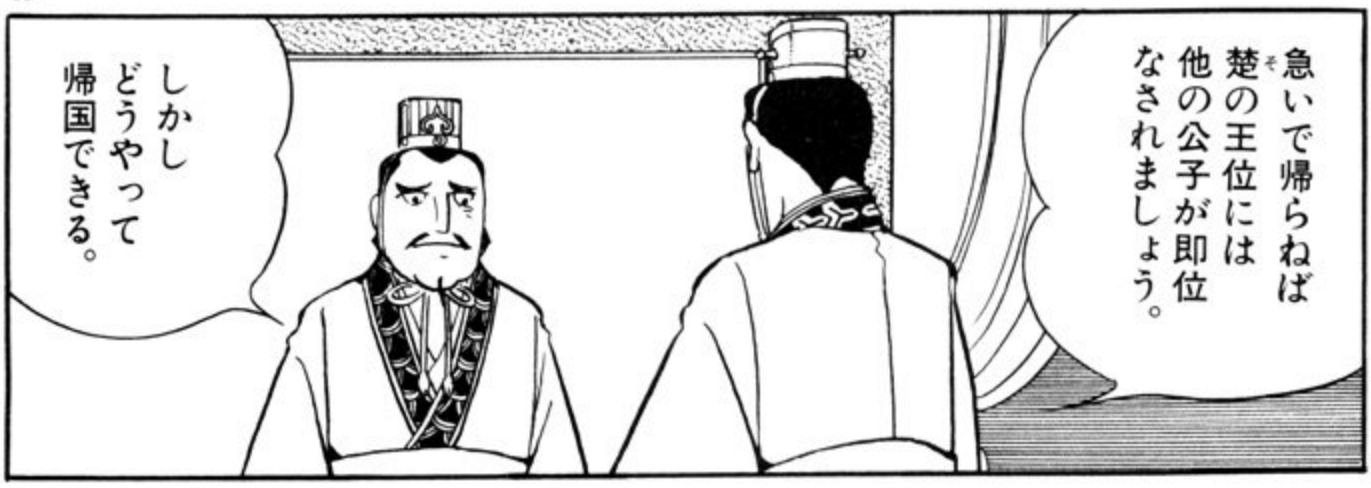


完さま、一大事にございます。
?

頃襄王が病に倒れたそうにございます。

なにっ。

18


急いで帰らねば楚の王位には他の公子が即位なされましょう。
しかしどうやって帰国できる。

農民に化けて関所を出て下さりませ。

しかし二人がいなくなればすぐに追手がかかるぞ。

それがしはここに残ります。わたしがここにいますればしばらく秦も気付きますまい。太子さまが無事逃げられたころを見はからって自首いたします。
それならそちは処刑されるぞ。

もちろんそれは覚悟の上でございます。

しかしそちを見殺しにはできぬ。

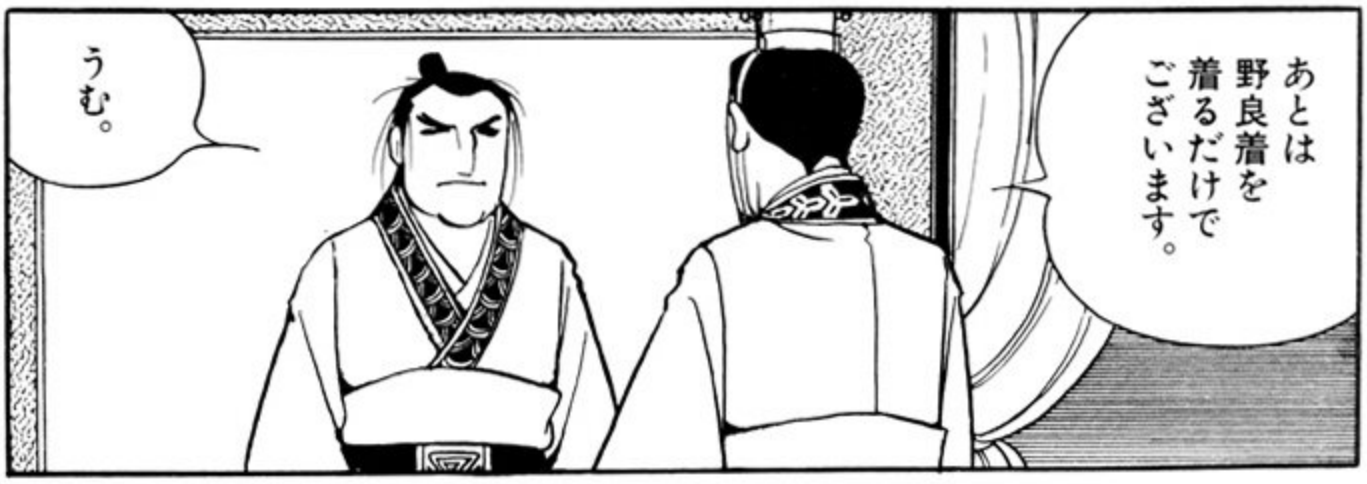
19

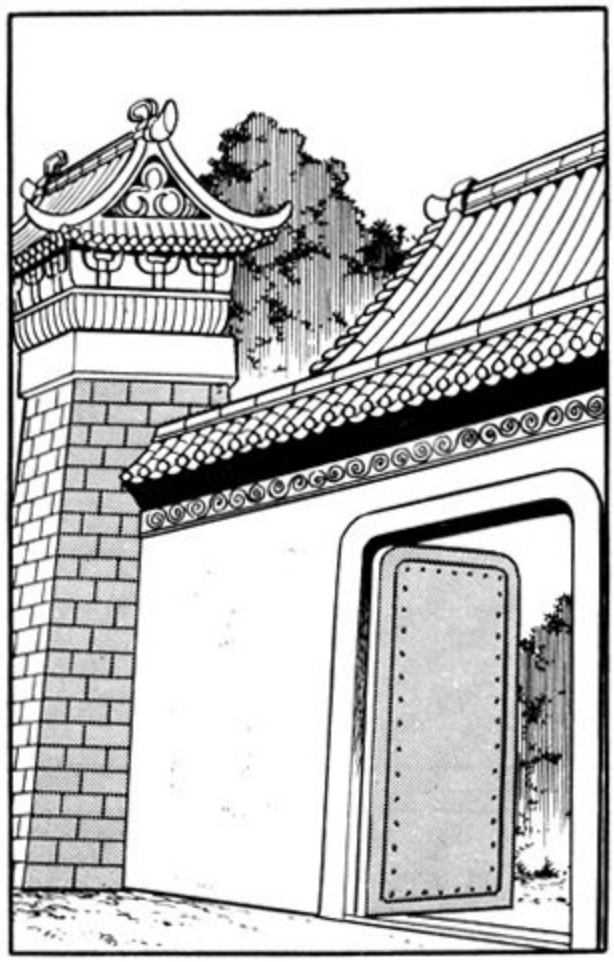
太子はここで人質として生涯を閉じられるおつもりですか。それに秦に楚を攻める口実を与えないためにも、わたしがすべての罪をかぶる必要があるのです。

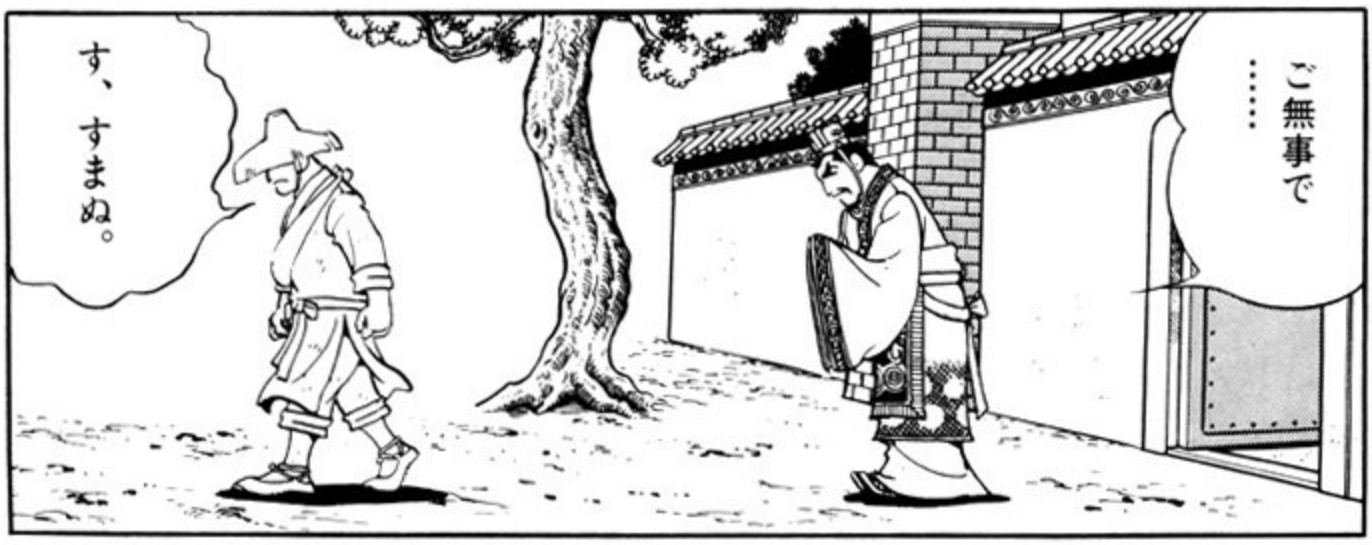
さあ、
髭(ひげ)も剃り
農民に姿を
変えてください。

髪の毛も
バサバサに
しておいた
ほうが良う
ございます。

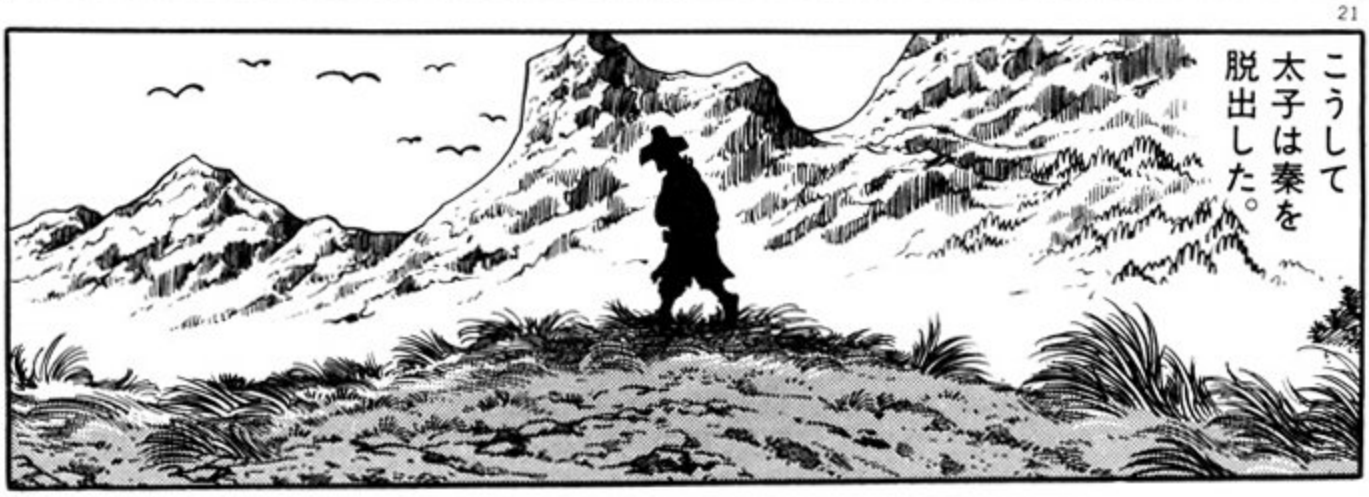
20


あとは
野良着を
着るだけで
ございます。
うむ。





21



黄歇は数日
なにげなくすごし、
それから出頭した。
……

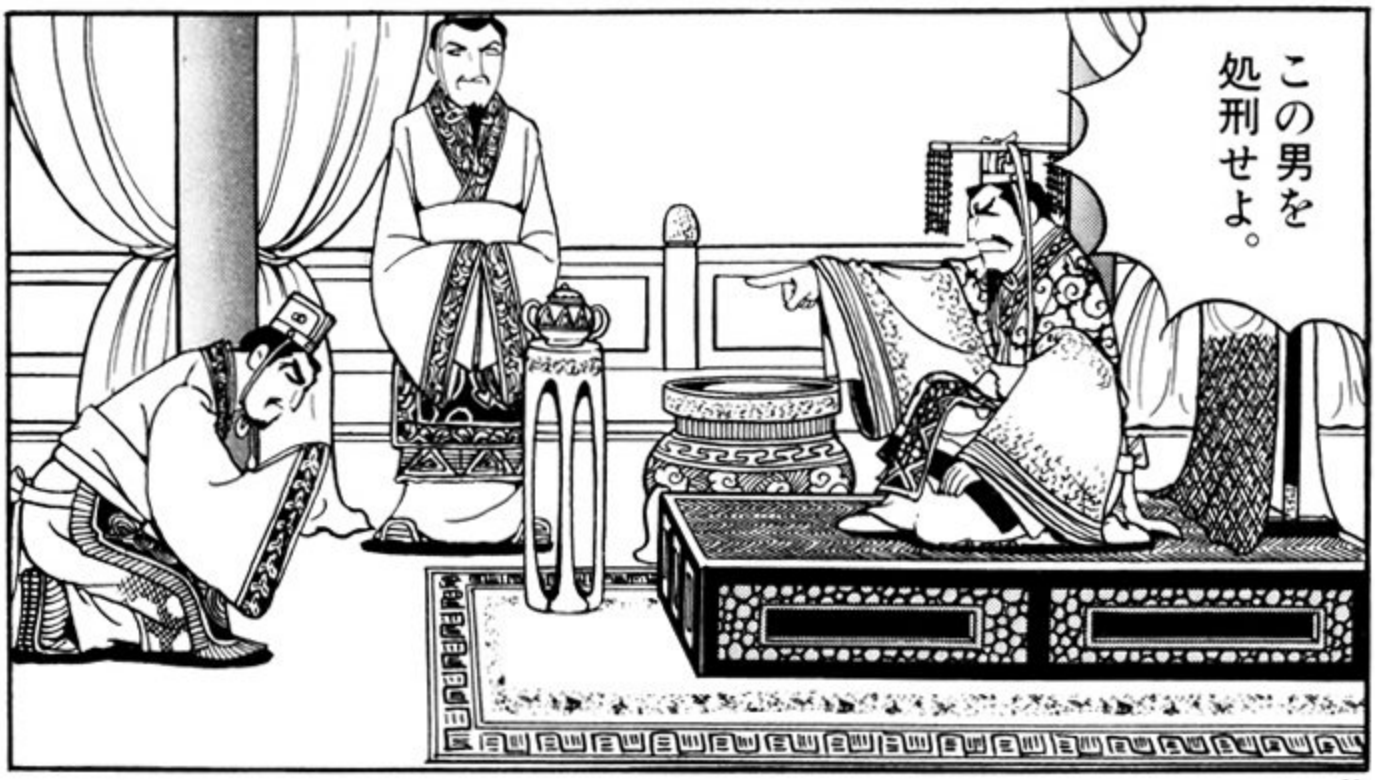
22

な、なにっ！
太子を
帰国させたと。

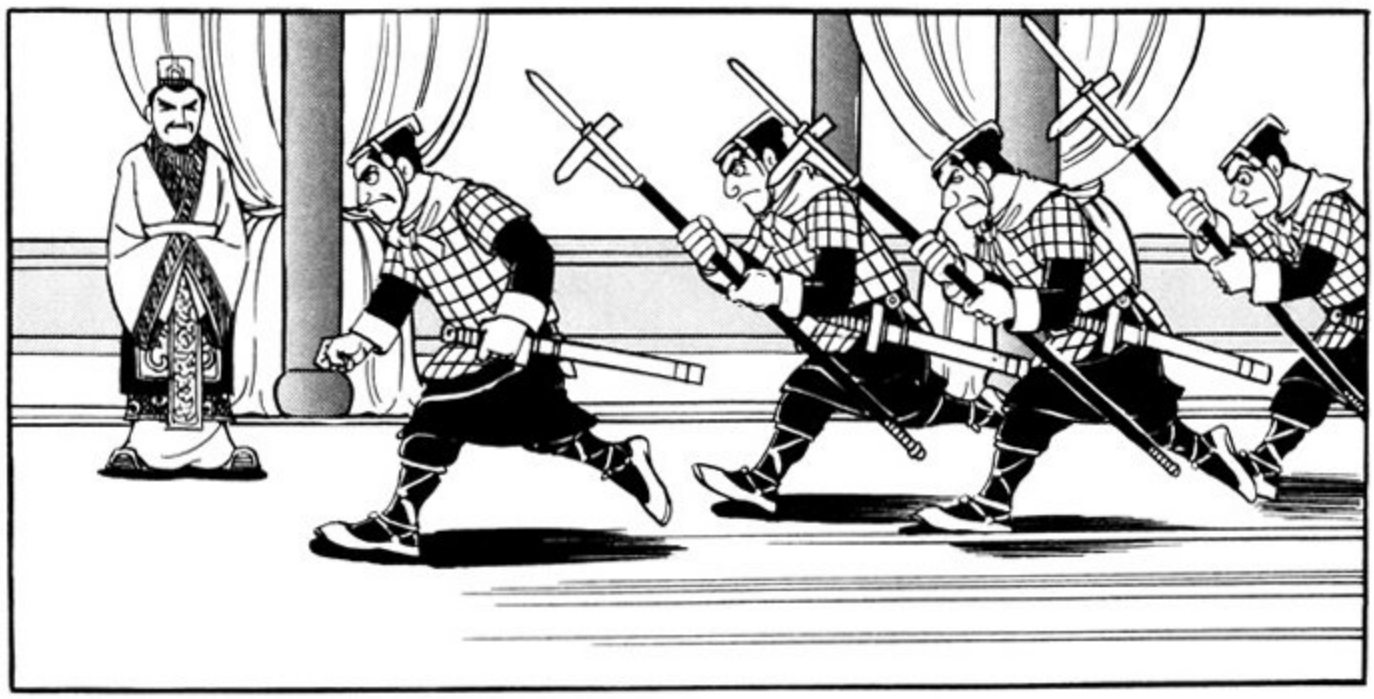
はい、
楚王が重病との
知らせが入り、
それがしの一存で
勝手に太子を
帰国させました。

それがしの罪は
死罪にあたりましょう。
何とぞ
死を賜りますよう
お願いいたします。

あたりまえじゃ、
同盟の約束を
勝手に破るとは
許さん。


この男を
処刑せよ。

23



24

黄歇どのは一命を投げだしてその主につくそうとしております。太子が即位すれば必ずや黄歇を重く用いるでしょう。それゆえ罪を問わず帰国させたほうが、楚との友好のために良いと思われまする。殺せば太子は秦に深い恨みを抱きましょう。

25

こうして黄歇は帰国を許されたのである。

黄歇が楚に帰国して
三か月めに頃襄王は
息を引きとった。

26

そして
太子完が即位した。
三十八代考烈王である。

黄歇よ、そなたのお陰で今日のわたしがある。命を張っての忠誠心、うれしく思う、これからもわたしを助けてくれ。

そなたを宰相とし十二県を与える。称号も春申君といたせ。
ははーっ。

27

春申君は天下から有能の士を集めて食客とした。その数は三千人にのぼった。

春申君が宰相になって三年めに秦と趙は長平で大合戦をし、趙は四十万の兵を失うという大惨敗を喫した。

28

趙は城六城を与えて和議をしたものの、秦は二年後、再び趙の国都・邯鄲に軍勢を出した。

趙は楚に援軍を求めた。
そして趙の平原君の
食客・毛遂の働きで
両国は同盟を結んだ。

29

楚は春申君を
総大将として
援軍を差し
むけた。

滅亡寸前だった
趙は、楚・魏の
援軍を得て
よみがえった。

30

秦軍は連合軍に
手痛い打撃を受け
敗走したのである。

春申君は楚をより強国にせんと努力した。前二四九年には魯を滅ぼし楚の領土とした。

31

さらに都を陳から寿春に遷都し、自分は呉の地に移って政治をおこなった。すべて秦の侵攻に備えての手配であった。

春申君の一つの悩みの
種は、孝烈王が
子宝にめぐまれなかった
ことである。
春申君は次々と
女性をお側にあげたが、
誰も子供を産まなかった。

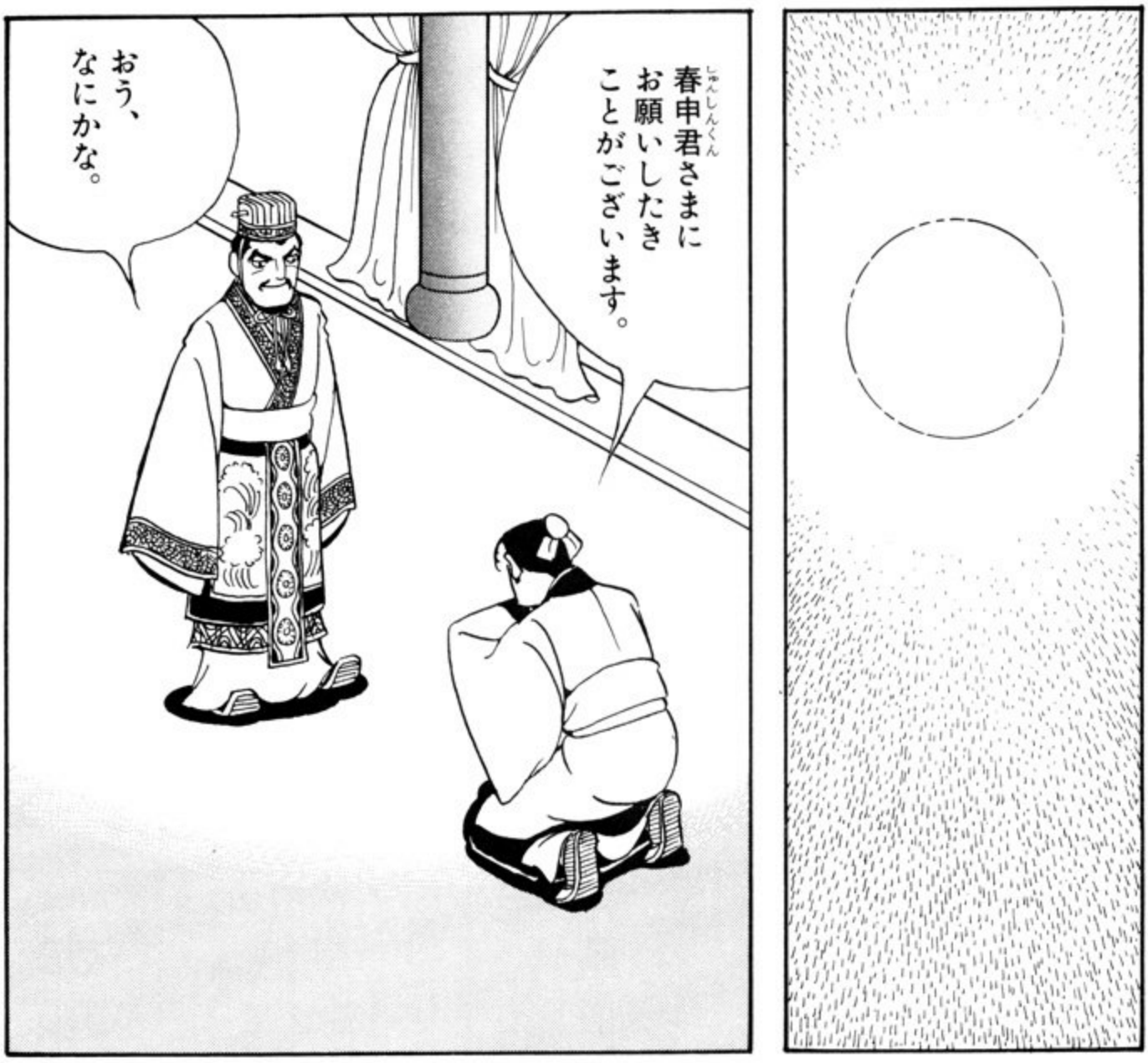
32

一方、その間に秦も
大きく変わっていた。
昭王も死亡し、
その後を継いだ
孝文王は老齢で一年で
荘襄王は三年で
この世を去り
十三歳の政が
秦王となっていた
（始皇帝）。

こんな時に
趙の李園という
男が春申君の
食客となった。

33

李園には美人の
妹がおり、考烈王の
側室にしたいと考え、
春申君に近づいた
のである。


春申君さまにお願いしたことがございます。
おう、なにかな。

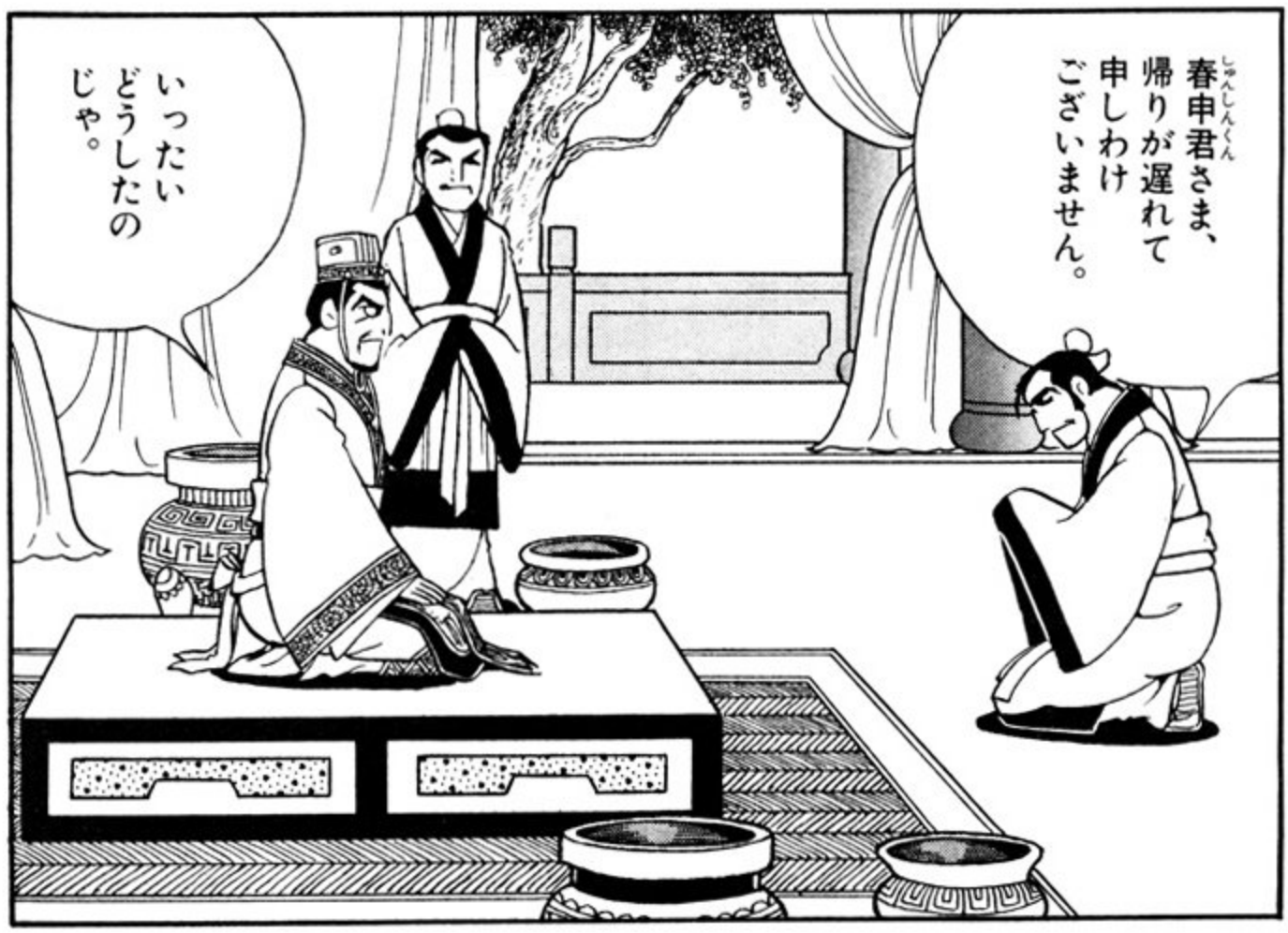
34

実は妹に縁談がおこっております。一か月ほどおひまをくださいませ。
ほう、それはめでたい話だ、よかろう。

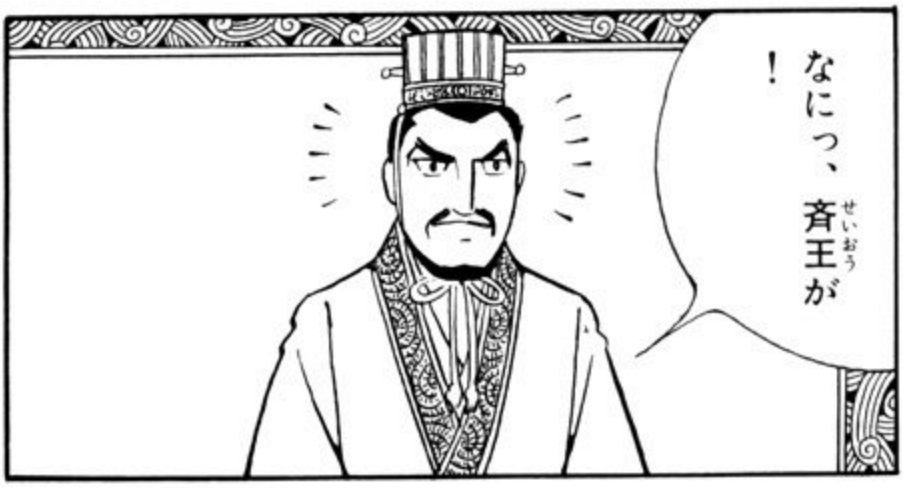
だがこれは春申君の気を引くための芝居であった。

李園は約束の期日よりもわざと遅れて帰ってきた。

35


春申君さま、帰りが遅れて申しわけございません。
いったいどうしたのじゃ。

はい、斉王が
わたしの妹をほしいと
使者をよこされました。
その接待で帰りが
遅くなりました。

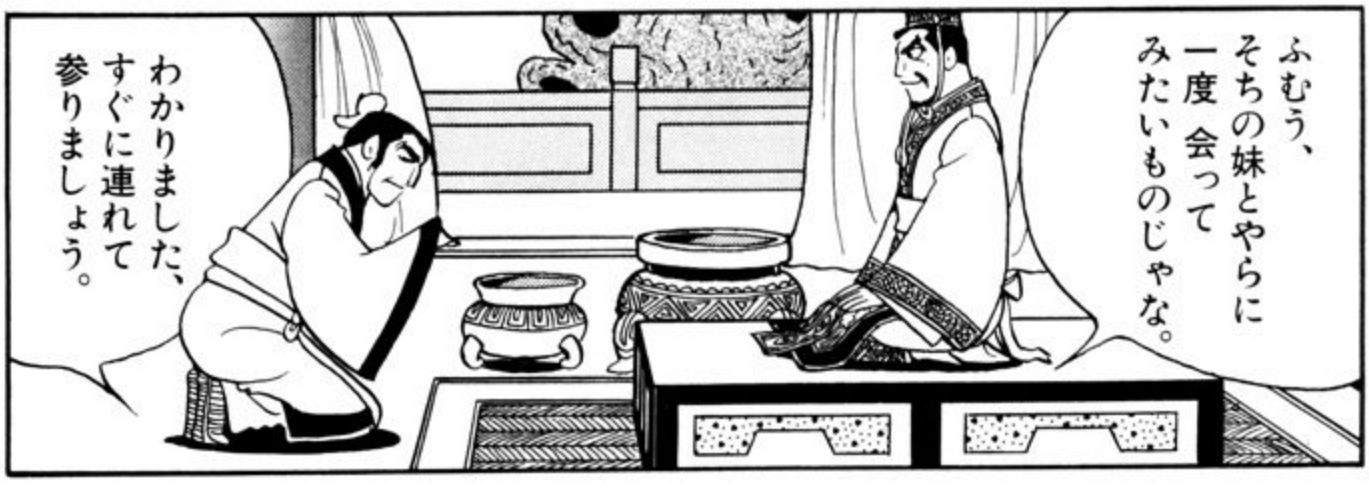

なにっ、斉王が
！

斉王が求めるとは
よほどの美人に
違いないな。

それで話は
まとまったのか。

いえ、ご使者の
話だけ受けたまわって
きたのです。

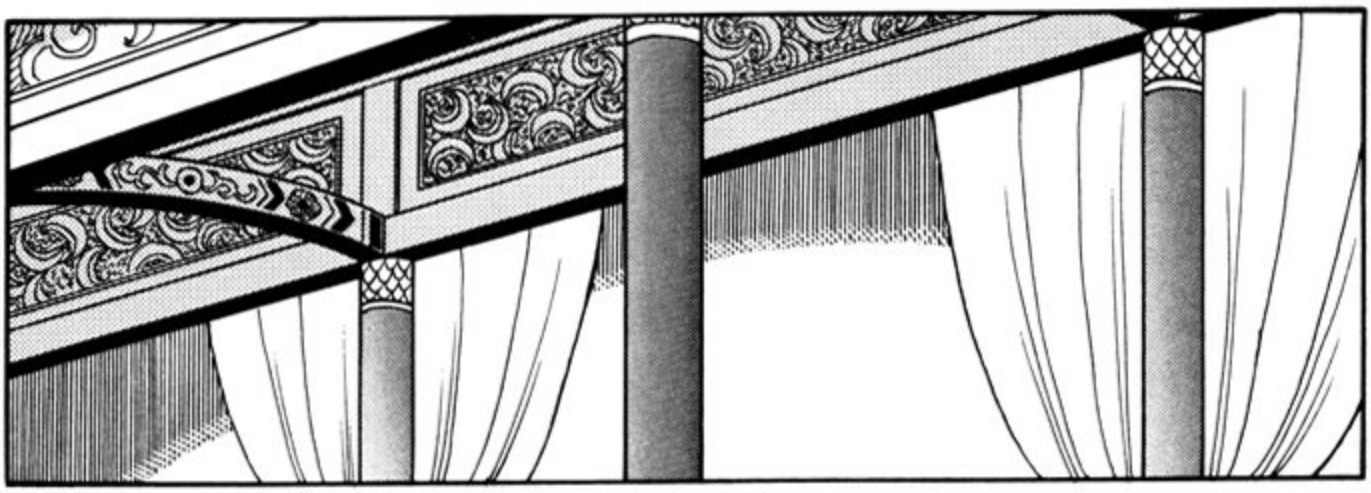
36

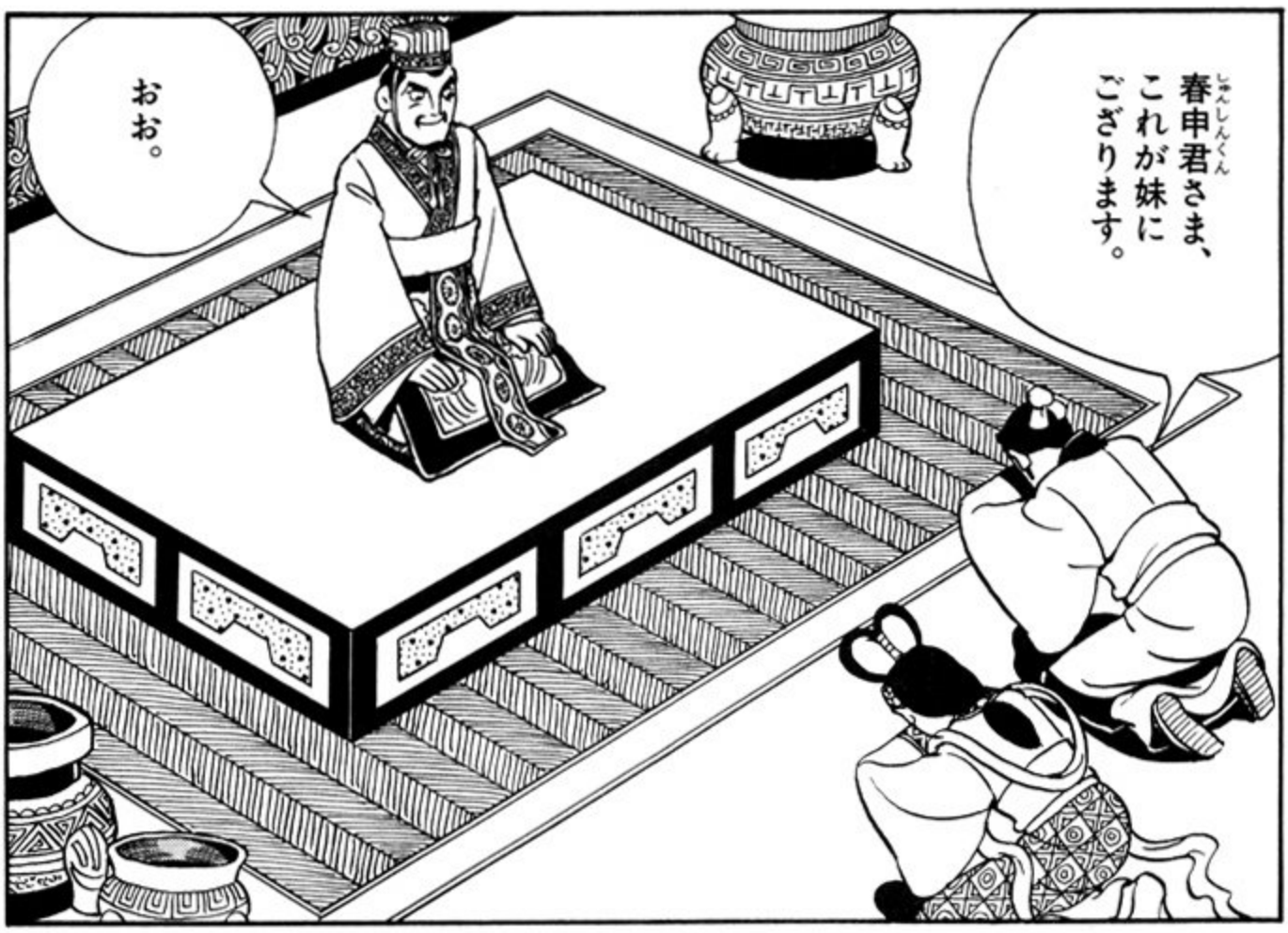

ふむう、
そちの妹とやらに
一度 会って
みたいものじゃな。
わかりました、
すぐに連れて
参りましょう。

李園は再び
趙に引き返した。

37

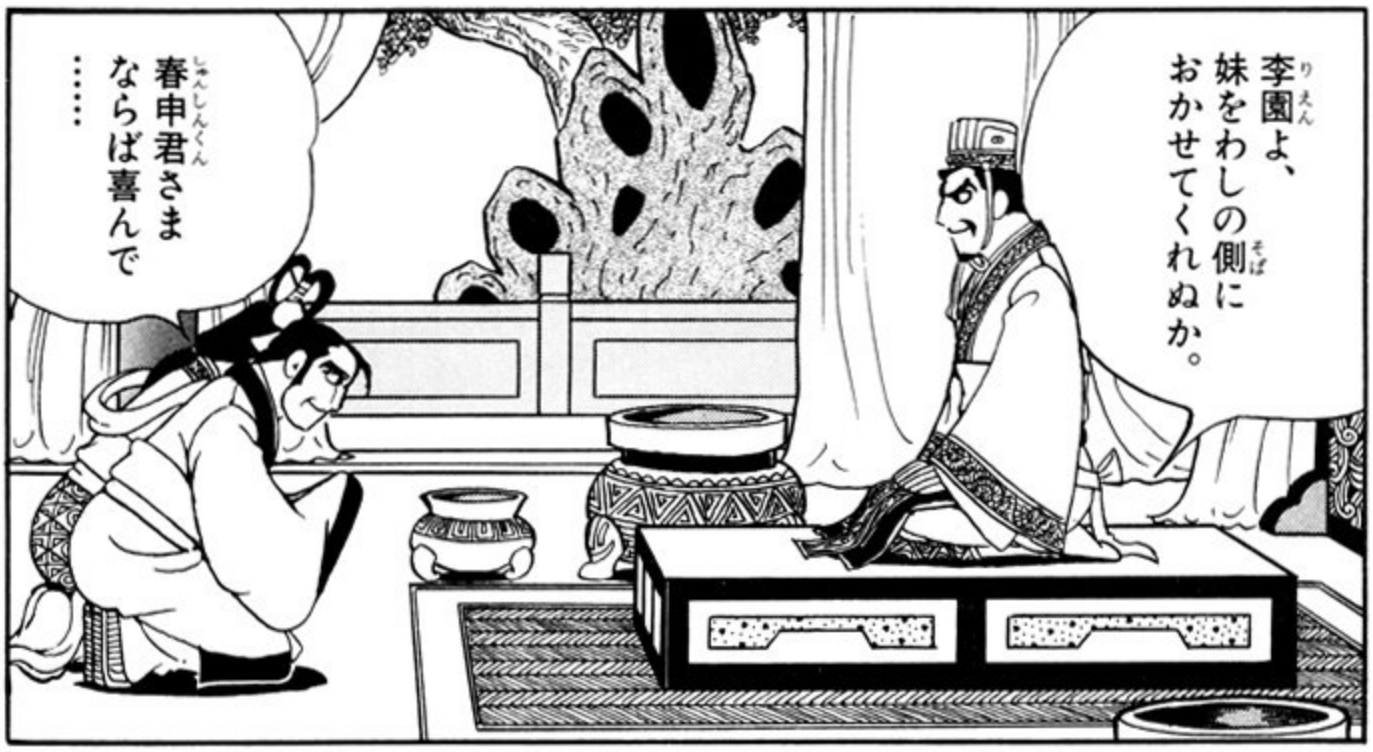
そして妹を
連れて帰って
きた。



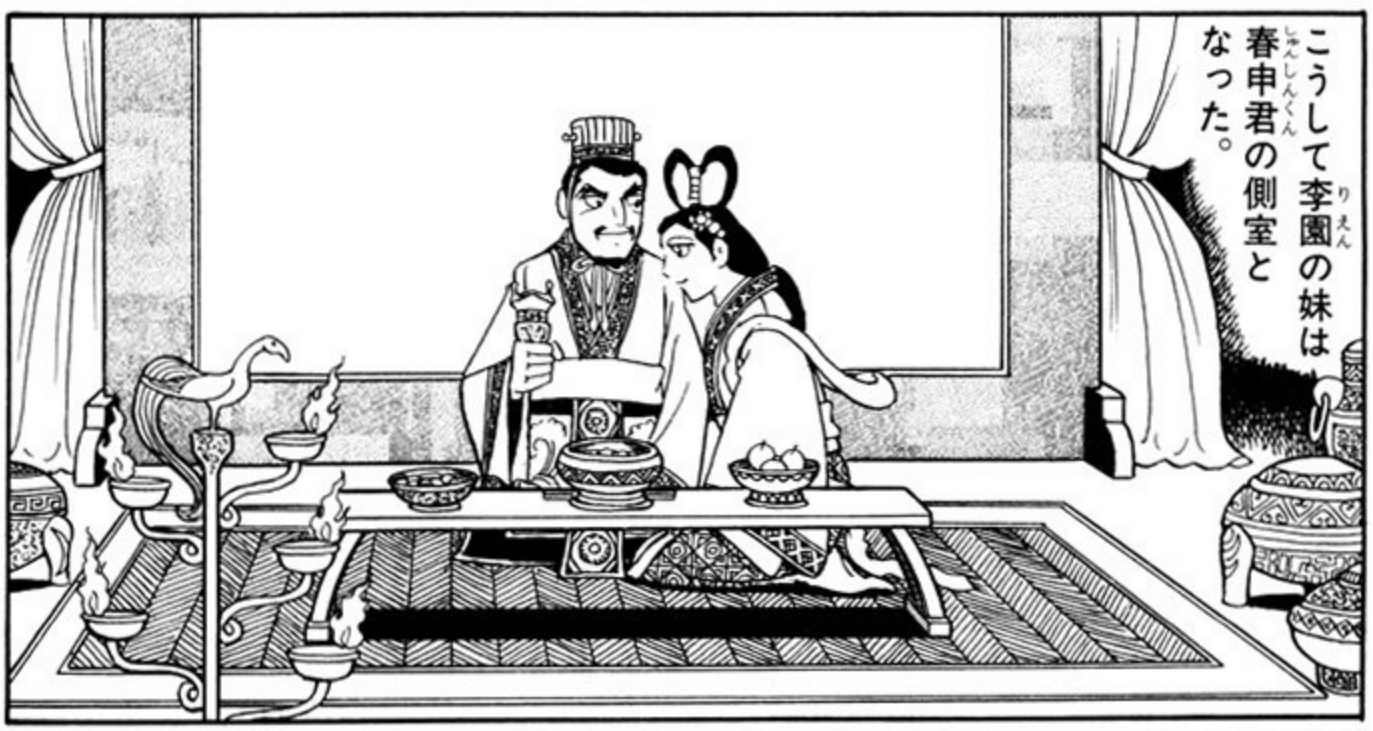


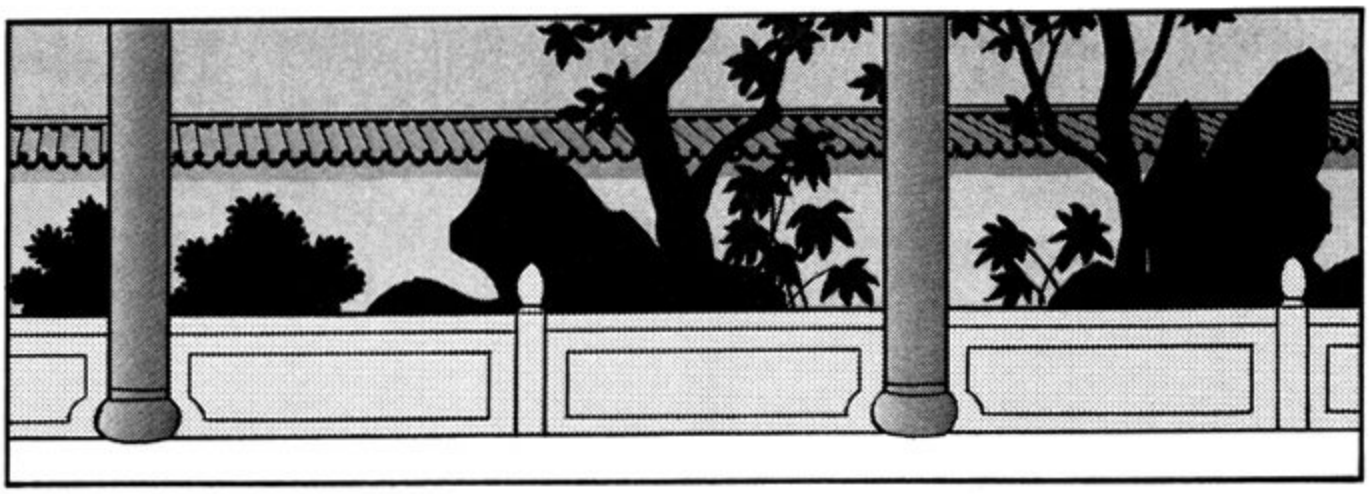
38

これは美しい。
斉王が求めたと
いうのも当然じゃ。


李園よ、
妹をわしの側に
おかせてくれぬか。
春申君さま
ならば喜んで
……

39


こうして李園の妹は
春申君の側室と
なった。



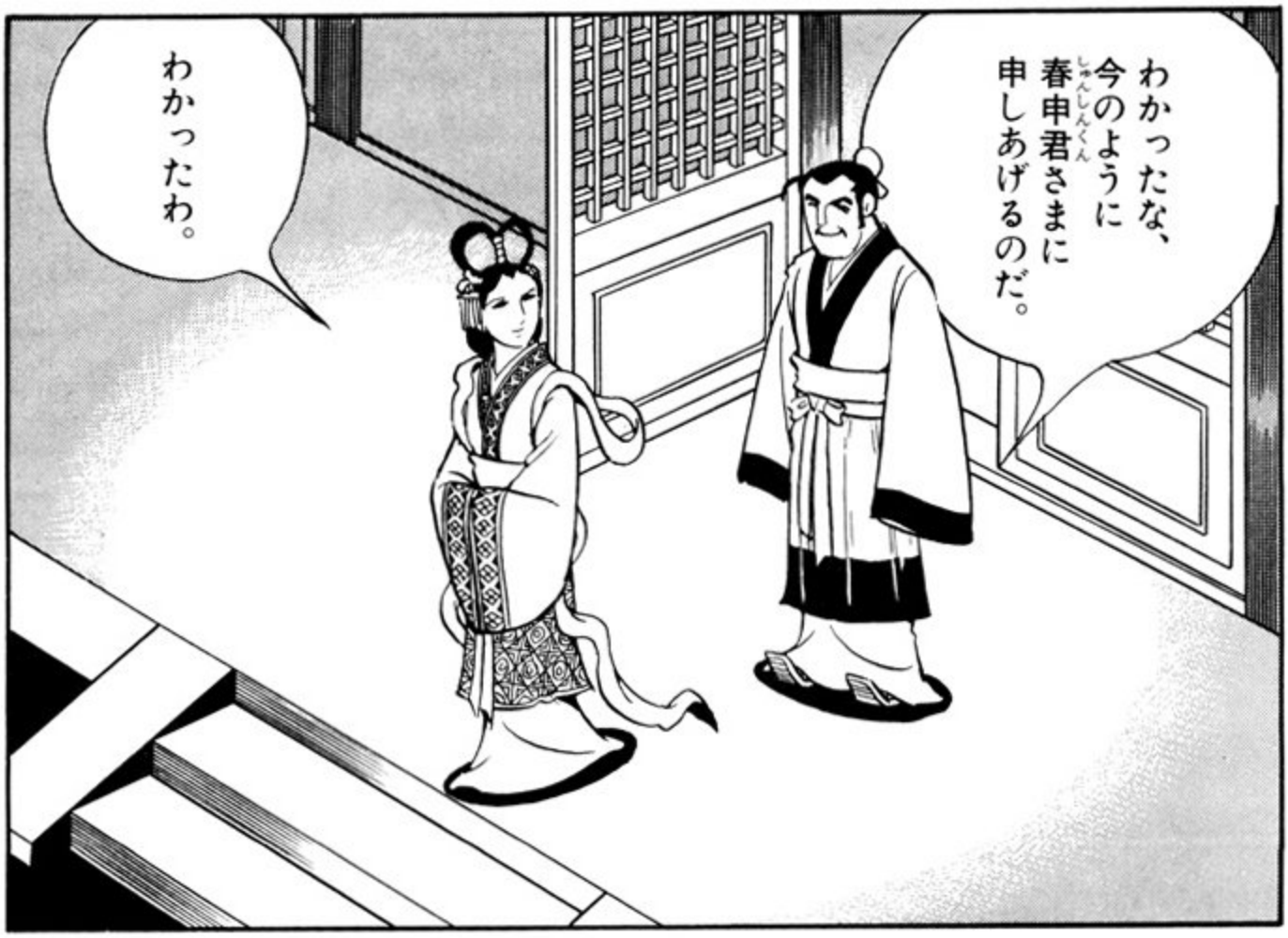
40

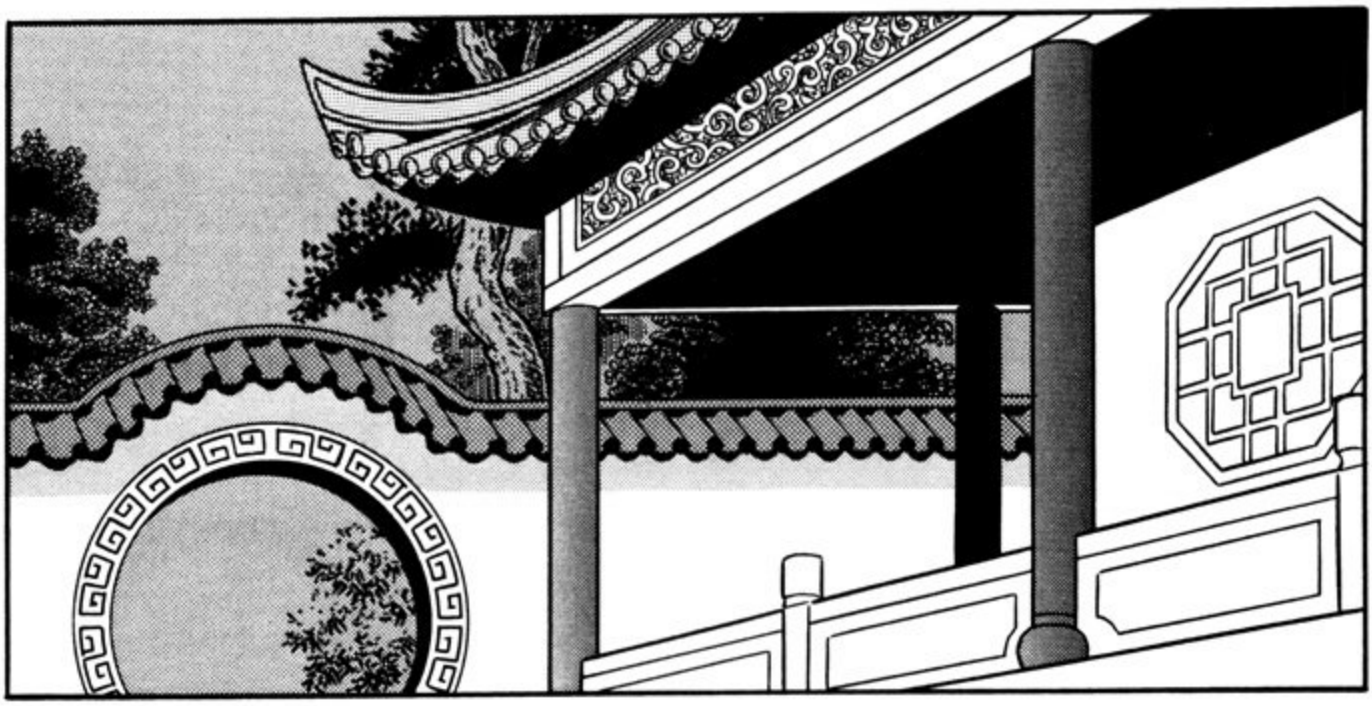
うまくいけば
おまえは
后になれるぞ。

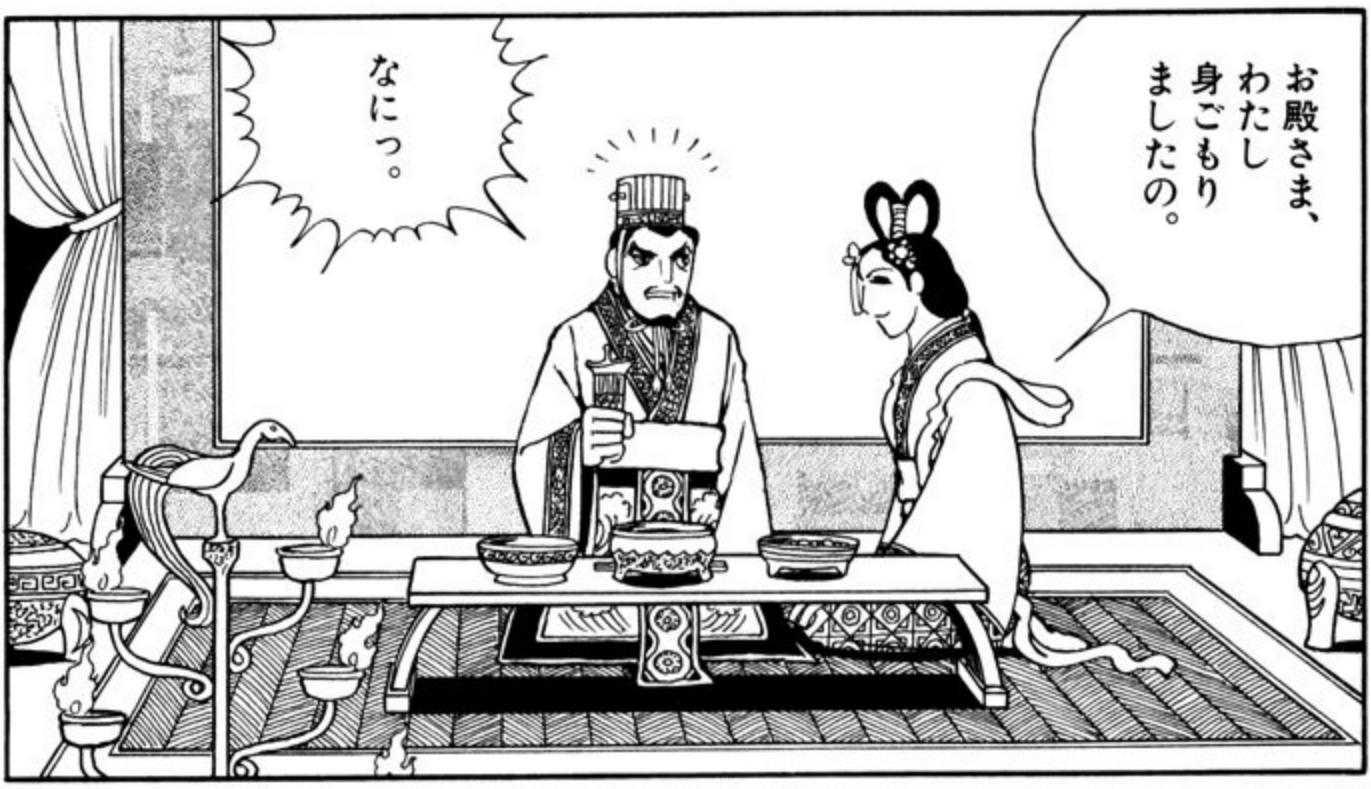
まあ
？

ヒソ
ヒソ。

41


わかったな、
今のように
春申君さまに
申しあげるのだ。
わかったわ。





42

お殿様は宰相に
なられて二十年あまり、
その間 楚王さまは
お殿さまを
どのご兄弟よりも
大切になされました。
うむ。

でも楚王さまには
子供がおられませぬ。
もし王さまが
お亡くなりに
なりましたら
ほかのご兄弟が
即位なされましょう。
その時が心配で
ございます。
なぜじゃ
？

43

新しい王さまは
ご自分の
お気に入りの方を
重用なされましょう。
そうなれば
お殿さまの立場は
どうなりまする。

お殿さまは長年
思いのままに
采配をふるって
まいりました。
その間、王さまの
ご兄弟の気を
悪くなさったことは
一度や二度では
ありませぬでしょう。

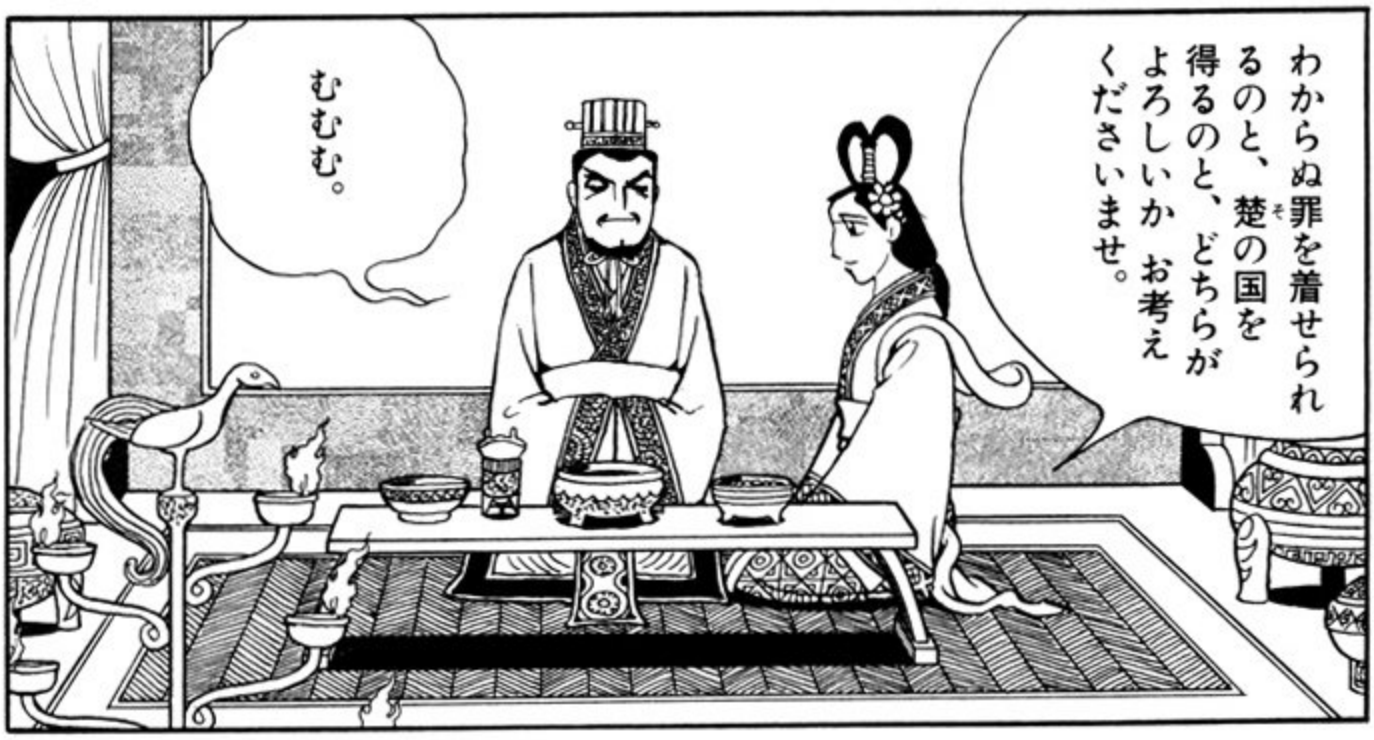
ご兄弟が王位につけば、宰相の印綬や領地を今までのように持ちつづけられましょうか。

お殿さまにご寵愛を受けてまだ短うございます。身ごもったことも誰も知りませぬ。お殿さまのお口添えをもちまして、王さまのお側にわたくしを上げてくださいませ。

そなたを王の側室にすすめよというのか。

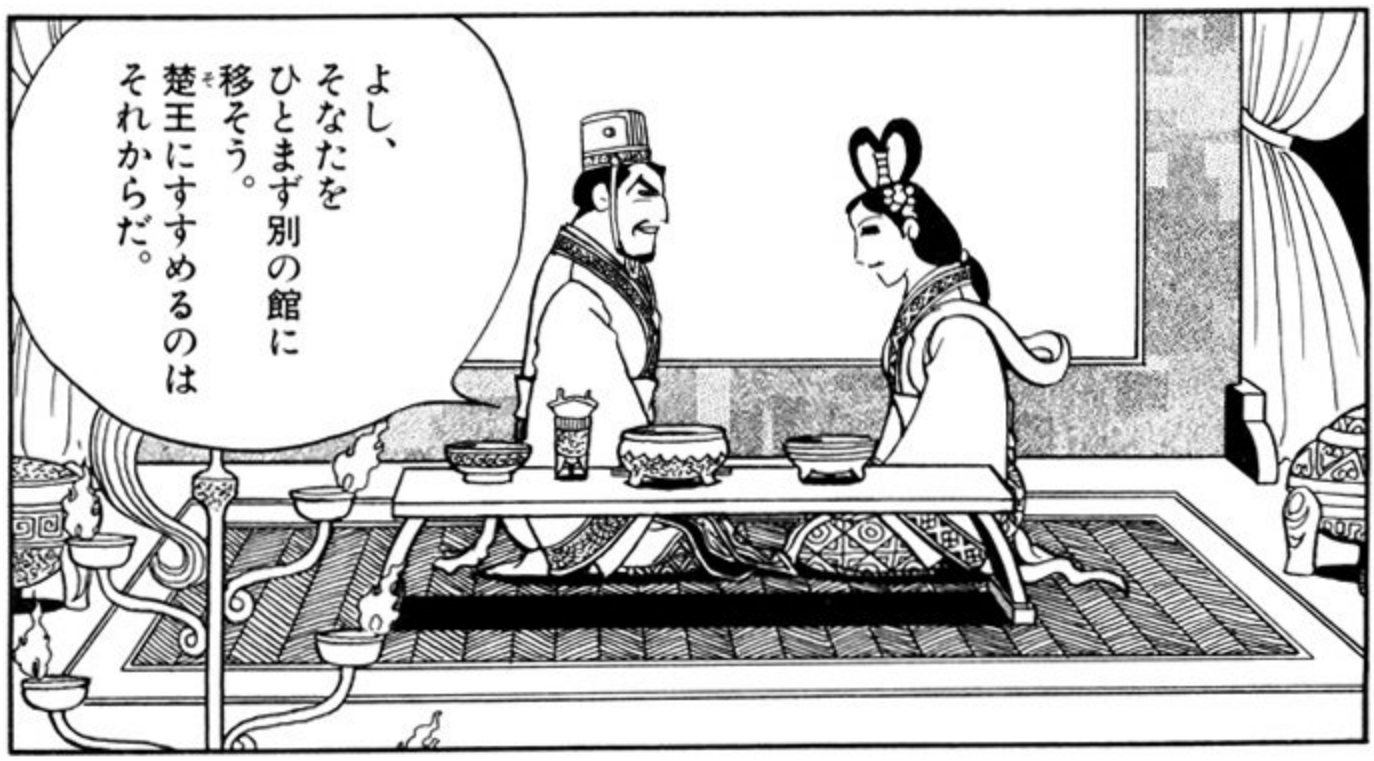
44

もし運よく男子が生まれましたならお殿さまのお子が世継となり楚の王となられるわけでございます。楚の国はお殿さまのものでございますわ。


わからぬ罪を着せられるのと、楚の国を得るのと、どちらがよろしいか お考えくださいませ。
むむむ。

春申君は考えもしなかったことである。
いわれてみればもっともだ……それにわが子が王位につくのも悪くない。

45


よし、そなたをひとまず別の館に移そう。楚王にすすめるのはそれからだ。

こうして
日をおいて
春申君は
李園の妹を
王にすすめた。

46

李園の妹は
男子を出産した。

世継の出来た
楚王の喜びは
大変なもので、
その子を太子とし
李園の妹を
后とした。

47

そして李園も
重用な役に
つけられた。

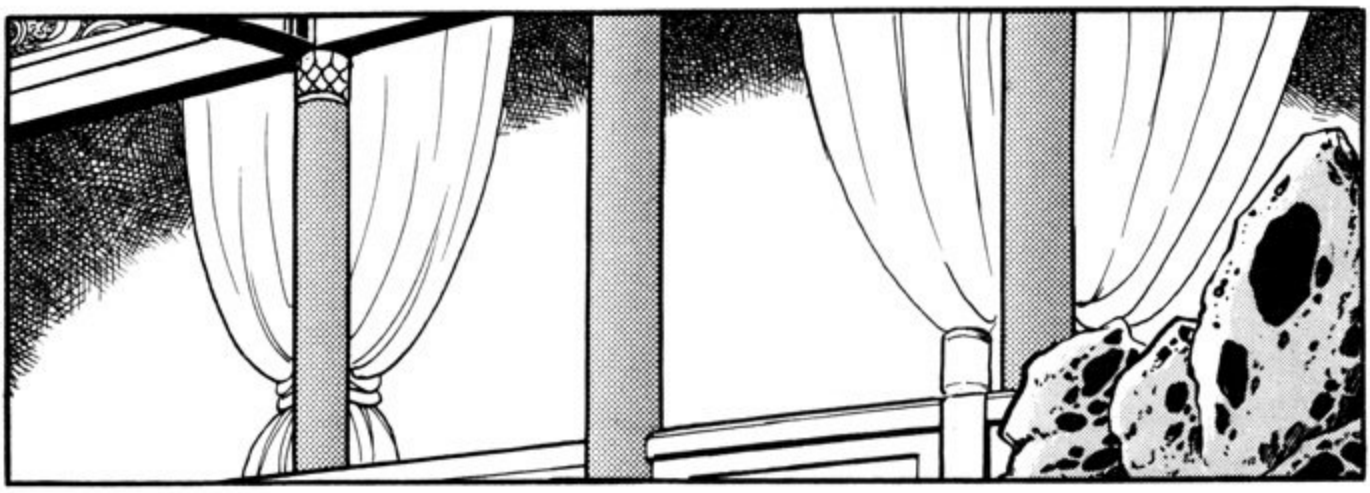
こうなると
李園は春申君が
口をすべらしたり
いっそ傲慢に
なっては困ると
考え……

48

ひそかに刺客を
集め春申君を
殺してしまおうと
たくらんだ。

49

考烈王は病に倒れた。容態は日増しに悪くなっていった。



春申君さま、世の中には思いもかけぬ幸い思いもかけぬ禍がございます。その時のために備えておくことも必要です。

50

思いがけぬ幸いとは、何かな。

春申君さまは楚の宰相として二十数年……名は宰相ながら実は楚の王と同じでございます。

李園がひそかに食客を養っていることはほとんどの人が知らなかった。この食客は何かをつかんだのであった。

それは考えすぎというものだ。李園は弱い男だ。それにわしとの仲もうまくいっている。そんなことの出来る男ではない。

春申君さま、決断すべきときに決断しなければかえって災難をこうむります。

もうよい、それ以上申すな。

はっ！

52

この食客は自分の意見が通らないと知ると自分の身にも危険が及ぶと思い逃亡した。

それから十七日めに
考烈王(こうれつおう)は息を
ひきとった。

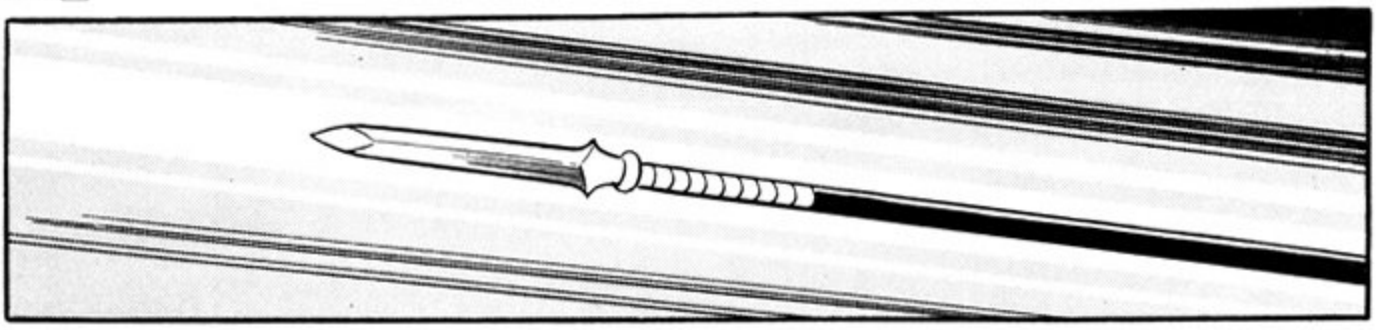
53

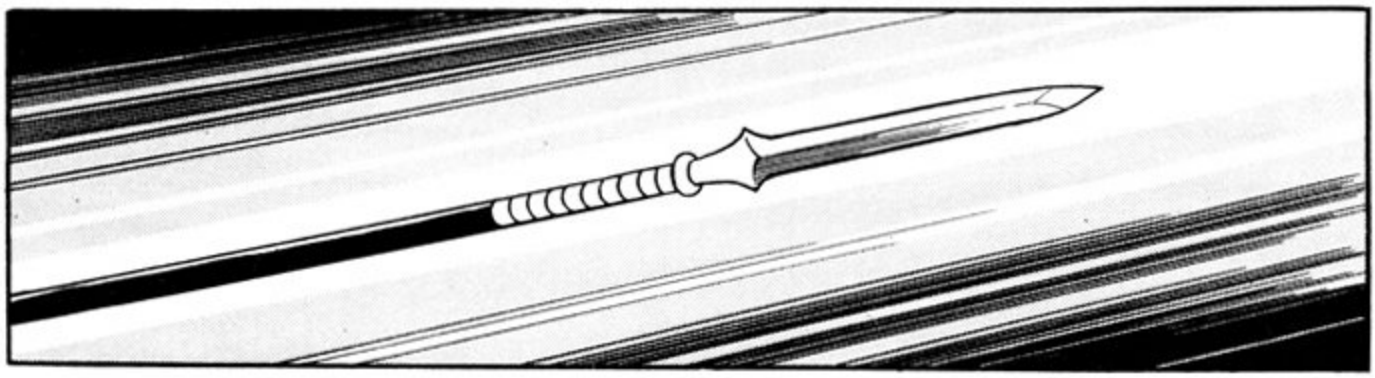
食客の言った通り
まっ先に李園(りえん)が
宮殿に乗り込んだ。

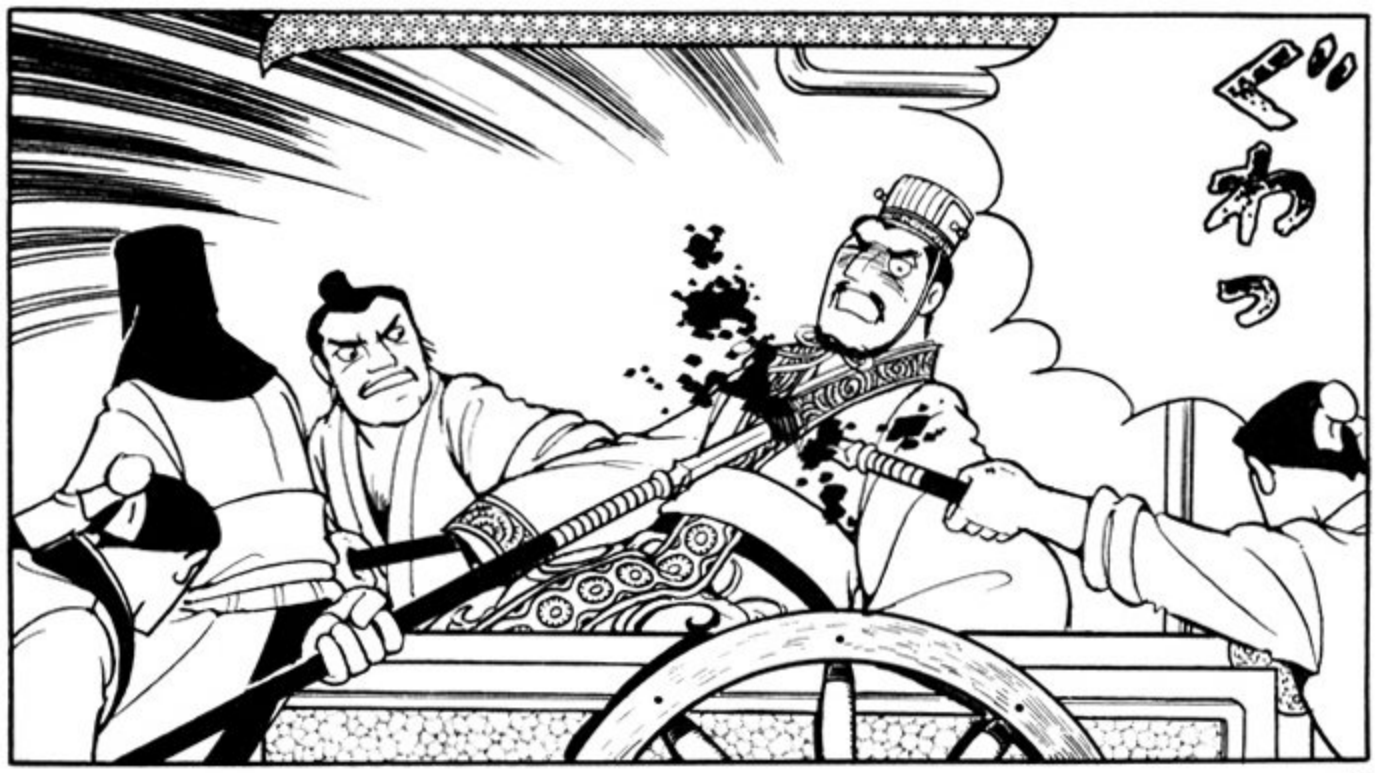
この時　李園は
養なっていた
刺客を棘門
(城門の名)の内で
待ち伏せさせた
のであった。

54

春申君は
警戒もせずに
城内を通った。

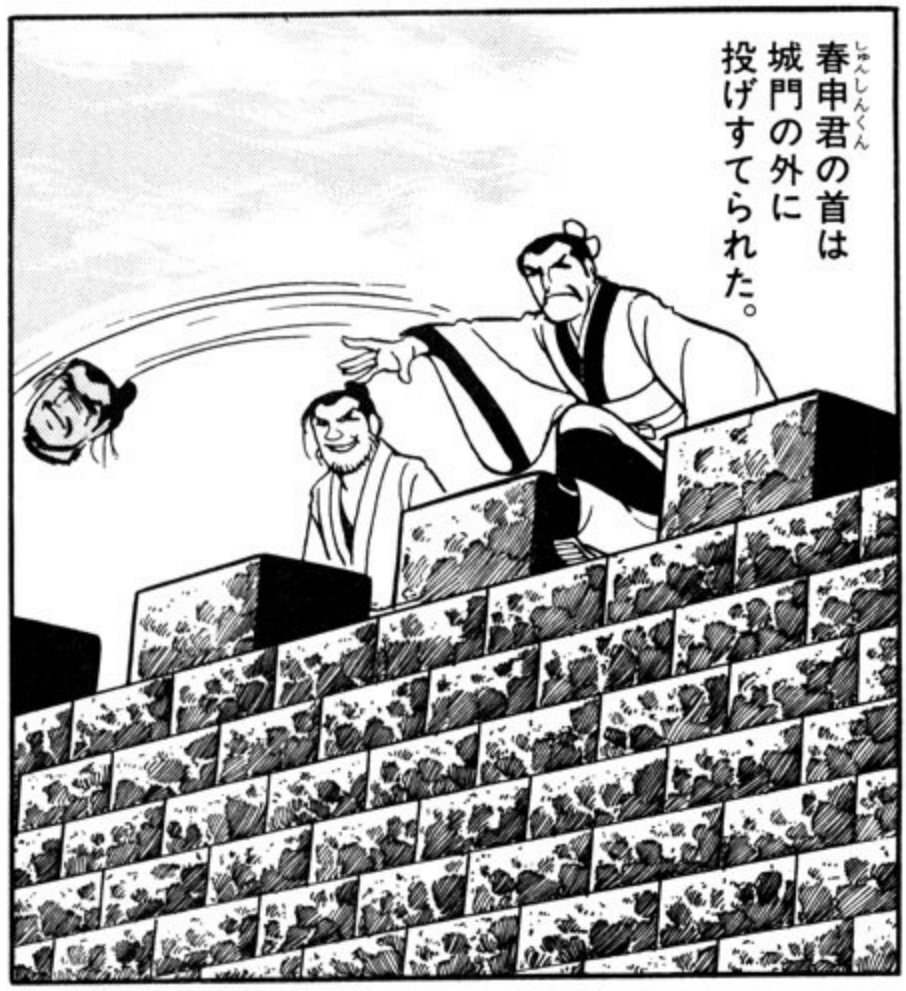


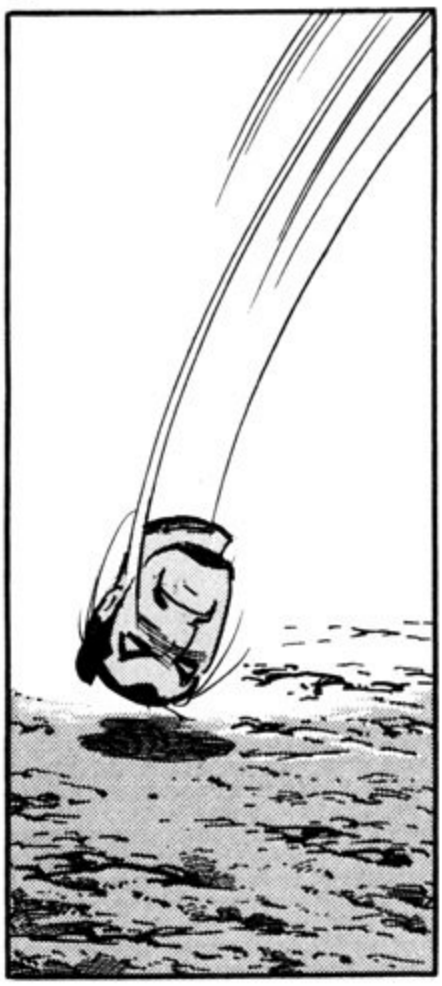




55

56





さらに李園は
兵士を出動させ
……

57

春申君の一族を
襲い……

皆殺しとした。

58

そして五歳の
春申君の子が
楚の第三十九代め
幽王となった。

春申君は若い頃は
一通の書簡で国の危機を
救った知謀の士で、また
命を張って主君を王位に
つけた忠臣であった。
それが李園やその妹に手玉に
とられ、王位に色気を見せた
ため、あわれな最期となった。
司馬遷は「春申君老いたり」と
記している。

第3話
玉を震わす者

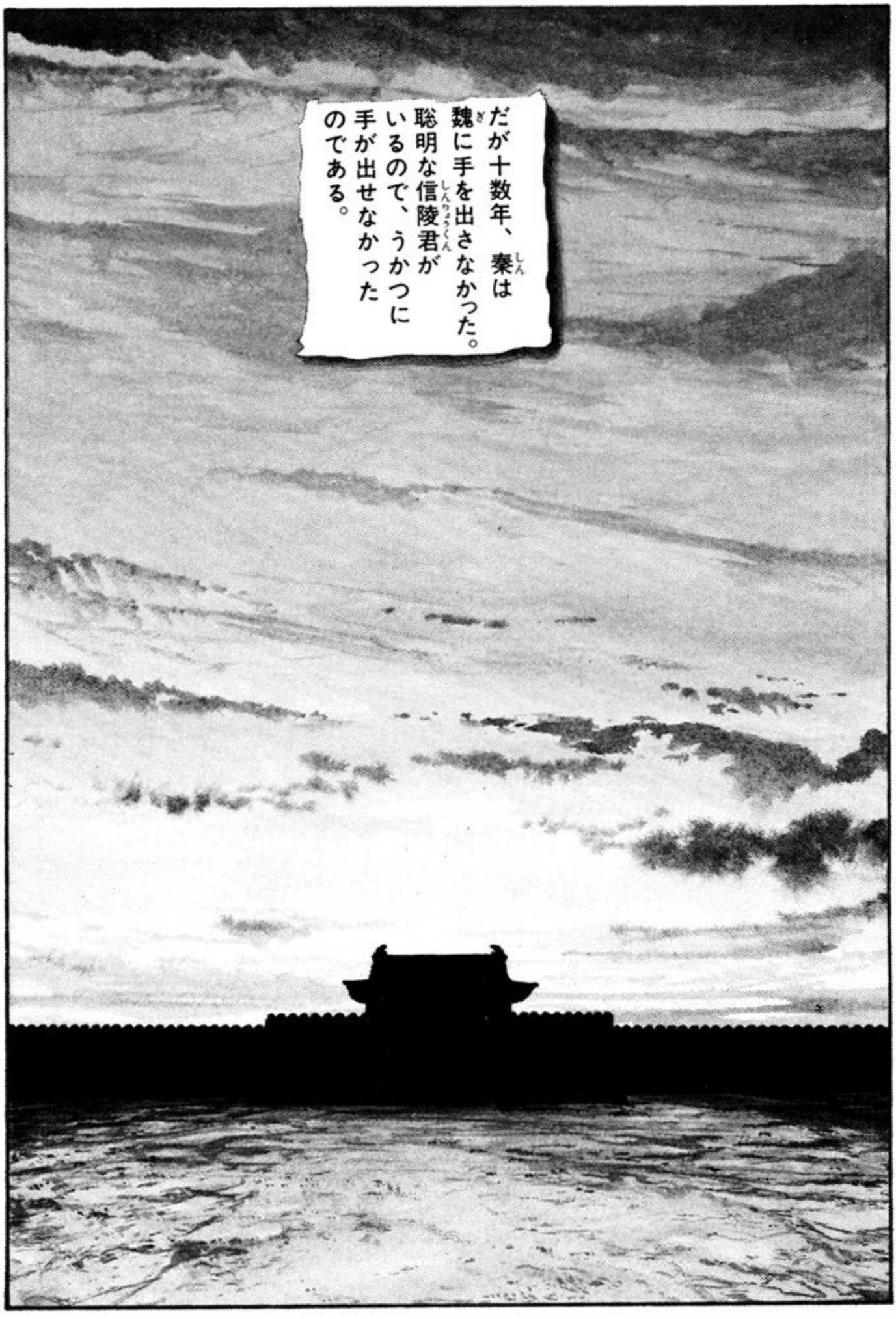
魏の信陵君　無忌は
七代目安釐王の
腹ちがいの弟である。
身分を問わず
人を大切にしたので
人望があり
食客の数も
三千を数えた。

魏には
頭痛の種が
一つあった。

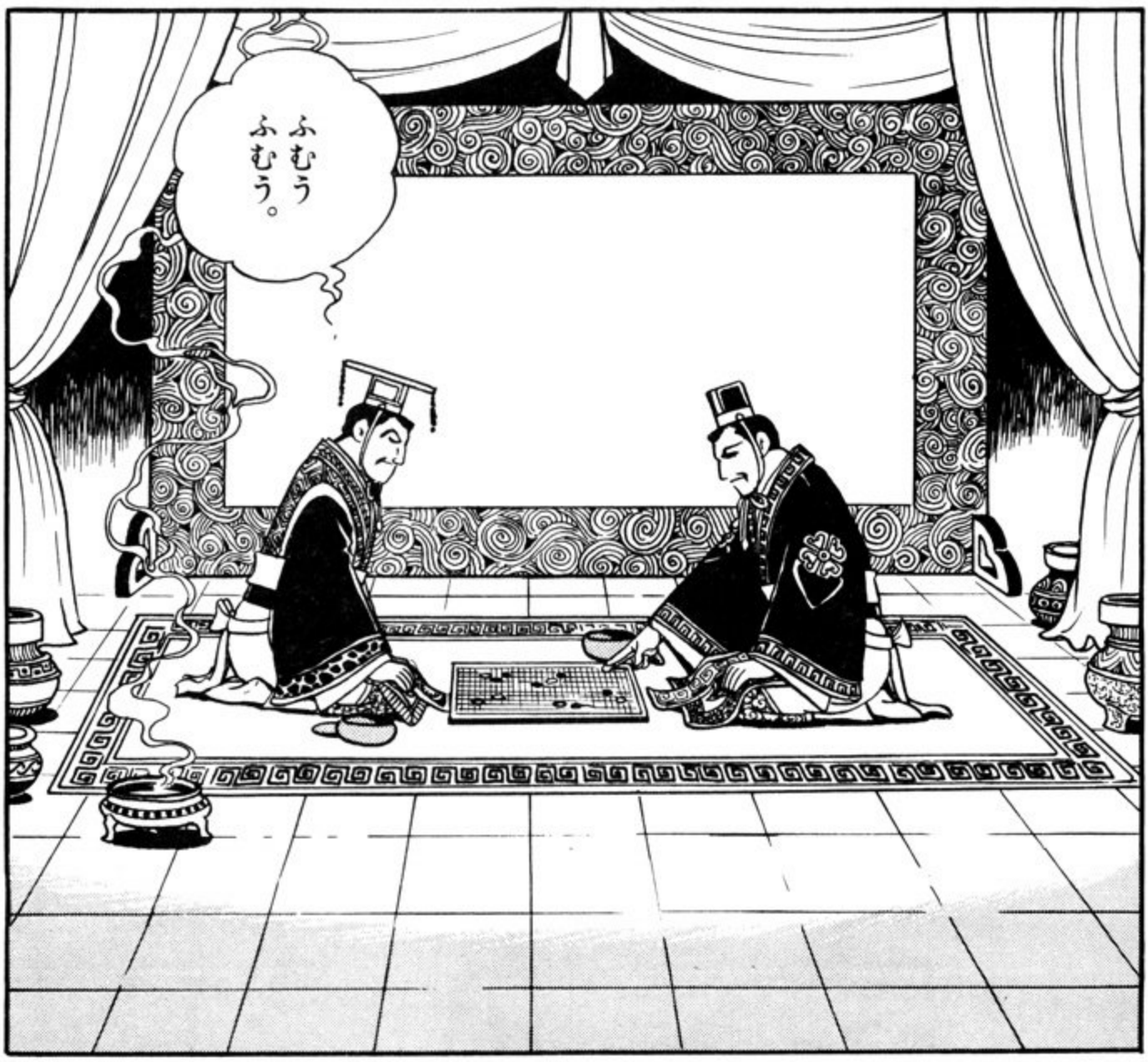
それは魏の宰相・魏斉が、
范雎が斉と通じて
いると勘違いし、
拷問のすえ
便所にほうりこんで
辱めたことである。

3

その後、范雎は
秦に脱出し、
秦の宰相に
のしあがり、その
恨みを晴らさんと
機会を狙っていた。


だが十数年、秦は
魏に手を出さなかった。
聡明な信陵君が
いるので、うかつに
手が出せなかった
のである。

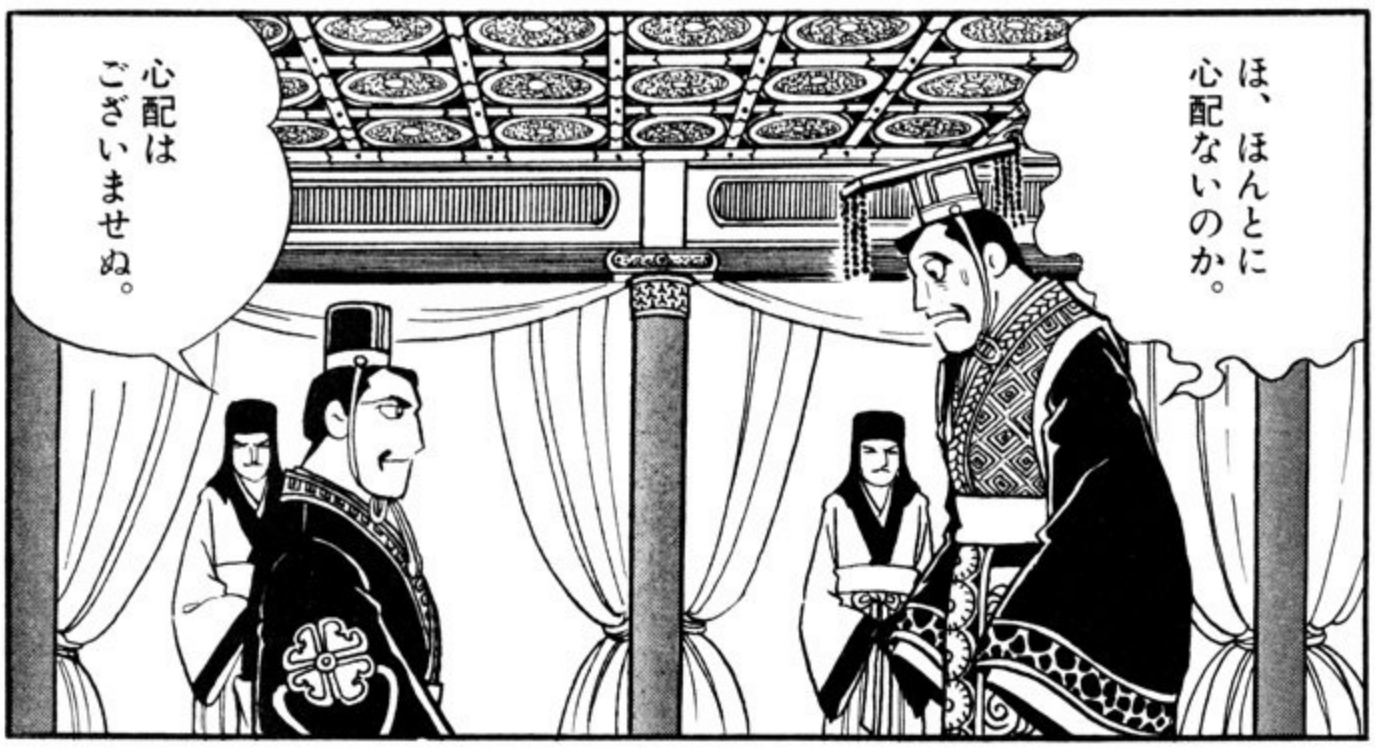
5



北の国境から
つぎつぎと
狼煙があがって
おりまする。
趙の来襲と
思われまする。

なにっ。

6



7

申しあげまする。

おう。

先ほどの通報は
間違いで
ございました。
実は
趙王の狩りで
ございました。

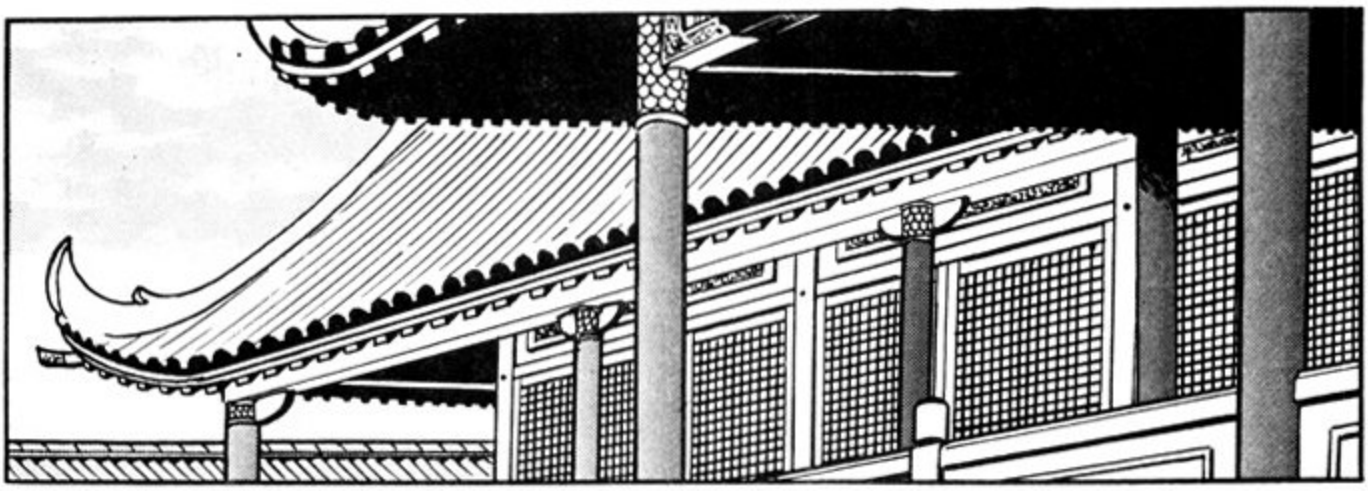
8

信陵君よ、
どうして狩りだと
わかっていたのだ。

わたしの食客の一人が
趙の情報源を
にぎっており、
趙王が何かすれば
そのたびに知らせて
参ります。

9

信陵君を恐れた魏王は、それ以来信陵君を政治の場からはずしてしまった。



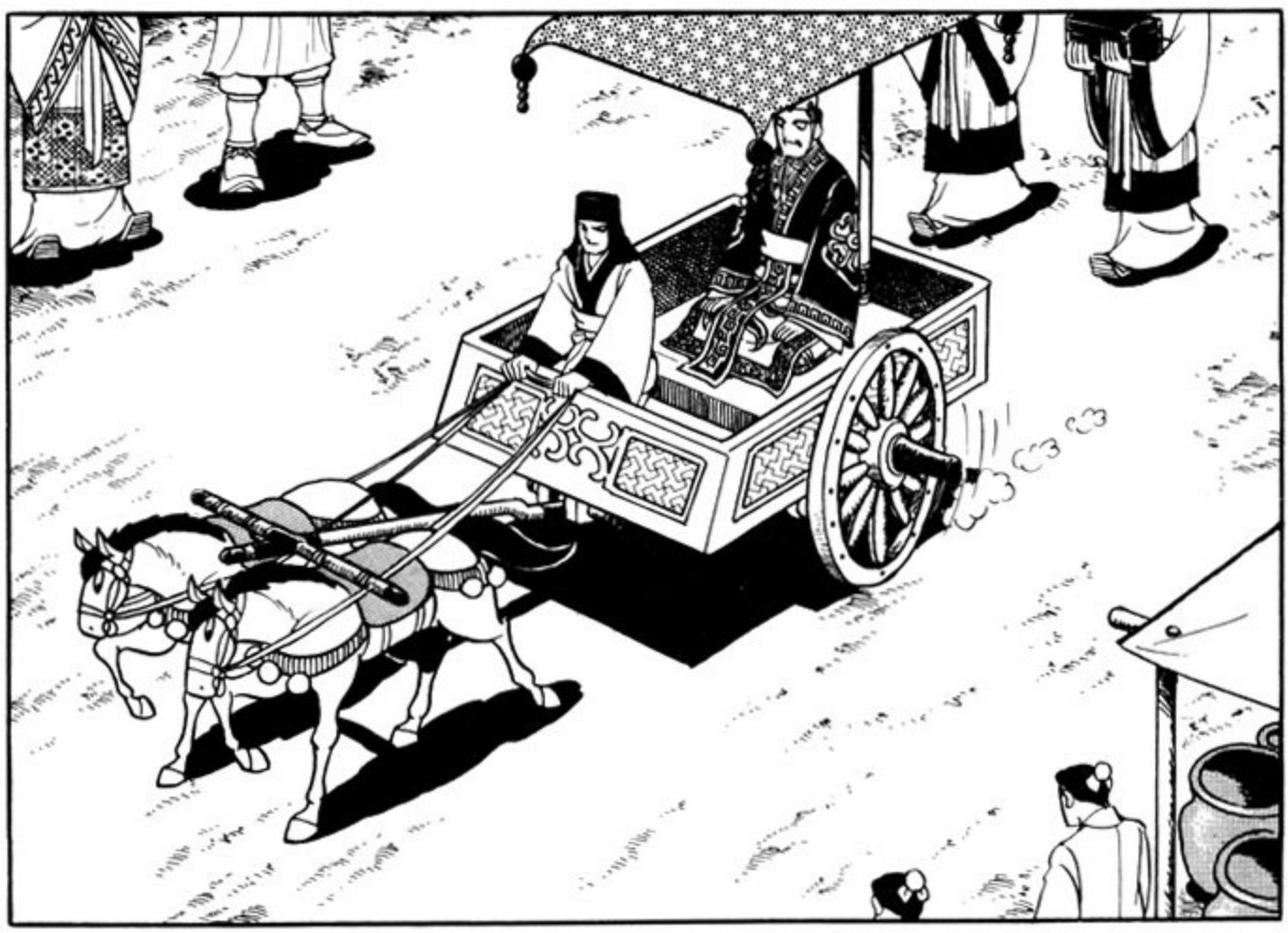
信陵君さま、城門の門番をしている侯嬴老人をご存じでございますか。
侯嬴？知らぬが……

10

ほう、賢者が門番をしてるとは知らなかった。

この老人、なかなかの賢者にございます。

11



門番の侯嬴どのでございますか。

ああ
そうじゃ。

12

わたくしは信陵君でございます。

よく存じておりまする。

これ贈り物を……！
はっ。

先生、ご挨拶の贈り物でございます。お納め下さいませ。

なぜわたしが贈り物を受けるのじゃ？

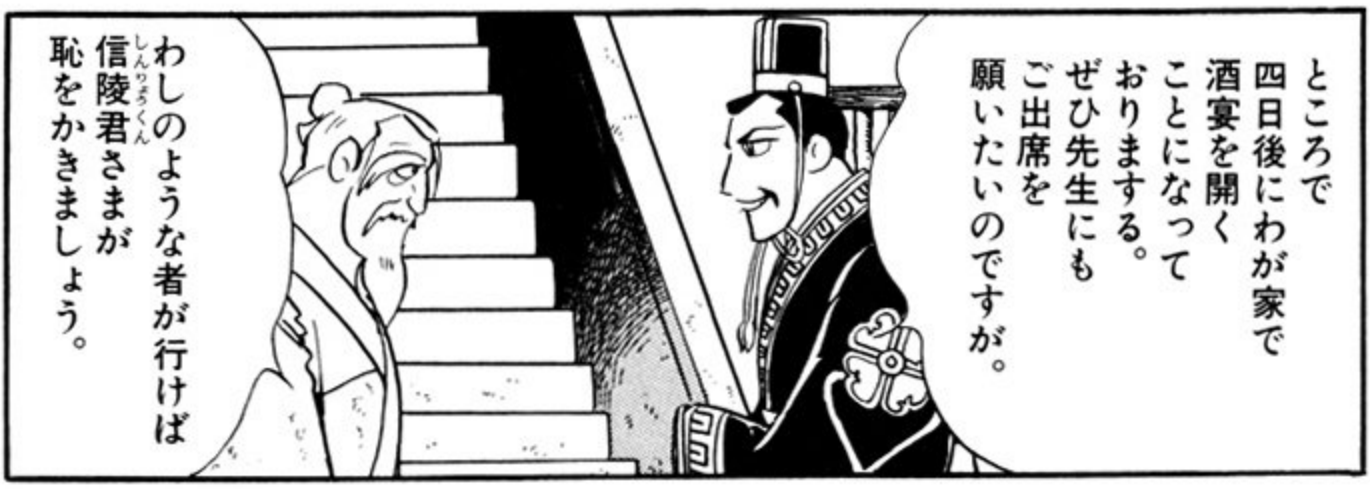
先生は賢者と聞いて参りました。ぜひわが家の食客になっていろいろお教え下さいませ。

13

わしはもう七十で隠居の身じゃ。門番をしていてなんとか食べていける。いまさら華やかな生活はかえって気が重い。ご期待にはそえませぬな。

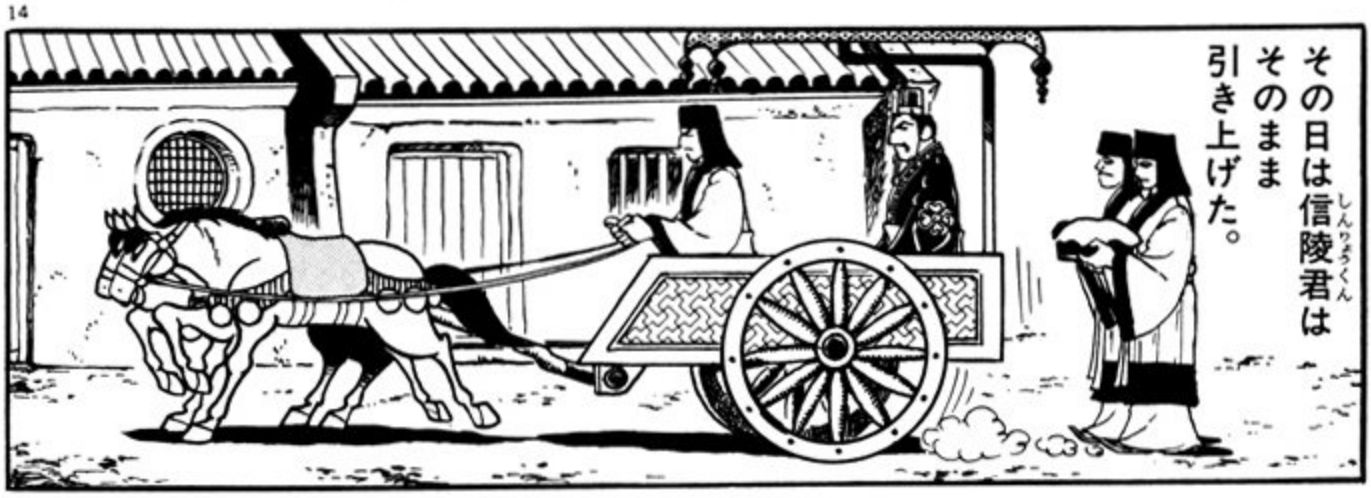
さあさあ、贈り物をもってお引き取り下され。

それでは今日のところは引き取らせていただきます。


ところで四日後にわが家で酒宴を開くことになっておりまする。ぜひ先生にもご出席を願いたいのですが。
わしのような者が行けば信陵君さまが恥をかきましょう。

いいえぜひお願いいたします。
信陵君さまが笑い者になっても、わしのせいじゃございませんぞ。

14


その日は信陵君はそのまま引き上げた。

それから四日後。

酒宴に招待された客が続々と……

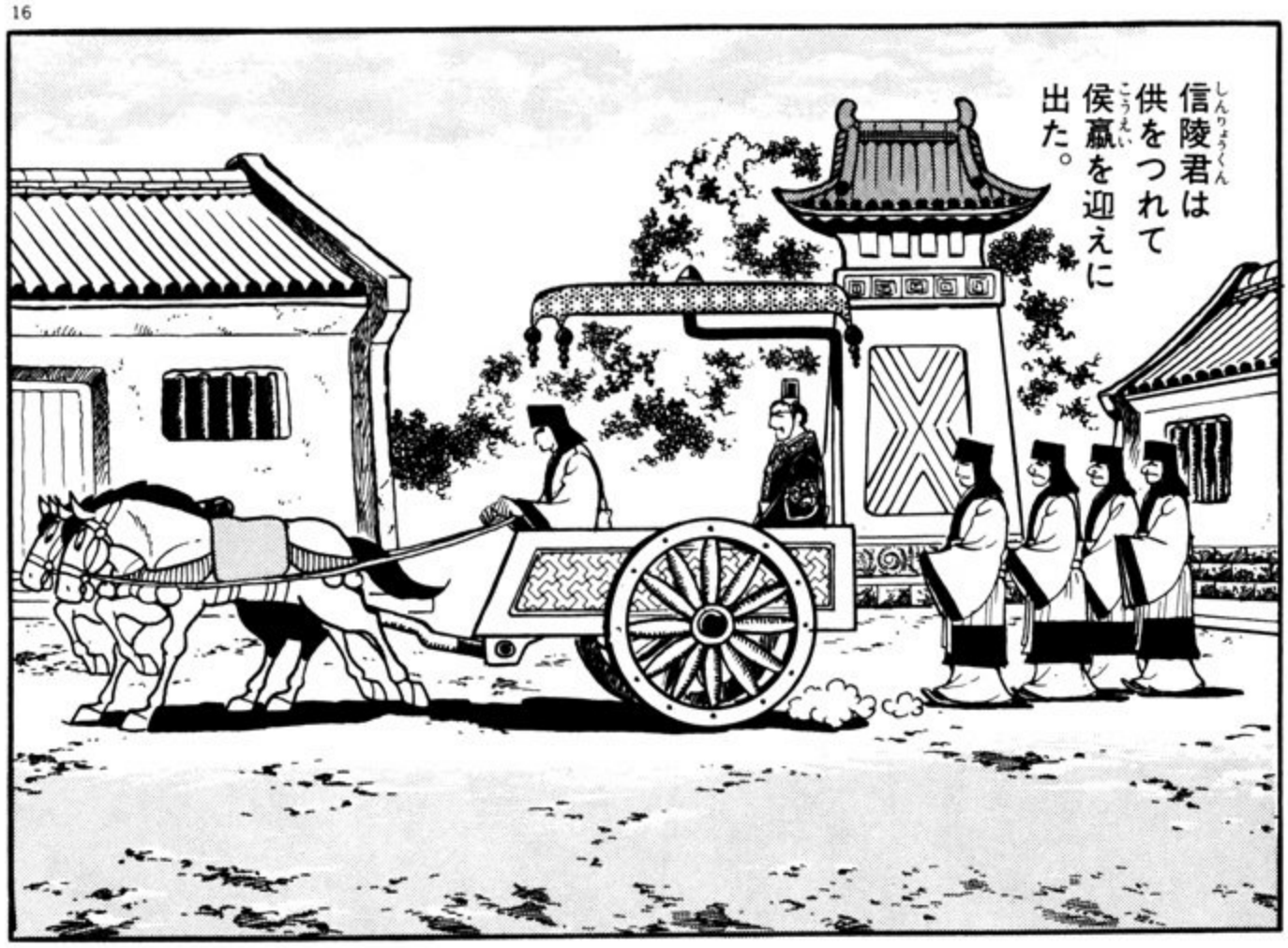
15

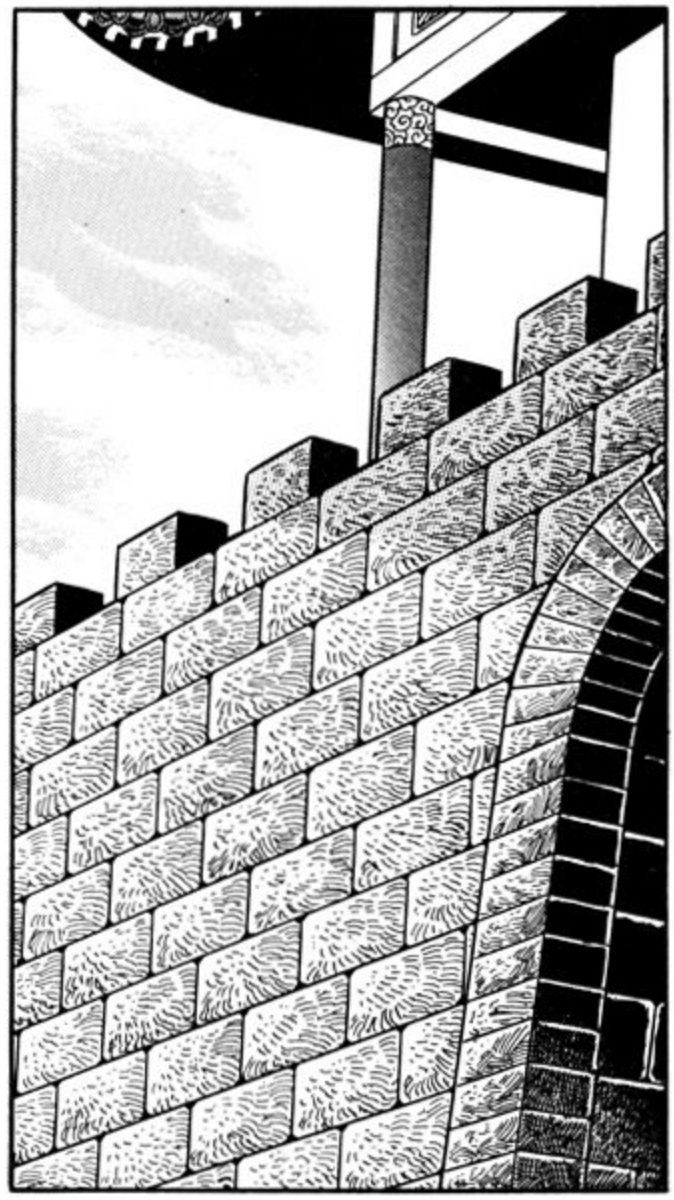
信陵君の屋敷をおとずれた。

これ馬車の用意をいたせ。
えっ？まもなく酒宴が始まりまする。

侯嬴先生がお見えにならぬ。お迎えに行くのじゃ。

16


信陵君は供をつれて侯嬴を迎えに出た。



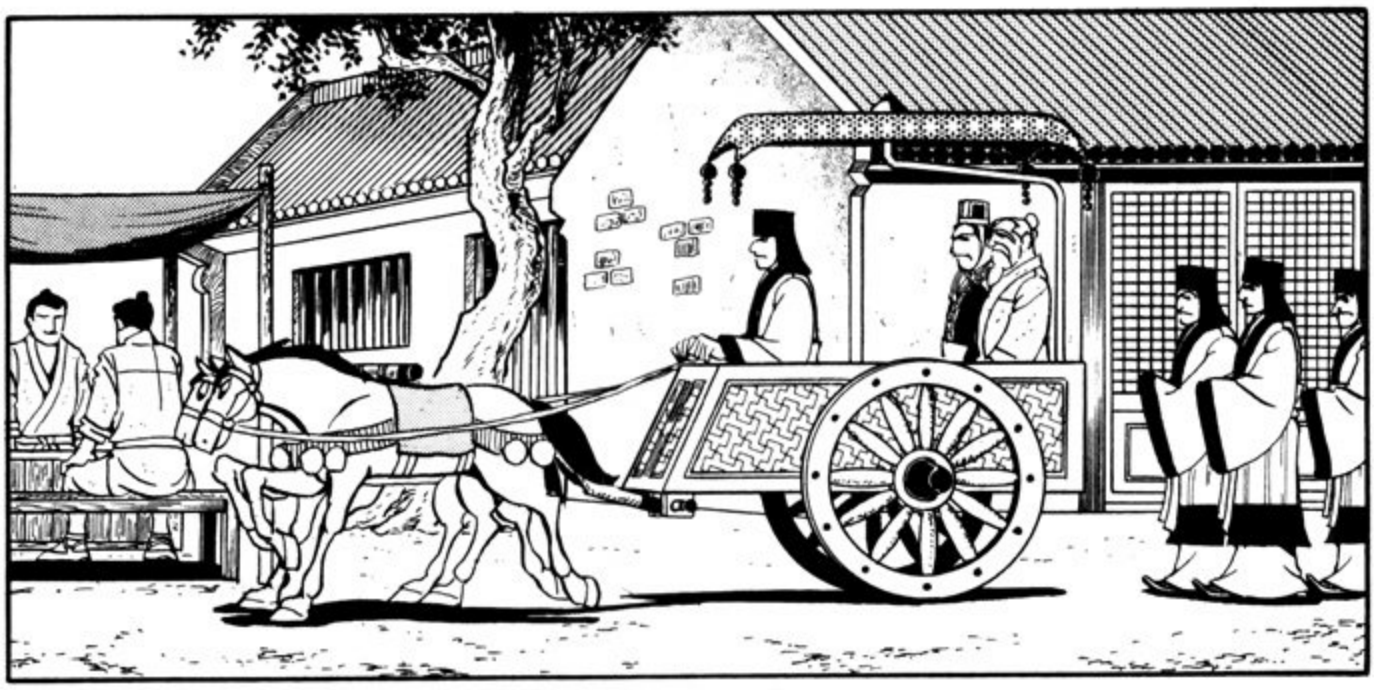
先生。

17

今日はわが家で酒宴が開かれる日です。お迎えに参りました。
おう、先日そのような事を申されてましたのう。

さあさあ、馬車にお乗り下され。

わしは しがない
門番じゃ。
この姿で
参りますぞ。
結構で
ございますとも。



18

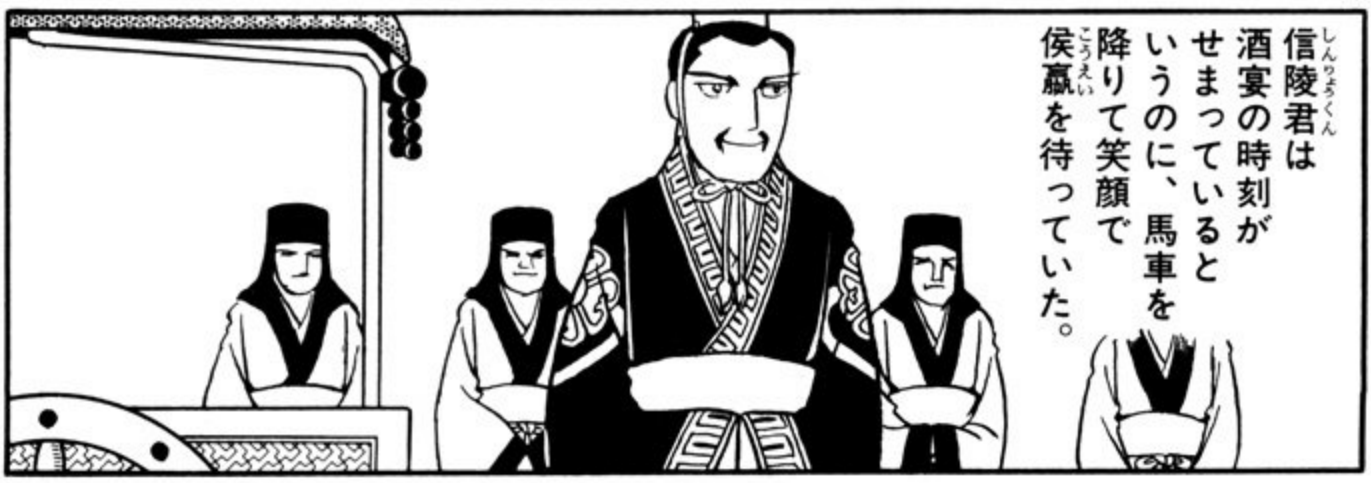
ああ、
ここでちょっと
止めて下され。
何か…
？

肉屋の朱亥(しゅがい)が
わたしの友人でな
……ちょっと
話があるのじゃ。
さようで
ございますか。

朱亥！
朱亥！
なんだ爺さん。

侯嬴はそこでとりとめもない世間話を始めたのである。

侯嬴は朱亥と雑談をしながら時たまチラリと信陵君の様子に目を走らせていた。


信陵君は酒宴の時刻がせまっているというのに、馬車を降りて笑顔で侯嬴を待っていた。

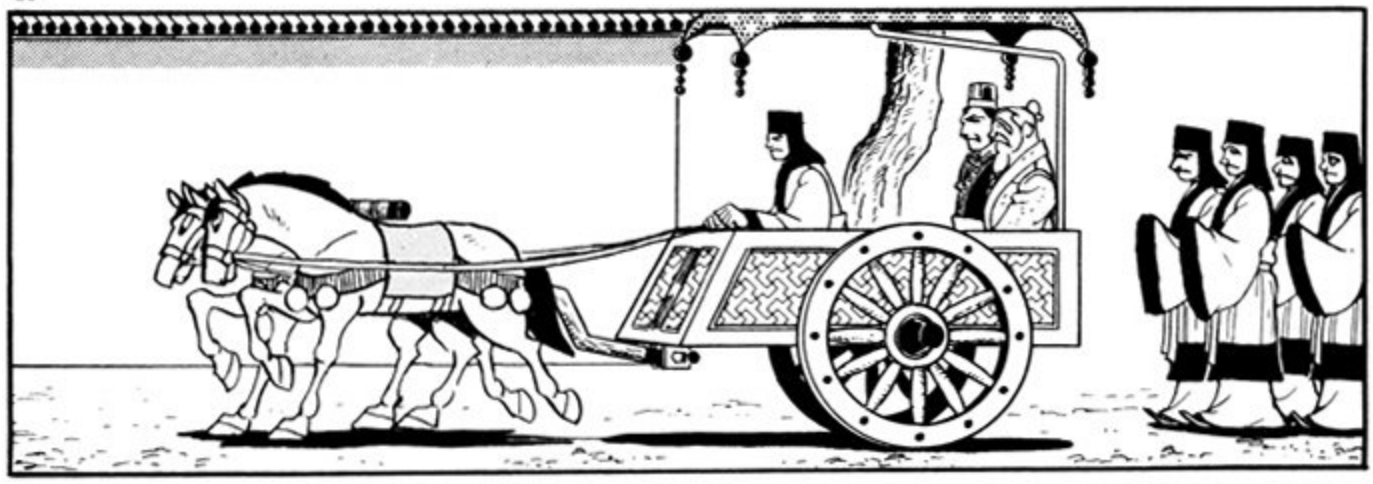
あの爺さん、なんて失礼なやつだ。
まったく、信陵君さまは魏王さまの弟君だ。それを待たせるなんてのう。

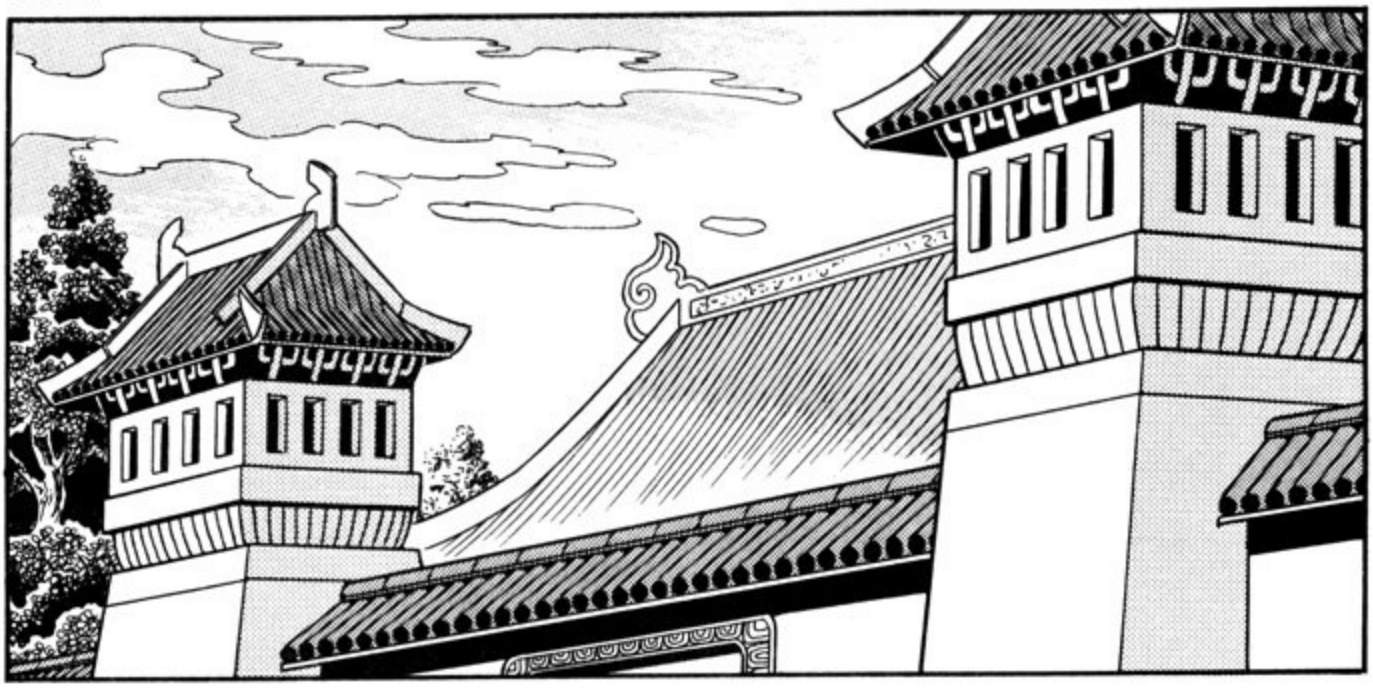
門番の分際で身のほどを知るがよい。

それにしても信陵君さまはよく出来たお方だと聞くが本当じゃのう。

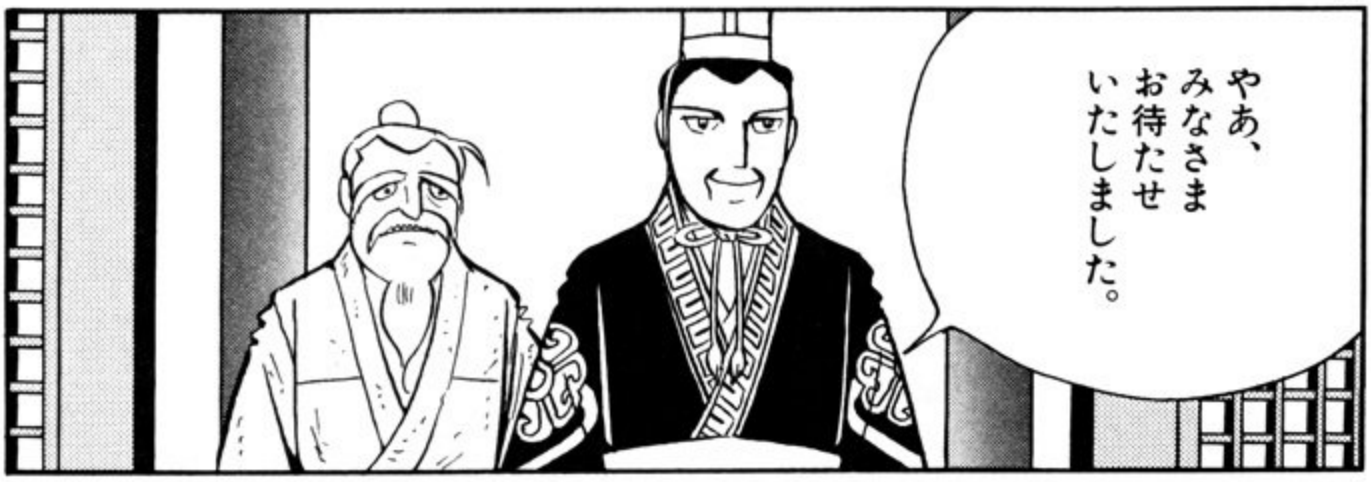
お待たせいたした。では参りましょうか。
ご用はおすみになりましたか。

20

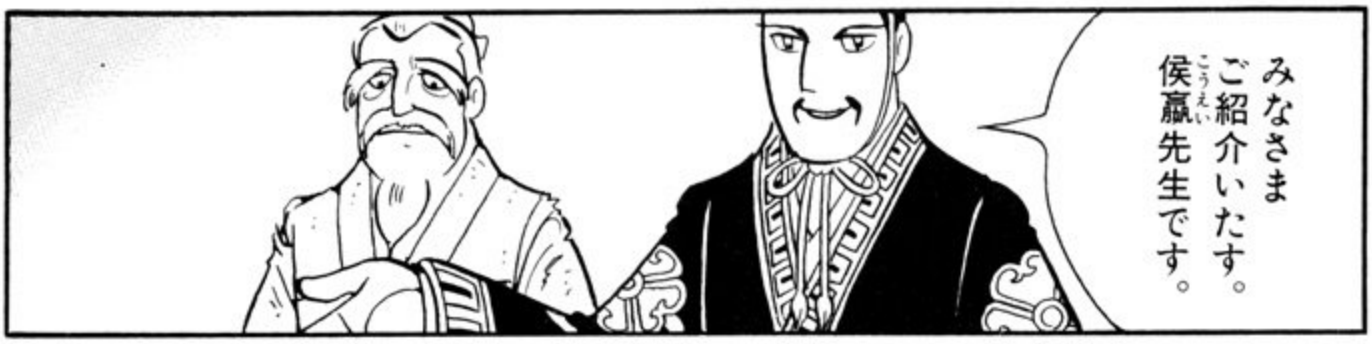




21



な、なんじゃ、あのみすぼらしい老人は……


みなさまご紹介いたす。侯嬴先生です。

さあさあ、先生はもっと上席に。

22

魏の国の大臣や将軍、王族など客人はびっくりした。

こうして
酒宴は開かれた。

23

先ほど供の者から聞いたのだが、ここに来る途中町で雑談をし信陵君さまを待たせたとか。

はい、その通りでございます。

雑談など別の日でも出来たのではござらぬか。

あれはそれがしを大切に思って下さる信陵君さまへのお礼です。

24

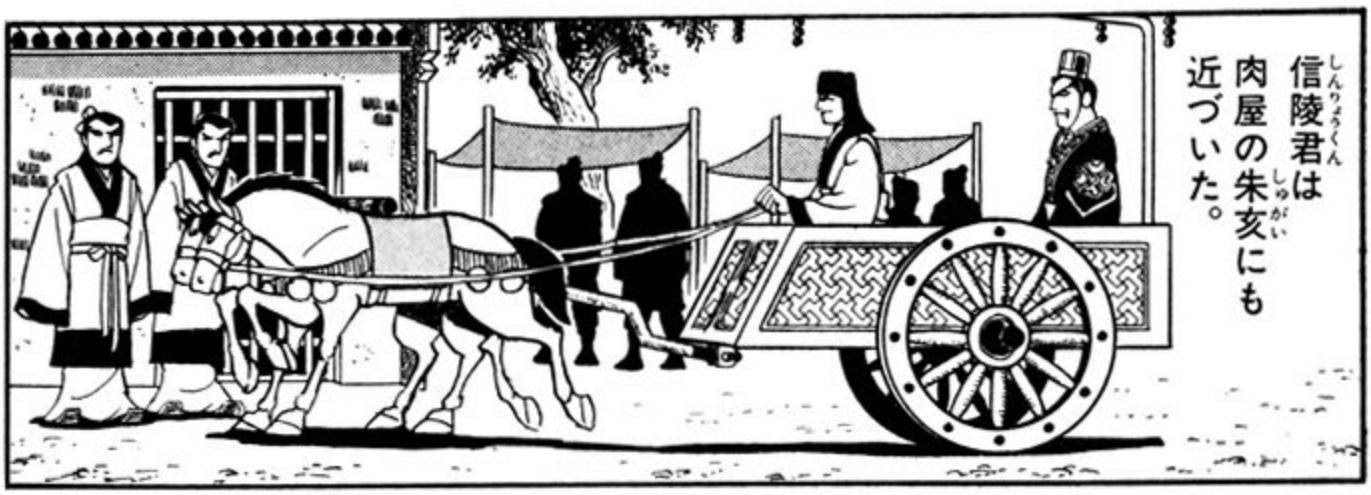
お礼？

意味がわからぬが…？

わたしは信陵君さまを待たせたままくだらぬ世間話をいたしました。町の人々はなんと失礼な爺いとわたしをさげすみました。
そして、笑顔でわたくしを待って下さる信陵君さまに感心いたしました。

25

客人達は侯嬴の話を聞いて納得し、和気あいあいの宴会となった。


信陵君は肉屋の朱亥にも近づいた。

朱亥どの、いい酒が手に入ったので持って参った。仕事が終ったら飲んで下さい。
ああ。
朱亥はそれに対して礼もいわなかった。

26

だが信陵君は町に出るとかならず侯嬴と朱亥につけとどけをしたのである。

その頃、趙攻略にかかっていた秦は、長平で趙軍四十万を打ち破り、その勢いに乗って再び趙都・邯鄲を包囲した。

27

晋鄙将軍よ、趙から連日援軍の要請を受けている。ただちに援軍にかけつけよ。

はっ。

28

晋鄙将軍は十数万の兵を引きつれて趙に向かった。

魏

魏

だがこの動きを
察知した秦は
すぐに使者を
送ってきた。

29

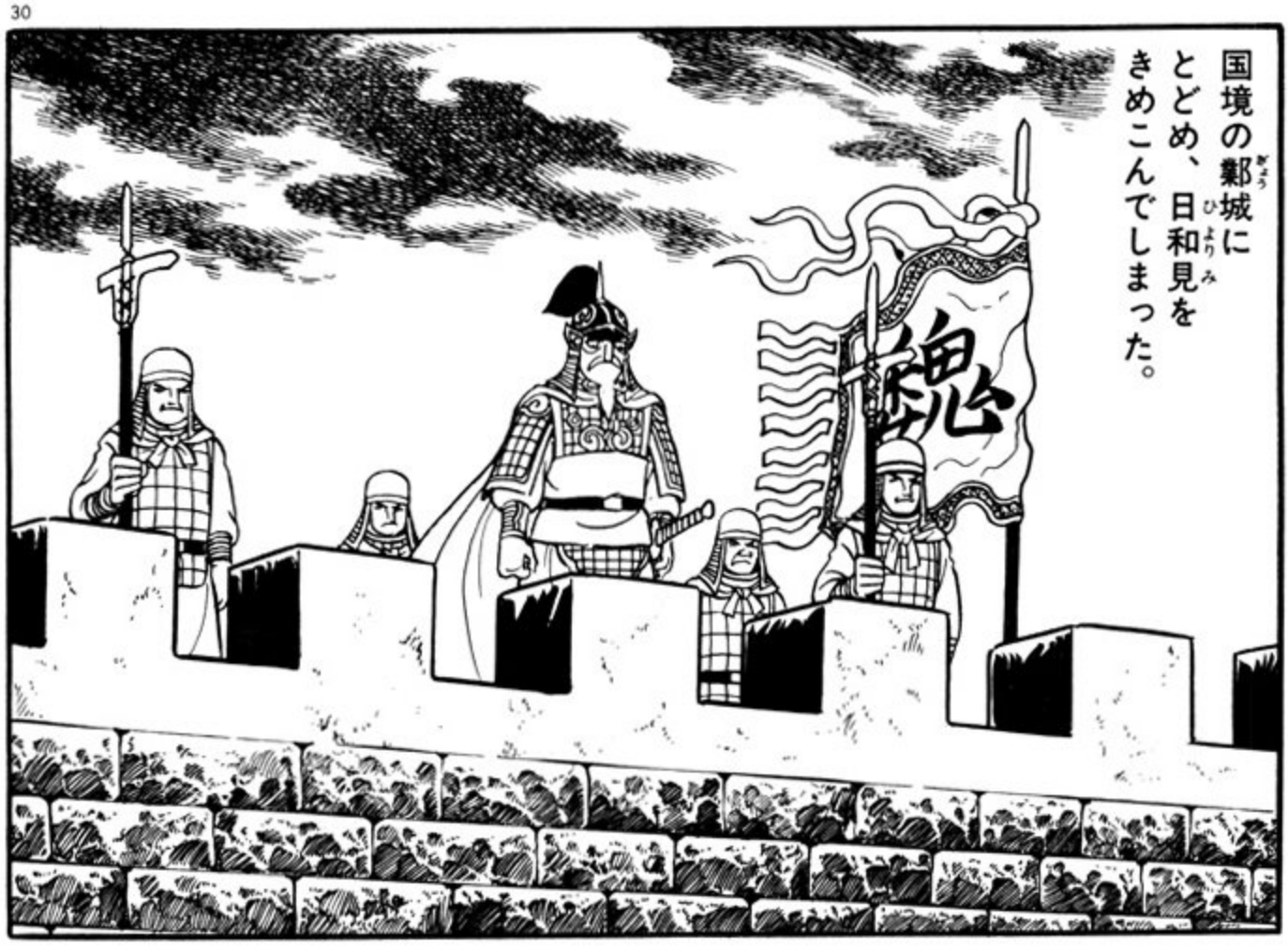
魏王さま、
趙の降伏は時間の
問題です。
もし魏が趙を
助けるようなことを
なされば、われらは
次は魏に攻め入り
まするぞ。

ご使者どの
よくわかりました。
魏は手出しを
いたしませぬ。

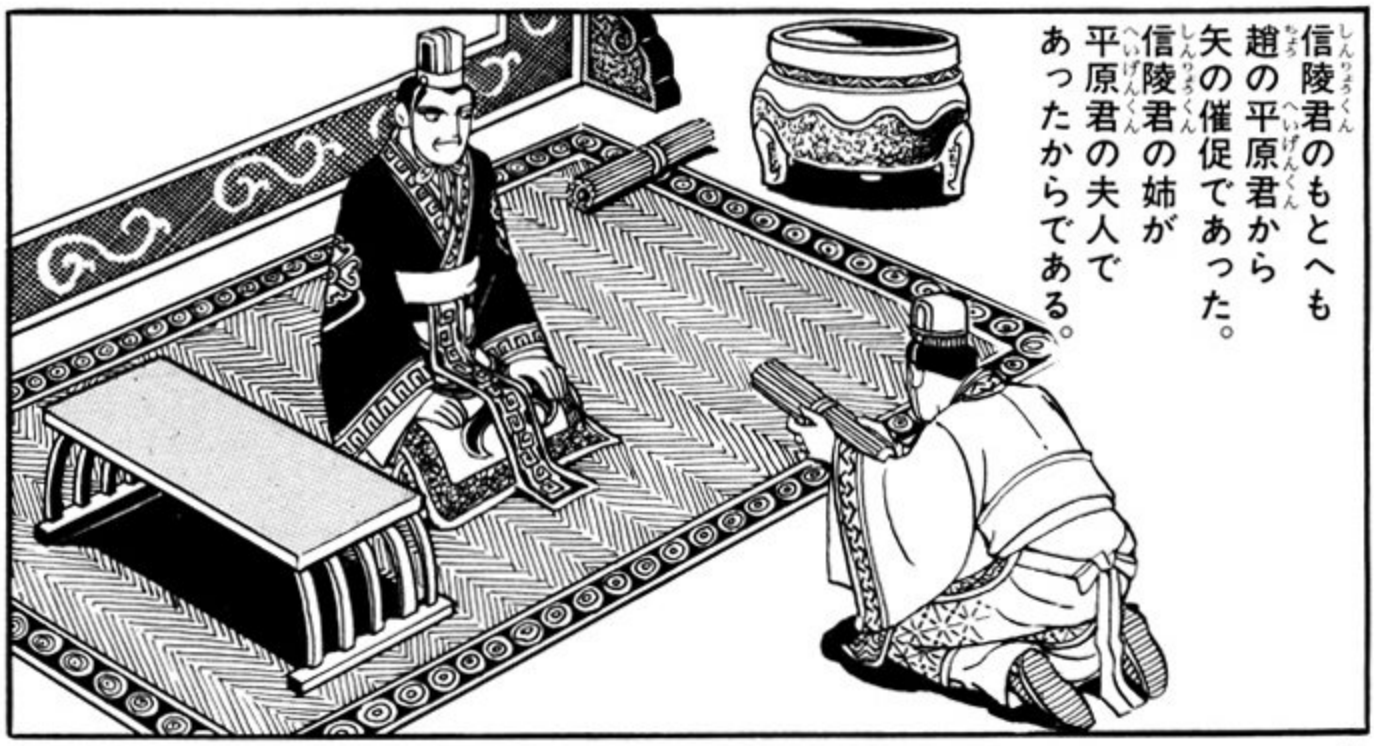
ではそのように
秦王に伝え
まする。

魏王はあわてて
進軍中の晋鄙将軍に
伝令をとばし…

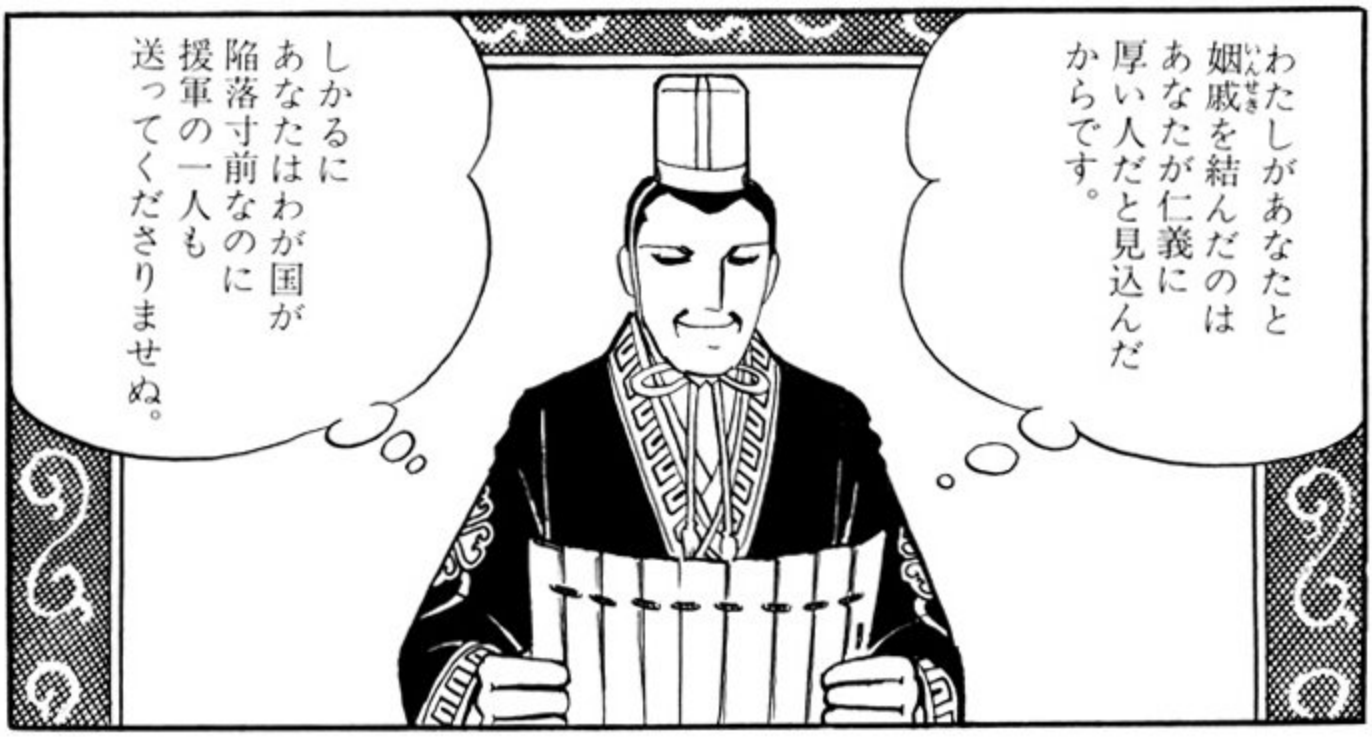
30


国境の鄴城に
とどめ、日和見を
きめこんでしまった。
魏

趙からは連日のように援軍を求めてきた。

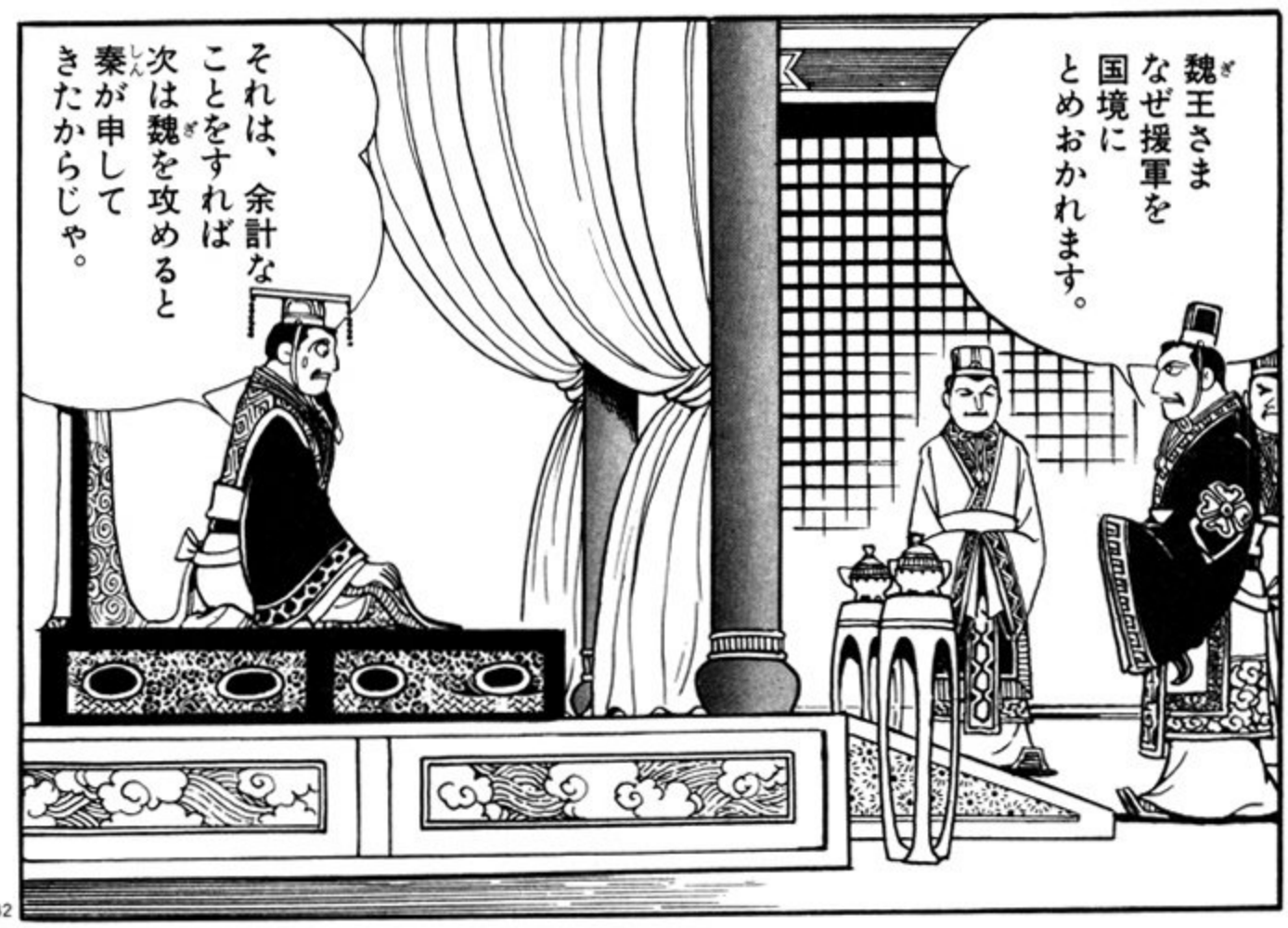

信陵君のもとへも趙の平原君から矢の催促であった。信陵君の姉が平原君の夫人であったからである。

31


わたしがあなたと姻戚を結んだのはあなたが仁義に厚い人だと見込んだからです。
しかるにあなたはわが国が陥落寸前なのに援軍の一人も送ってくださりませぬ。

あなたは人の危難を見過ごせぬ人と思ったのはわたしの買いかぶりだったのでしょうか。仮りにあなたがわたしを見捨てるのはよいとしても血を分けた姉まで見捨てるおつもりでございますか！

このままではいけない魏王さまを説得せねば。


魏王さまなぜ援軍を国境にとめおかれます。
それは、余計なことをすれば次は魏を攻めると秦が申してきたからじゃ。

32

魏王さまは
趙が滅びれば
魏は安泰だと
お考えですか。

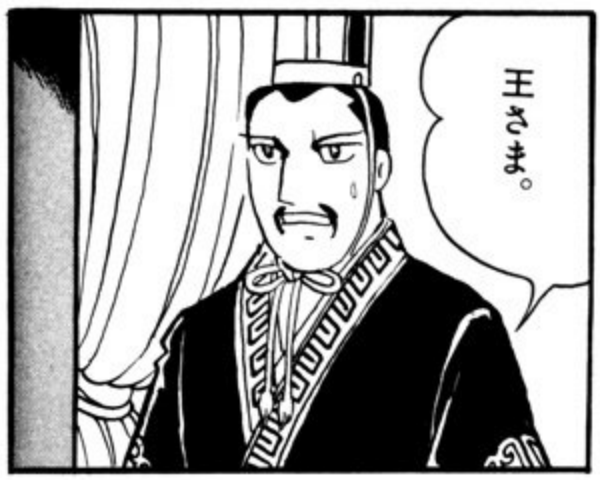
服従しておれば
秦は攻めては
くるまい。

それは違いまする。
趙が滅びれば
秦の力はますます
強大になり、
なにか口実を
もうけて次は魏、
次は韓と
攻めて参りましょう。

魏、趙、韓、斉、楚、燕の
国が手を結んでいれば
秦がいかに強国と
なろうとも
手出しできませぬ。
ここは
わが国のためにも
趙を助けるべきで
ございます。
しかしなにも
好んで秦の
矢面に立つ
必要はあるまい。

33

そなたの言うのは
うまく諸国が
手を結んだ時の
話……いまは
わが国の安全を
考えるべきじゃ。


王さま。

信陵君よ、それ以上申すな。わしの考えは変わらぬ。

は……

34

魏王が援軍を出さぬならばわたしだけでも行かねばならぬ。

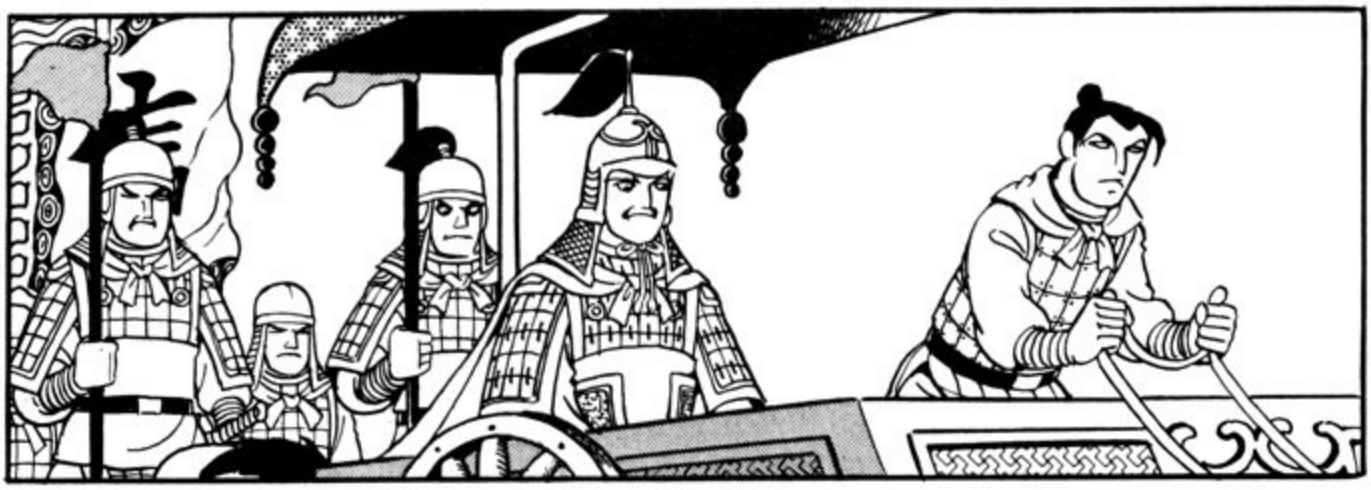
お客人達よ、魏王は趙に援軍を送る気はない。だがわたしの立場は平原君とは姻戚関係にあり、黙って見てるわけにはいかない。

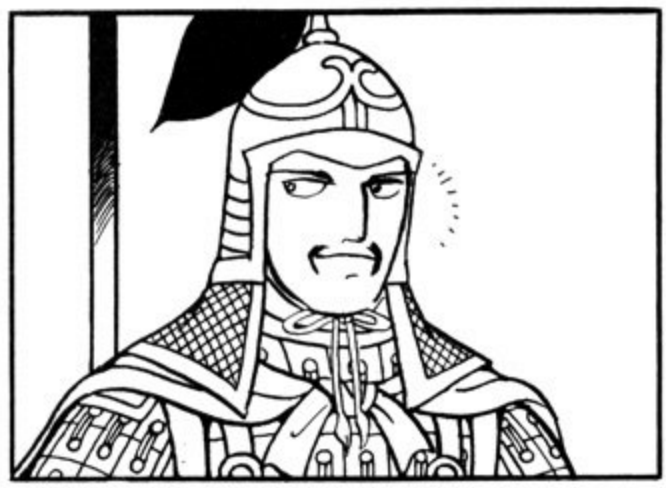
35

わたし個人で援軍に向かう。先生たちもわたしに力を貸して下さらぬか。

36

こうして
信陵君は
食客三千を
つれて援軍に
向かうことになった。

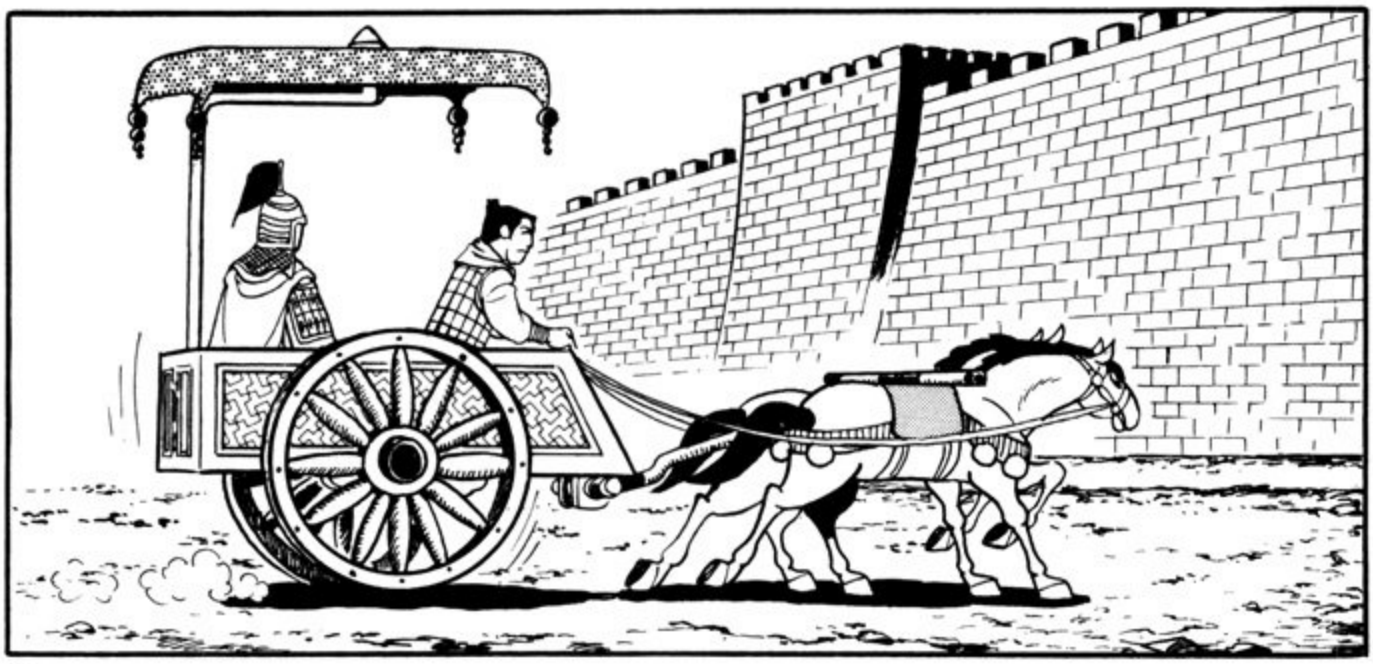




37

わたしの方に
なにか落度でも
あったので
あろうか……
気になる……

これ城門に
引き返してくれ。
はっ。



38

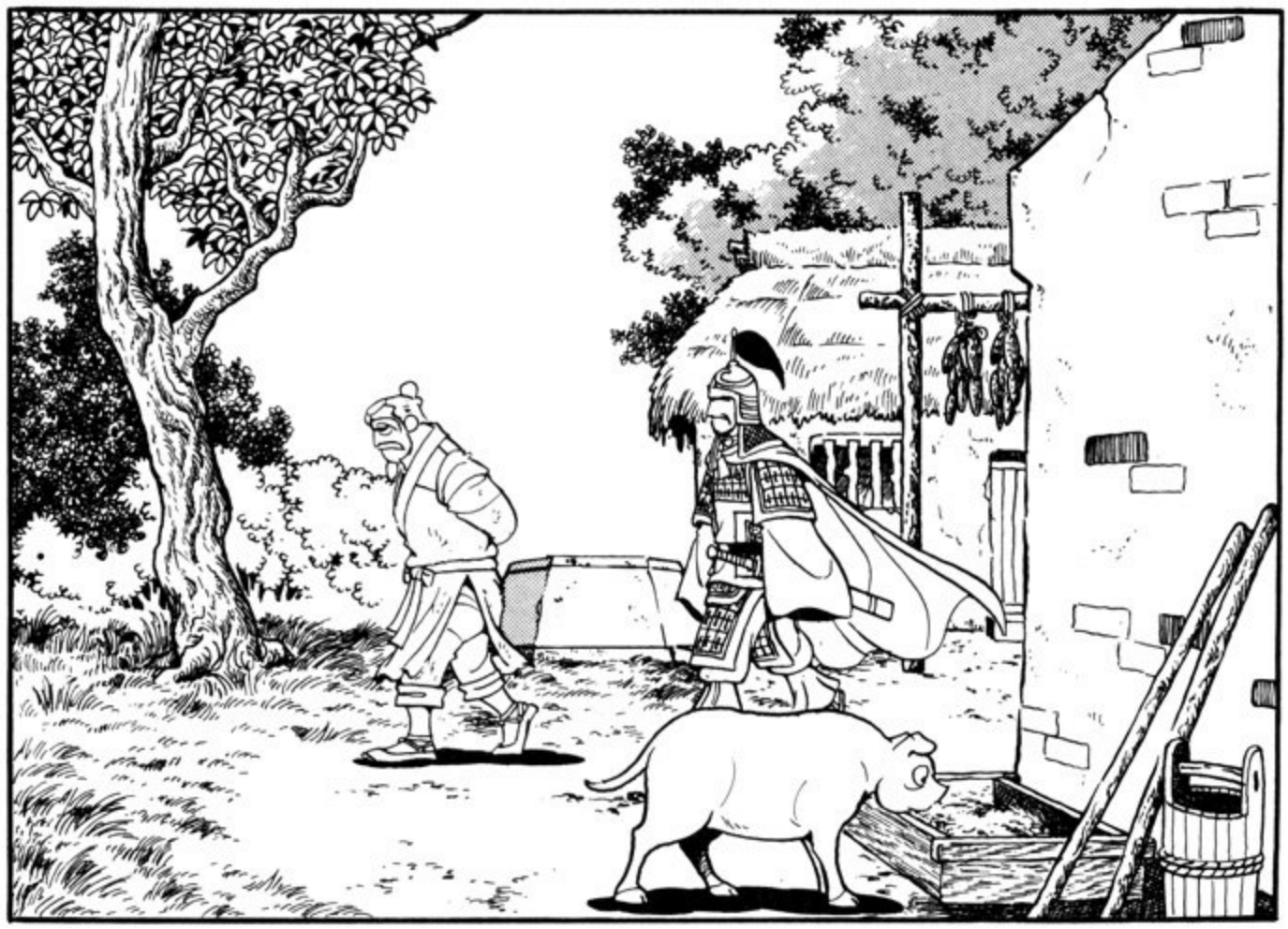
やはり引き返して
参られましたな。

わたしが引き返してくると……

はい、わたしの態度が気になって引き返してこられると……

ここでは人が多過ぎまする。人のいないところでお話しとうございます。
わかりました。

39



ここならば
人目も
ありませぬ。

あなたさまは
いまなんの方針も
ないまま
出陣なされようと
なされています。
これは飢えた虎の
前に肉を差し出す
ようなもので
ございます。
これでは
あなたさまも
食客も全滅し、
趙を救うことも
できませぬ。

あなたさまが
趙を救うには、
鄴城にとどまって
いる国軍を
連れていかねば
勝利はありませぬ。

40

でもそれは王が
お許しにならぬ。

それがしが
聞きましたところ、
晋鄙将軍の
軍令の割符は
いつも王さまの
寝所に置かれて
いるとのこと。

王さまは如姫さまを
誰よりも寵愛
なされておりまする。
如姫さまならば
いつでも寝所に
入れまする。

ところで如姫さまの
父親が人に殺された時、
三年の間 王さまや
まわりの人々に
仇討ちを
頼まれましたが
引き受ける者はなく、
信陵君さまに
泣く泣く
訴えられましたな。
そういう
ことも
ありました。

41

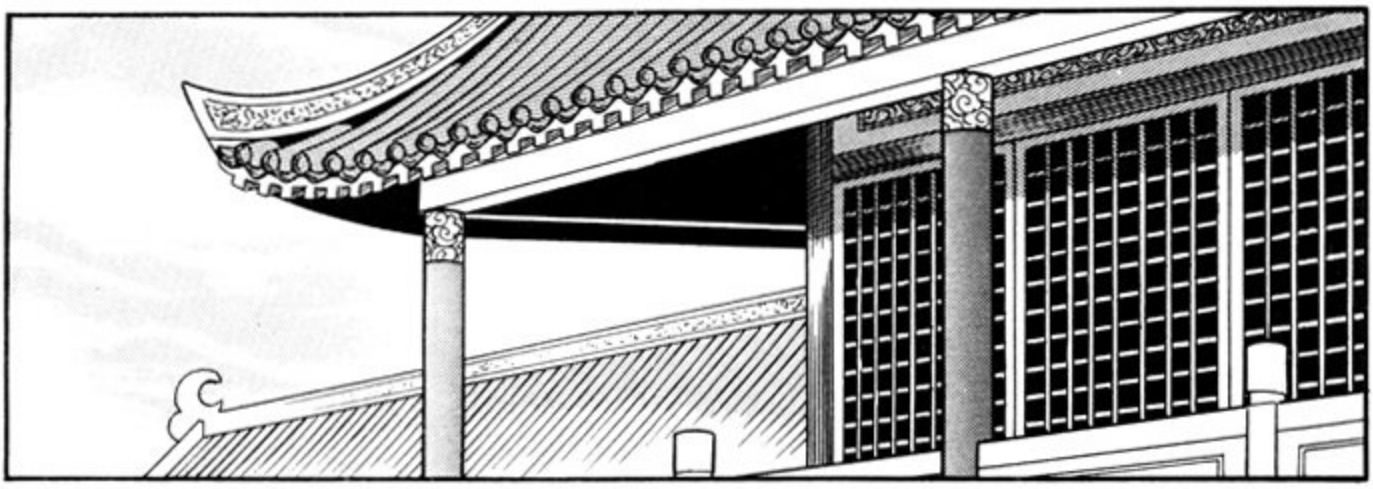
あなたさまは
食客を使って
犯人を見つけだし、
見事に仇討ちを
なされました。
あの時、如姫さまは
大変お喜びになり、
命にかえても
このご恩を返すと
申されました
そうな。

如姫さまに
軍令の割符を
手に入れてくれるよう
お頼みなされませ。
きっと協力して
下さりましょう。
それで国軍を動かし
趙を救うのです。

先生のおっしゃる通りいたしましょう。

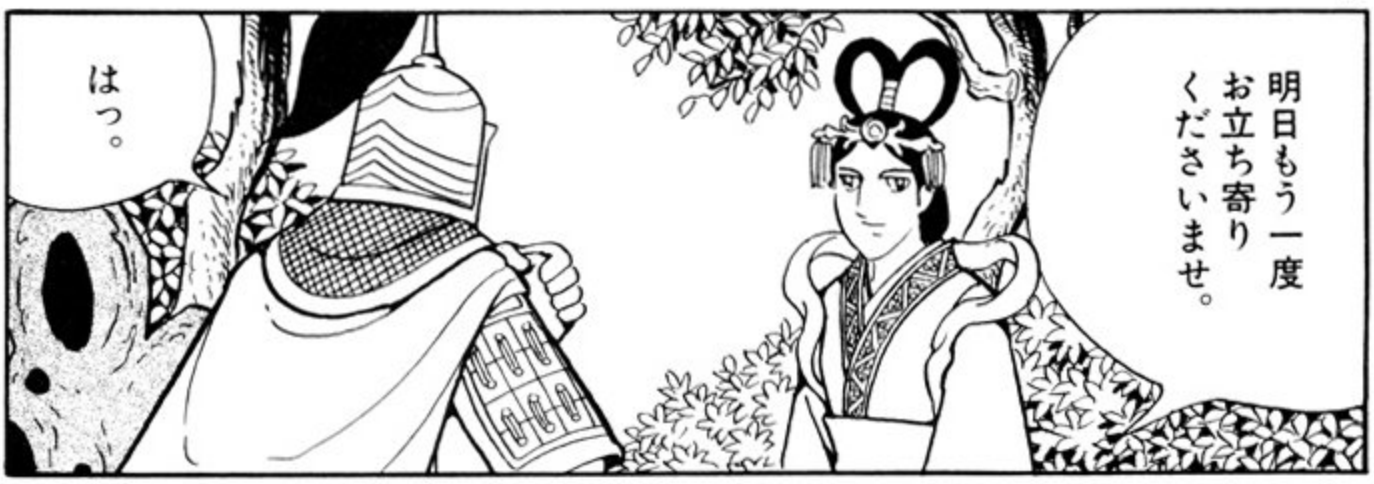
42

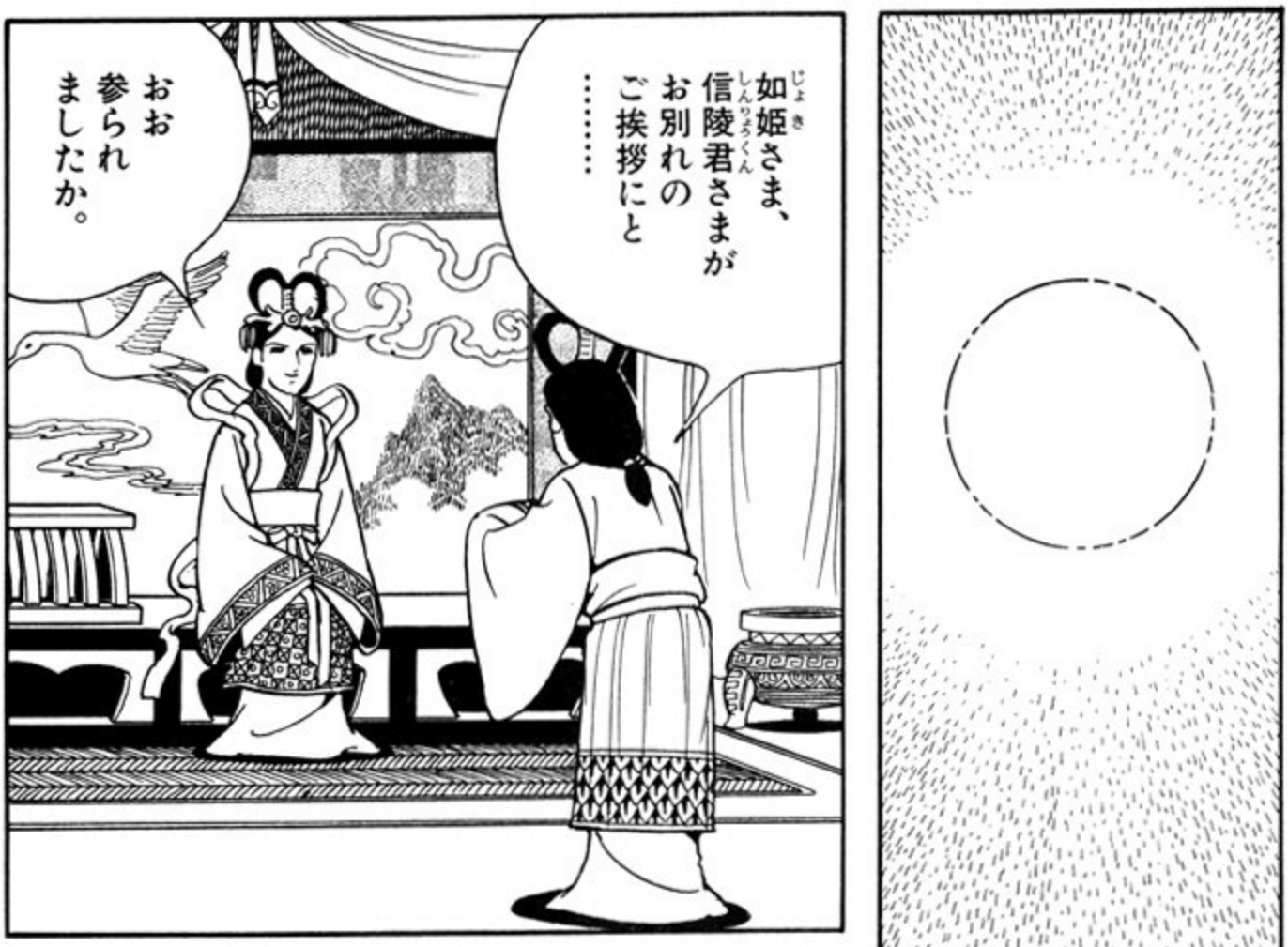
信陵君(しんりょうくん)はすぐに如姫(じょき)のもとへ向かった。



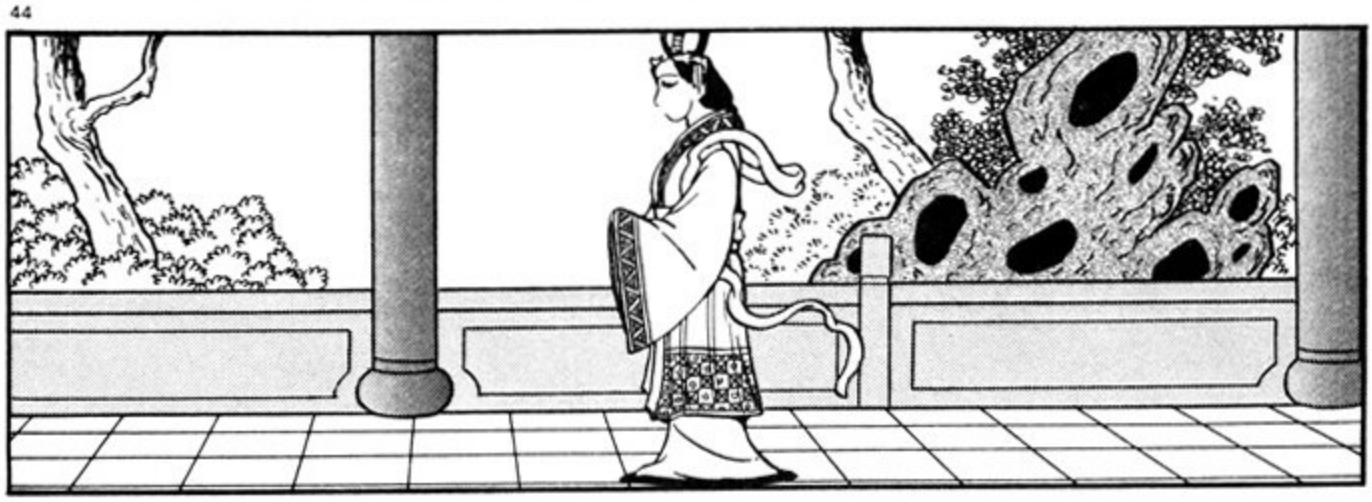
さようでございますか。割符が必要なのでございますか。
はい。

信陵君さまにはいつかご恩返しがしたいと思っておりました。喜んでご協力させていただきまする。


明日もう一度お立ち寄りくださいませ。
はっ。



44

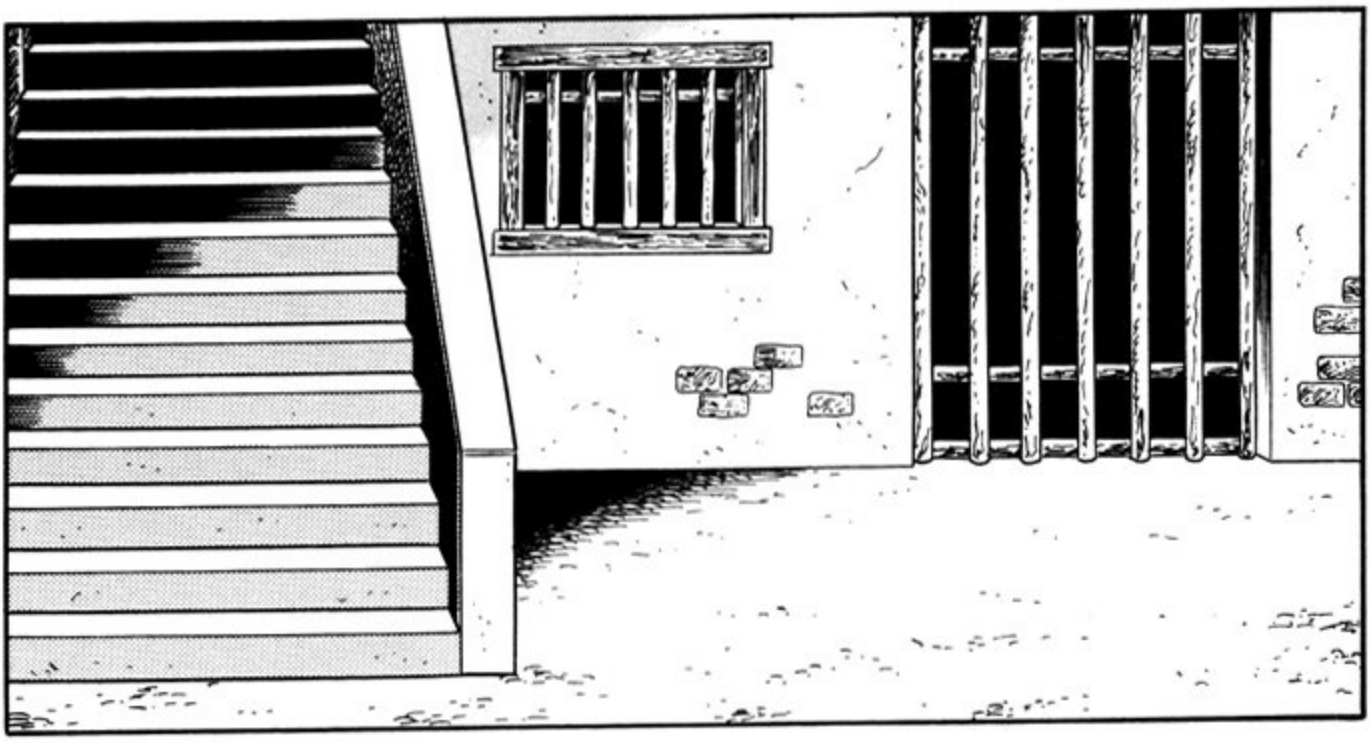


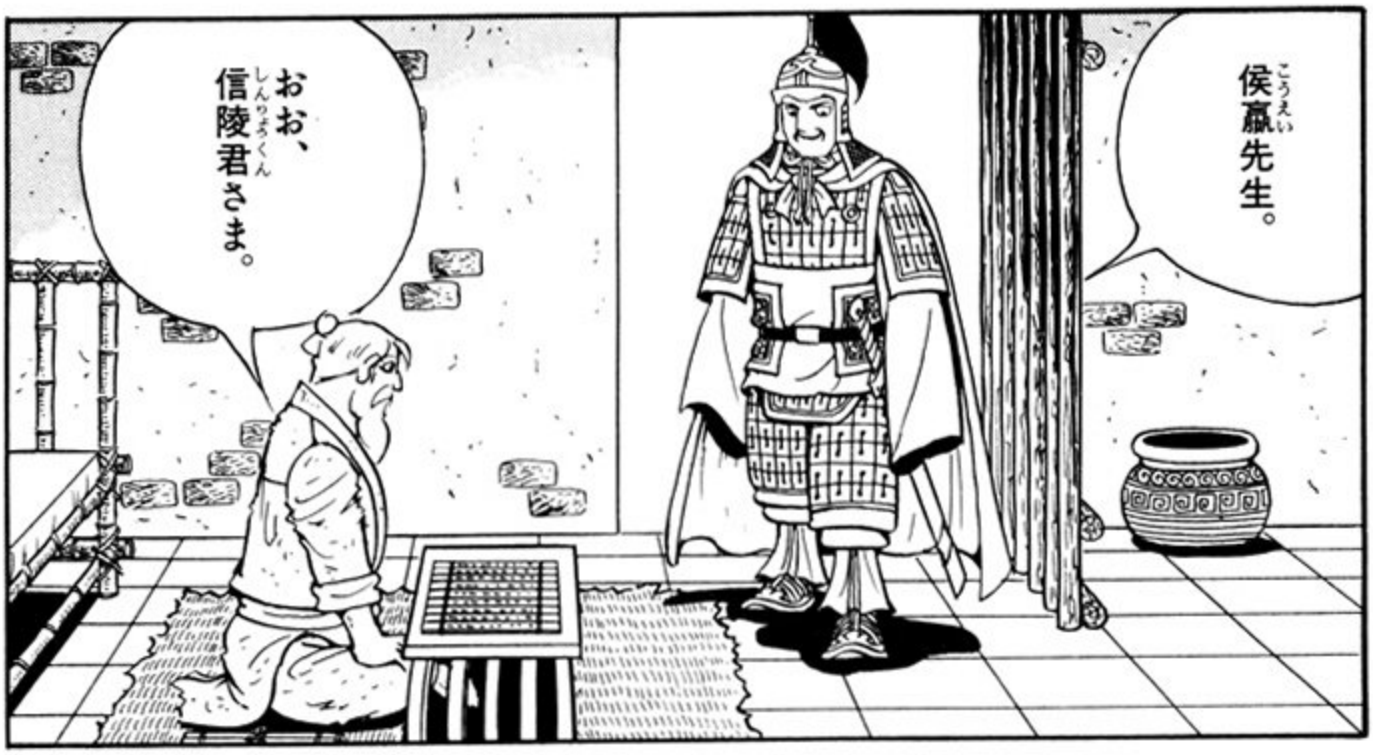
信陵君さま。
如姫さま。

これが割符でございます。

45

如姫さま、ありがとうございます。ただ、あとで如姫さまにどのような咎めがあろうかと……
いいえ、なにも心配なさらずあなたさまの信念どおりに行動なさって下さりませ。それがわたくしの恩返しでございます。





46

さて
これからが問題で
ございます。
晋鄙将軍が
その割符を見ても
確認のために
魏王さまに問い合わせを
出す心配がございます。
そうなれば
何もかも水の泡です。

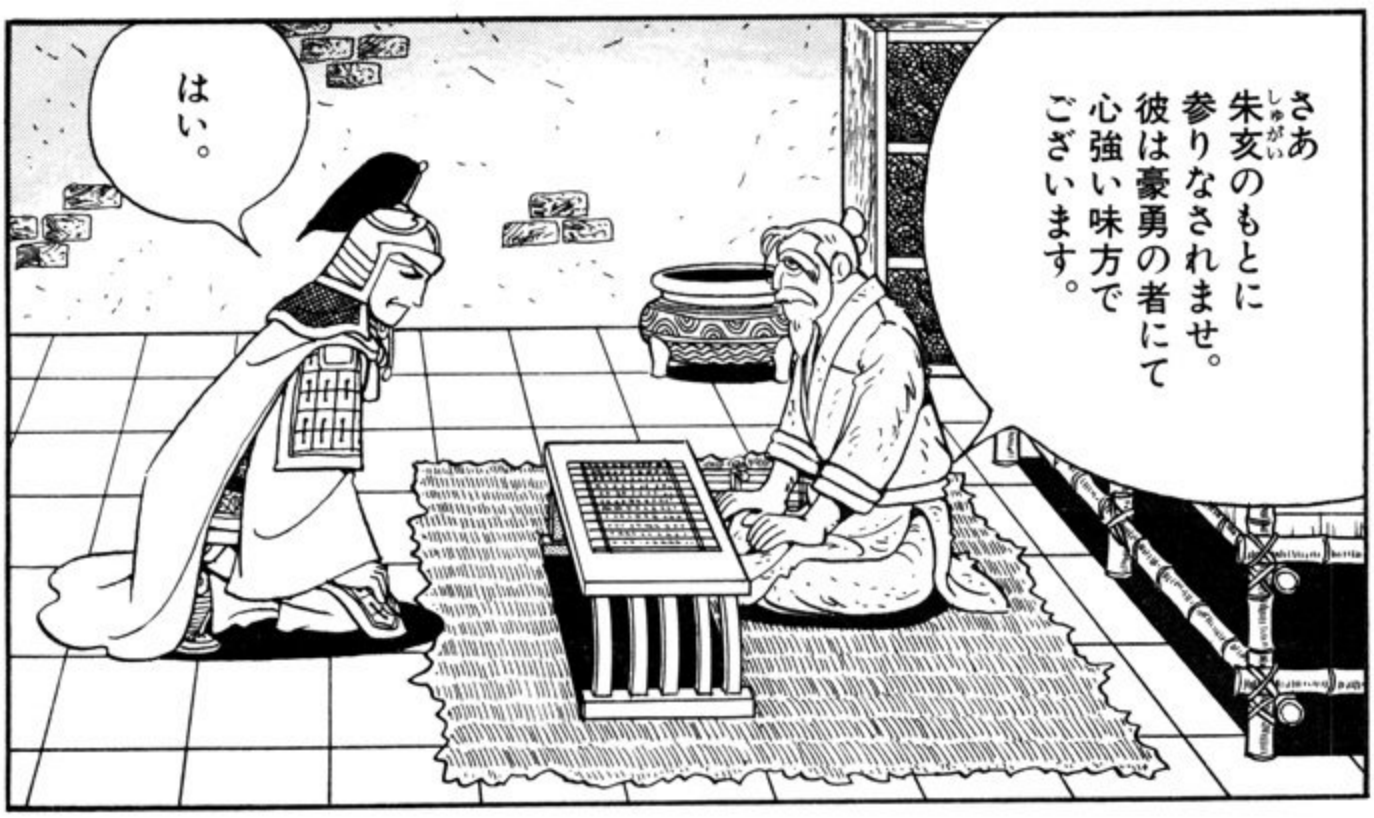
肉屋の朱亥を
お連れなさいませ。
晋鄙将軍が
素直に兵をわたせば
問題なしですが、
聞き入れぬ時には
あれに打ち殺させるので
ございます。

なぜ、
涙なされます。

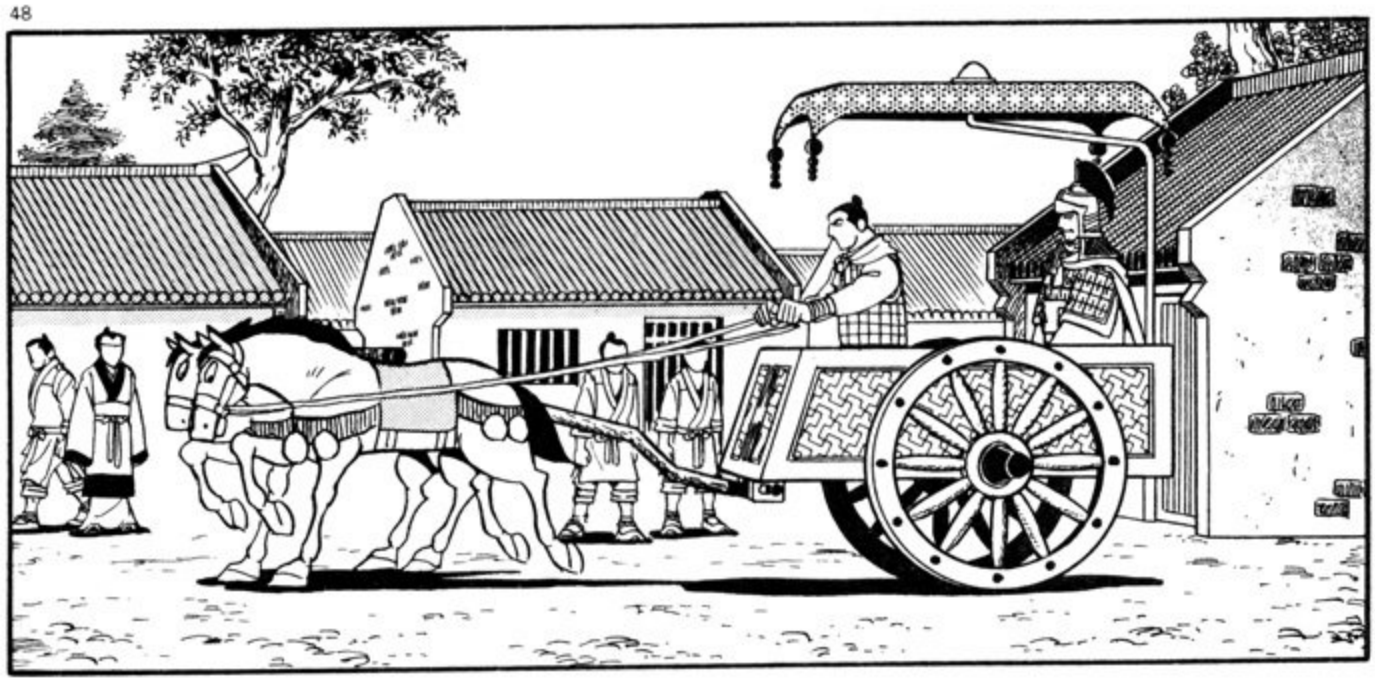
47

あの老将軍は
割符を見ても
素直に兵力は
渡すまい。かならず
確認の伝令を
飛ばすであろう。
ということは、あの
老将軍を殺さねば
ならぬ。それを
思うと涙が出るのだ。

そのお気持ちはわかります。しかしそこでひるんでは事は成りませぬ。
よくわかっております。


さあ朱亥のもとに参りなされませ。彼は豪勇の者にて心強い味方でございます。
はい。

48



朱亥どの。
ああ。

わたしはこれより趙を助けに参ります。わたしに力を貸して下さりませぬか。

ああ。

わたしは肉屋を営む一介の素浪人なのにあなたさまは何度も足を運んでくださいました。それなのにろくにお礼も申しませんでした。小さな礼儀は役に立たぬと思ったからです。

いまあなたさまは苦しいお立場……こんな時にこそ命をはって恩義に報いたいと思います。喜んでお供させていただきます。

50

51

信陵君さま、
客人のみなさまも
如姫さまも
あなたさまのために
命をかけられました。
それがしもあなたさまが
晋鄙将軍のもとに
行かれた頃あいをみて
この命をはなむけ
として捧げますよ。

何を
おっしゃられます。
先生には
充分な恩返しを
受けております。

さあ、
食客たちが
待ちくたびれて
いるであろう。

52

こうして
信陵君(しんりょくん)は
国境を
めざした。

魏

鄴城

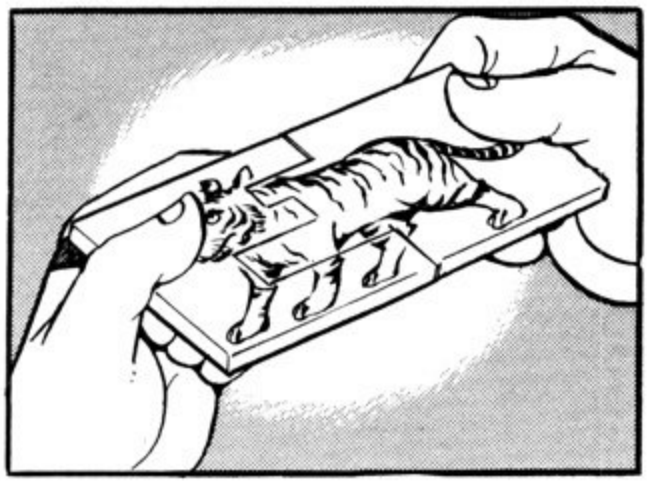
53

なにっ、指揮の交代ですと。

はい、王さまから割符をあずかって参りました。

では
確認させて
いただきます。

どうぞ。



54

だが一応
魏王さまに
確認させて
いただきます。

どうしてです。
まだなにか
疑問が
ござるのか。

「将外に在れば君命も受けざる所あり」と申します。現場の責任者として当然の行為とお考え下され。

55

おおっ。

あっ。

みなの者
晋鄙将軍は
君命に従わぬゆえ
処刑した。

しかし
晋鄙将軍は
魏の旧将、
丁重に葬って
くれ。

はっ。

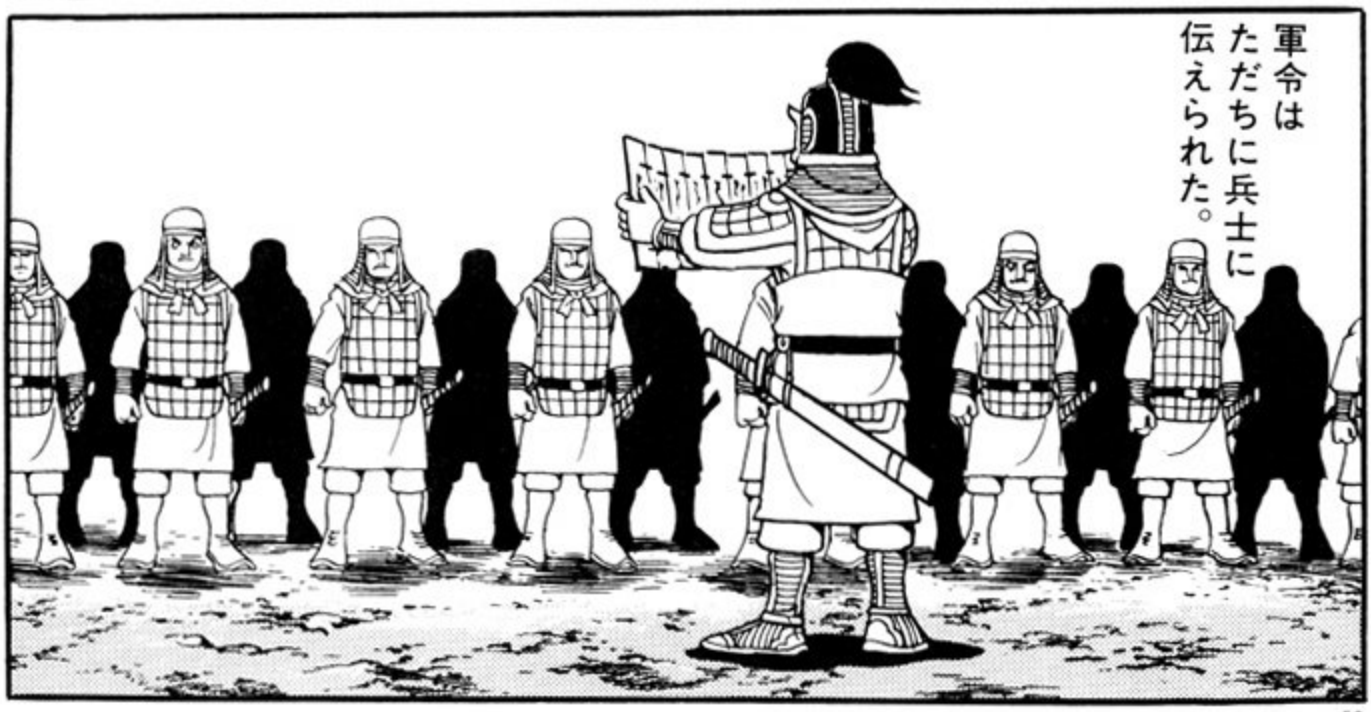
56

この頃
侯嬴も城内に
立っていた。

みなの者に
軍令を伝える、
兵士に伝えよ。

58

親子で従軍している者は
親を帰す。
兄弟で従軍の者は
兄を帰す。
ひとりっ子で従軍の者は
帰って
孝行をいたせ。

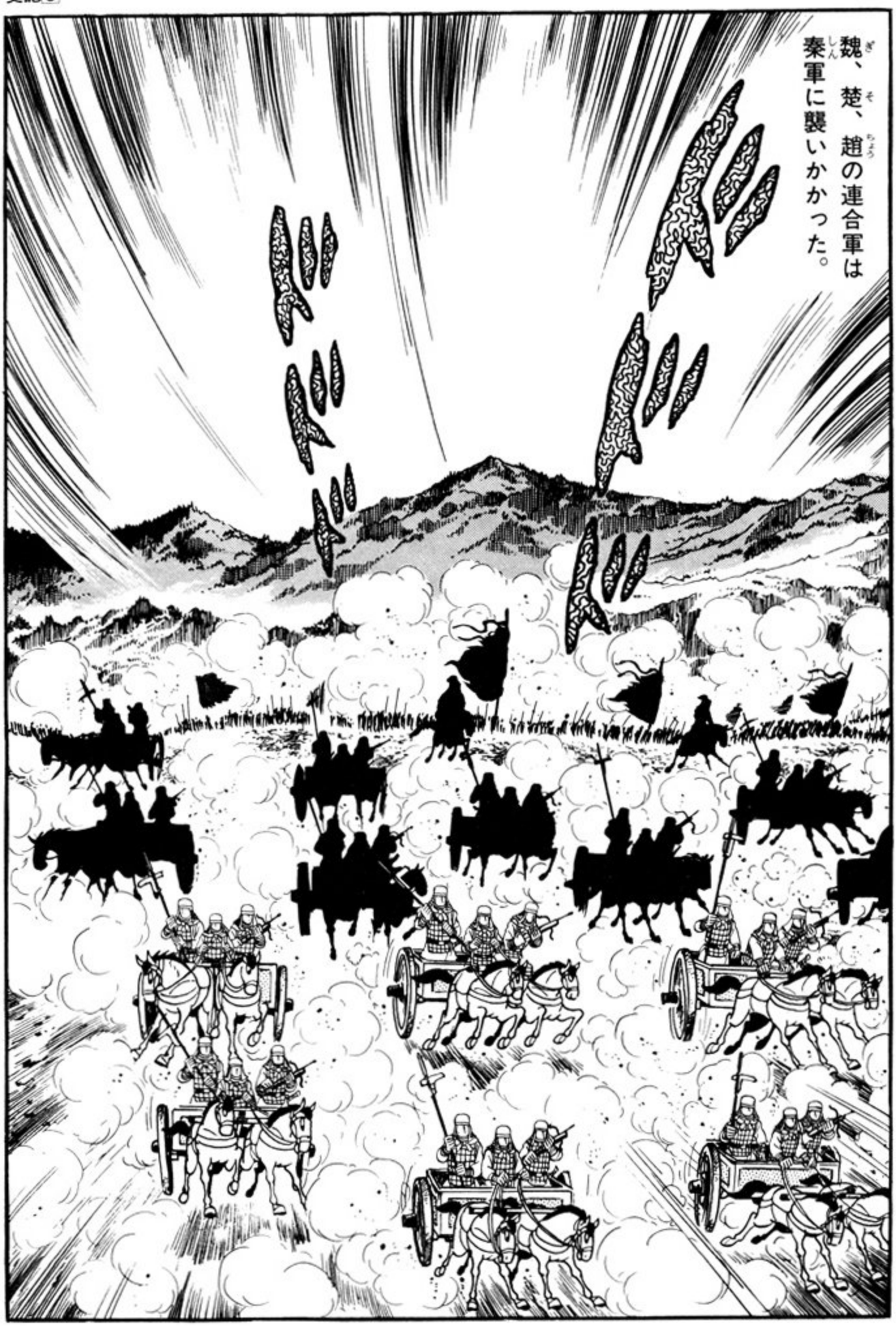


59

信陵君は
十万の兵を
引き連れて
趙へ発進した。

60

この時
楚も援軍を
送ってきた。



61

そして
勝ちほこる
秦軍を
撃退したのである。

62

この戦いで
特に信陵君の
働きは見事なもので、
秦軍は信陵君に
負けたと言っても
よかった。

63

そち達は
わたしの手足と
なってよく
戦ってくれた。
趙はこの恩を
忘れまい。

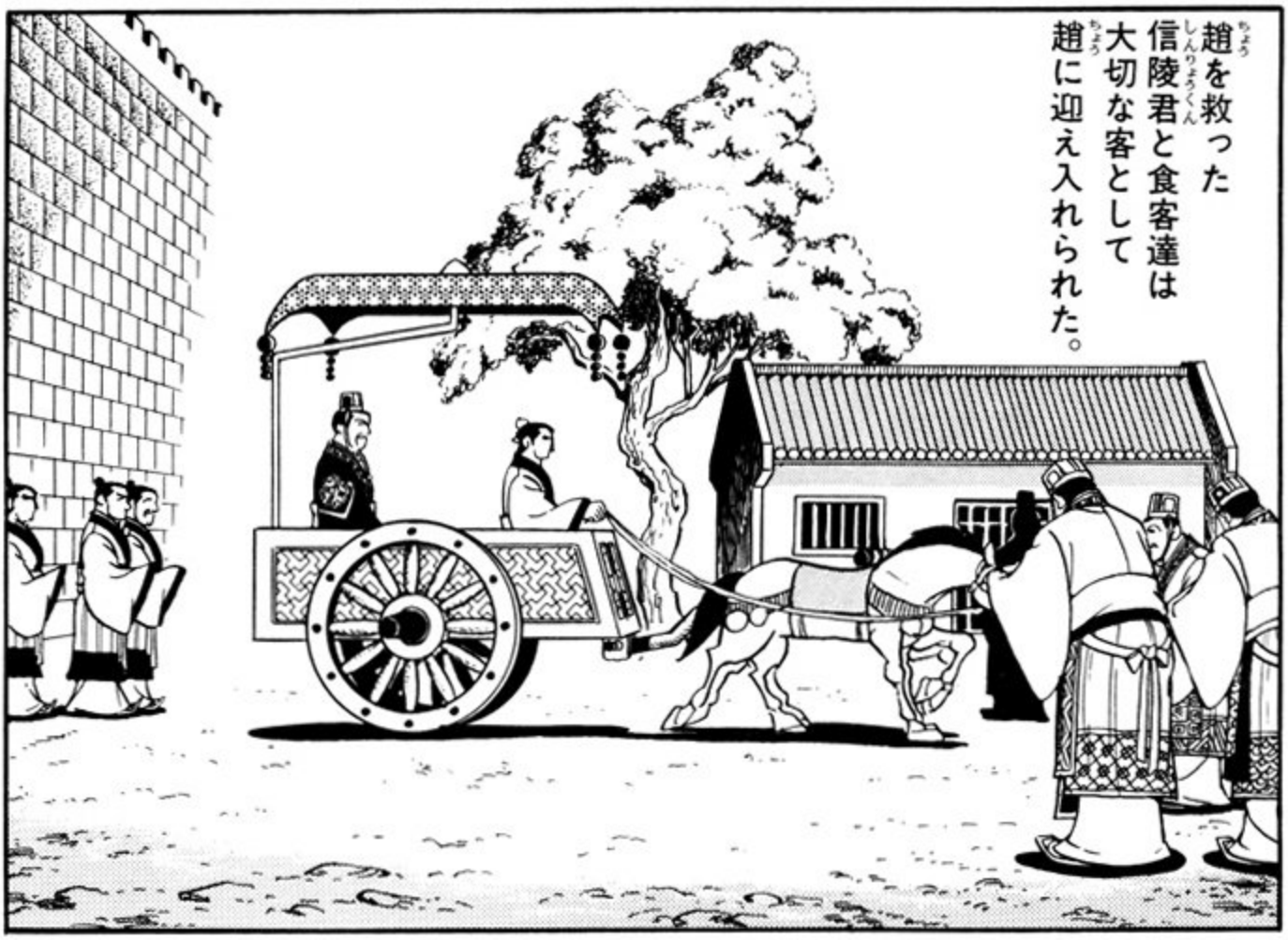
だがこれは
わたしが勝手に
やったことなのだ。

……

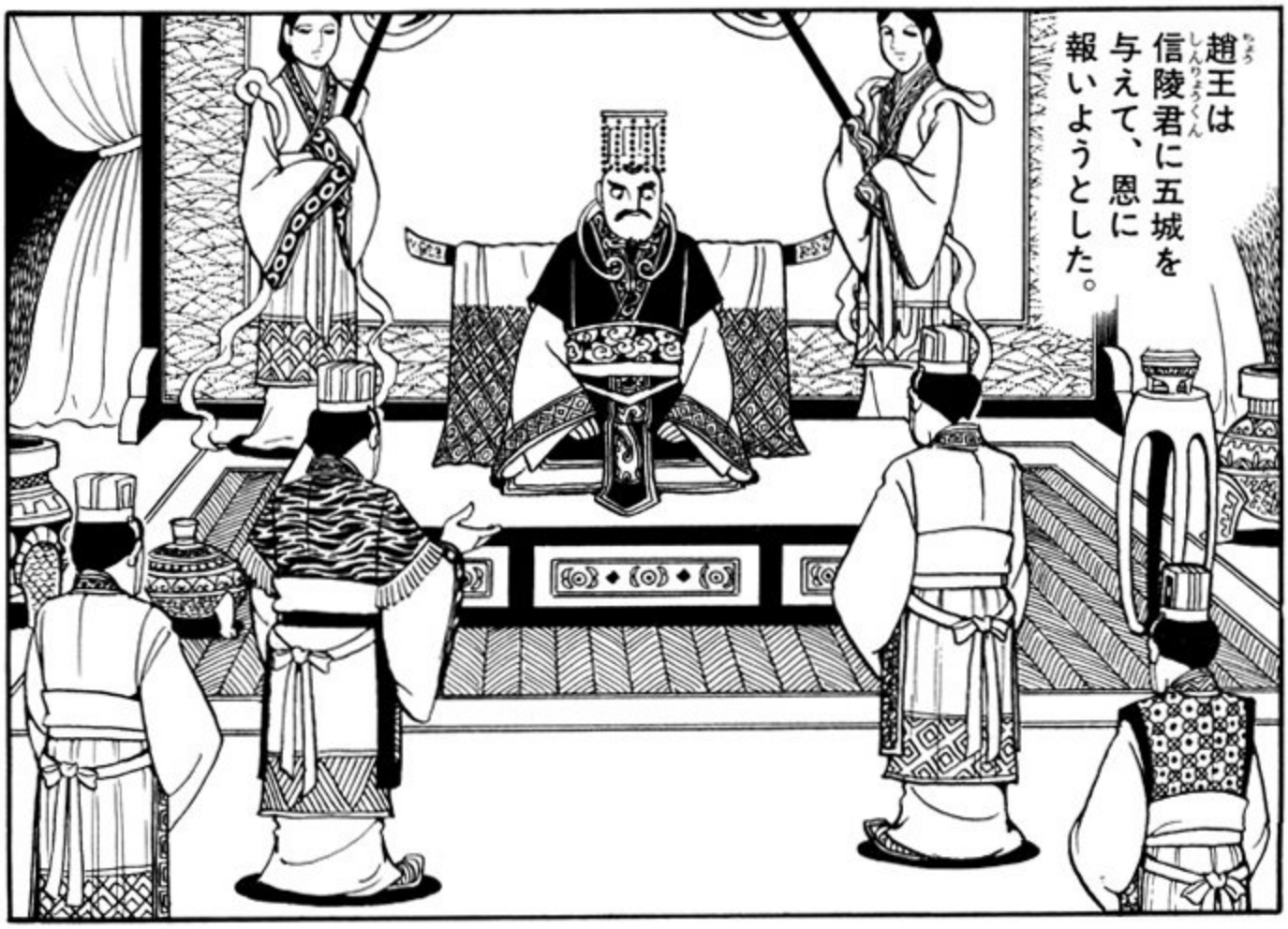
わしは魏の法を
犯したので帰れぬが、
そちたちは
わたしの割符を見て
従ったのだから
なんの罪もない。
帰国するがよい。

64

信陵君は
魏軍を帰国させ、
自分は趙に残った。


趙を救った
信陵君と食客達は
大切な客として
趙に迎え入れられた。

65


趙王は
信陵君に五城を
与えて、恩に
報いようとした。

66

信陵君さま、趙では信陵君さまに五城を与える相談をしてるそうですが…

おお、平原君どのからそのように伝えられました。

それで信陵君さまはどうなさるおつもりです。

受けようと思うのだが。

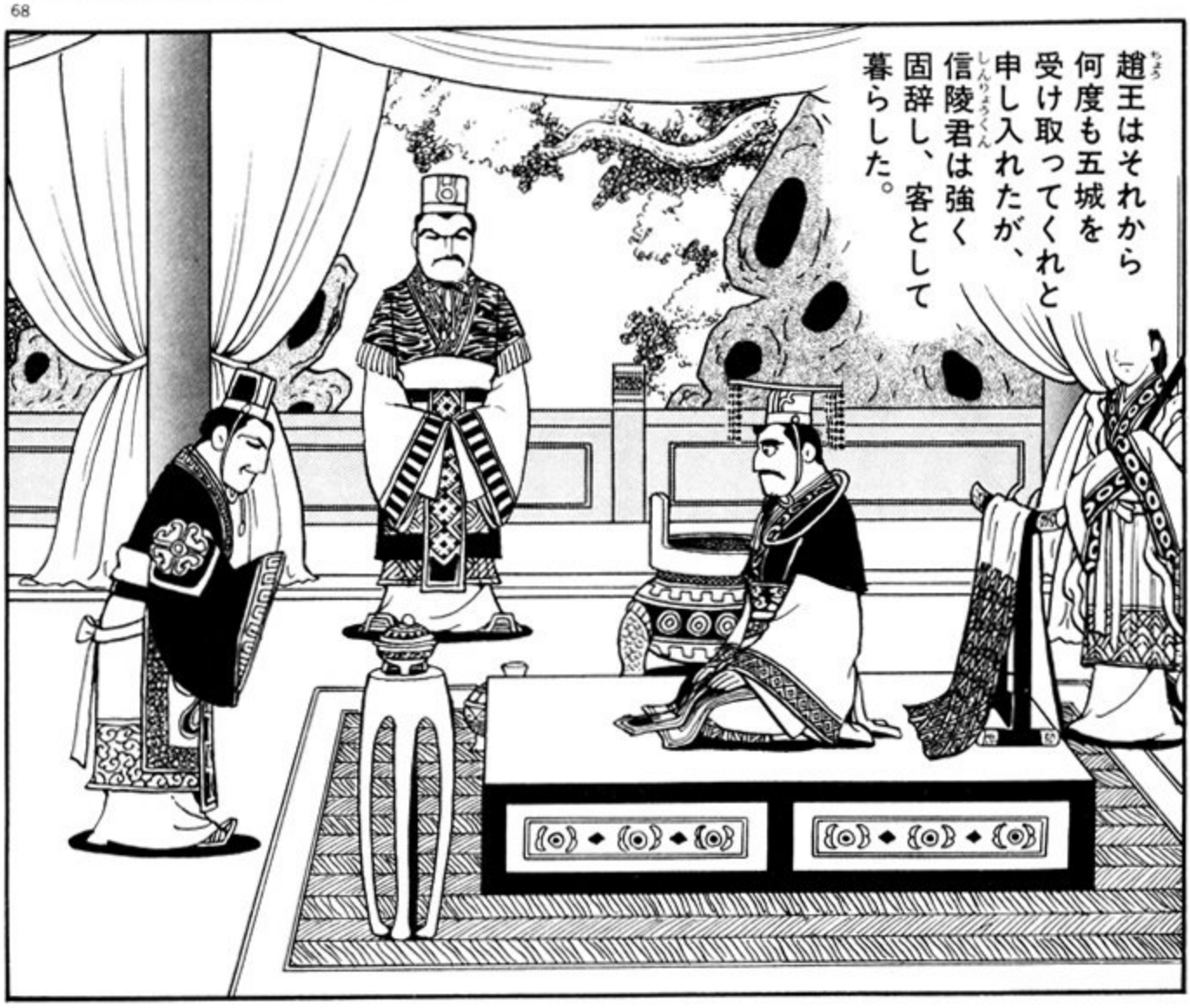
信陵君さま、人には忘れてはいけないことと忘れなければいけないことがございます。
ほう？

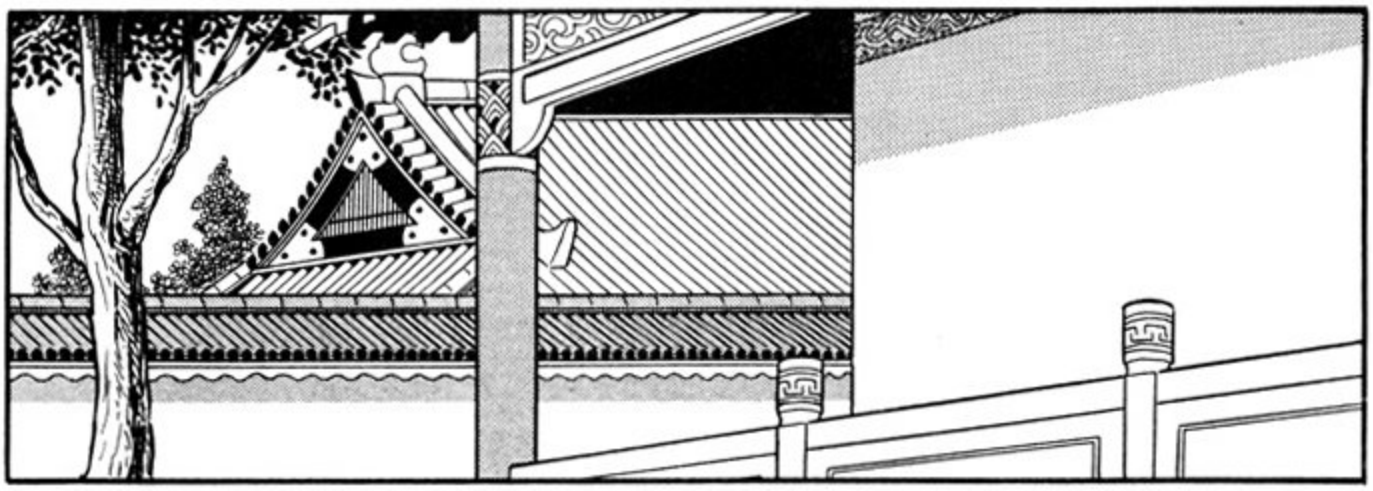
いままで信陵君さまに恩をほどこしてくださった人のことは、忘れてはなりませぬ。反対にあなたさまが恩徳をほどこされた人のことは忘れなければいけませぬ。

それに信陵君さまは魏王の命といつわって晋鄙将軍の兵を奪って趙を救われました。たしかに趙には功がございます。しかし魏に対しては不忠の臣です。もしこれを功だと思い五城を受けとれば、今まで受けた魏の恩を忘れたことになりまする。

先生、よくぞ教えてくださいました。もう少しで人の道を踏みはずすところでございました。

68


趙王はそれから何度も五城を受け取ってくれと申し入れたが、信陵君は強く固辞し、客として暮らした。



69

※汁物＝今でいえばジュース。

70

信陵君どの、やつらは酒を飲んで大きなことを言ってるだけの男達ですぞ。

71

あんたは？
信陵君さまの使いの者でございます。

信陵君さまがお二方をぜひ屋敷に招待いたしたいと申されておりまする。

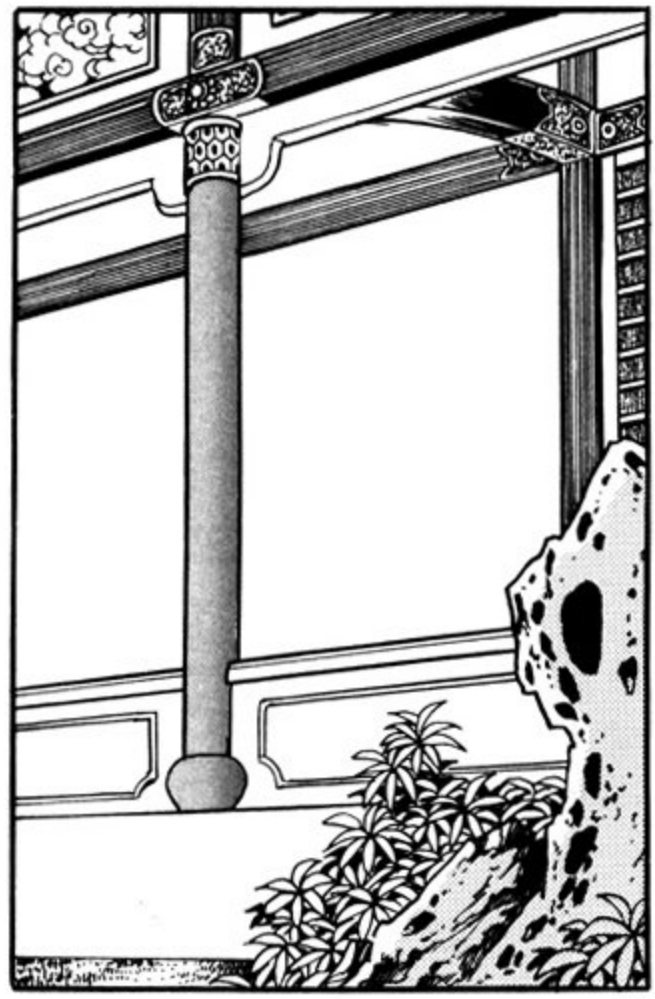
お断わりだね。

72

おれ達は権力に頭を下げるのがいやで浪人したのだ。そんな席に行く気はない。

さあ帰った帰った。おれ達の楽しみを邪魔せんでくれ。

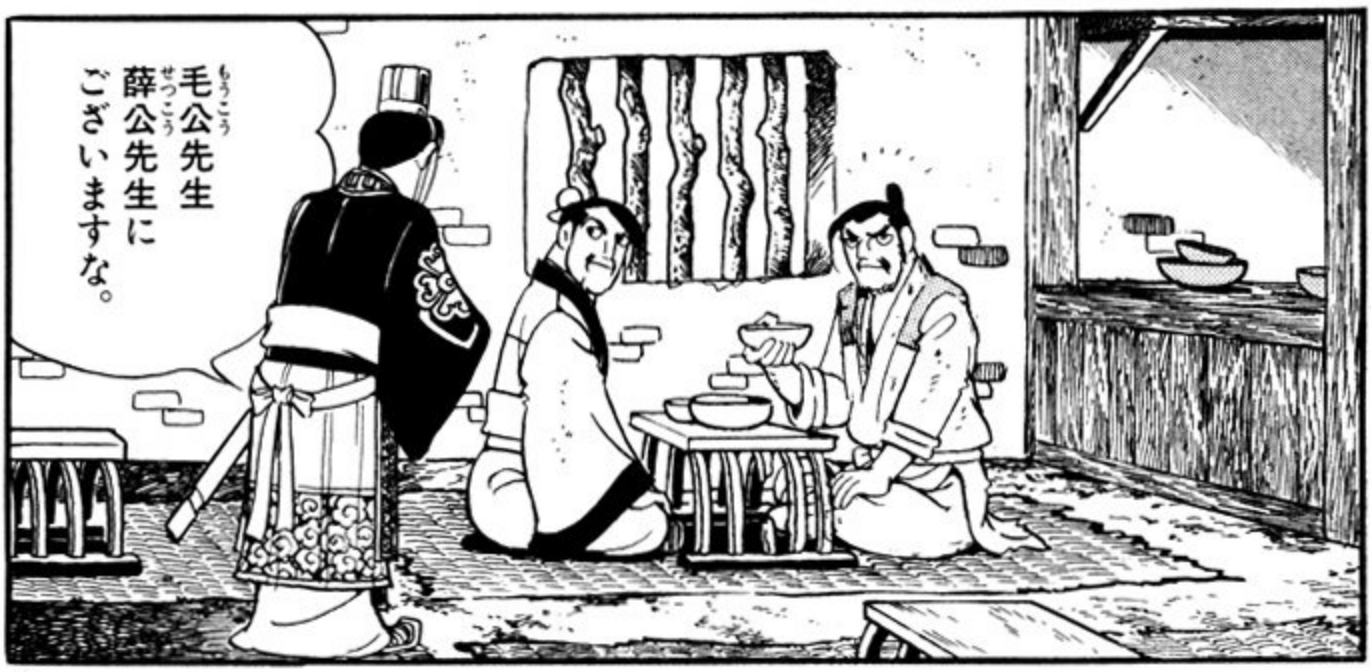
なに、断わられた。
はい、まったく礼儀知らずの連中です。



73

信陵君は徒歩で町に向かった。

いや、いきなり呼びつけようとしたわたしの方が無礼であった。

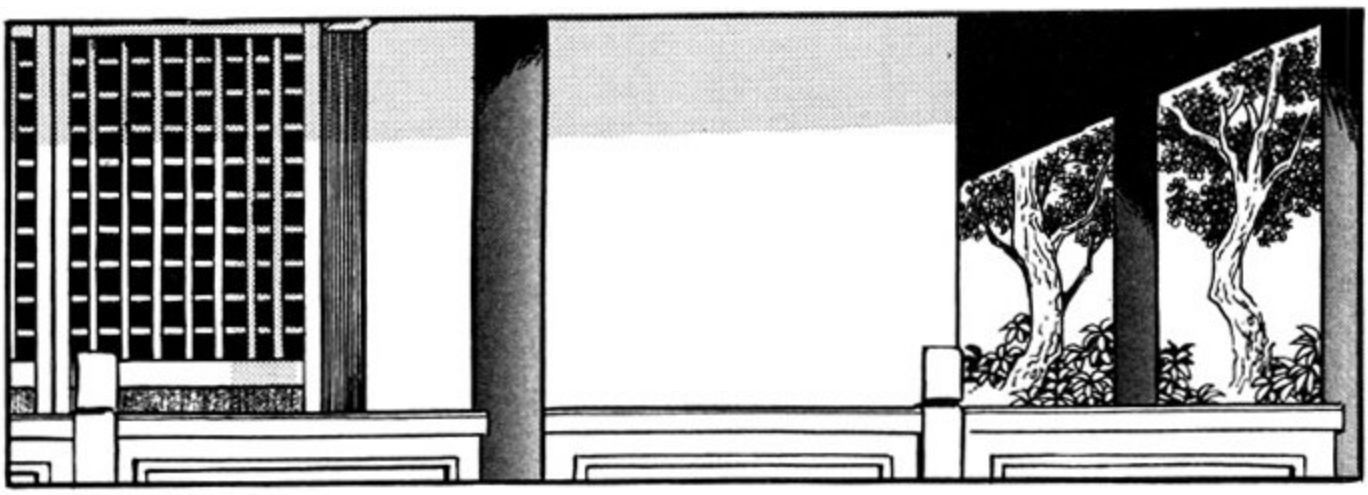


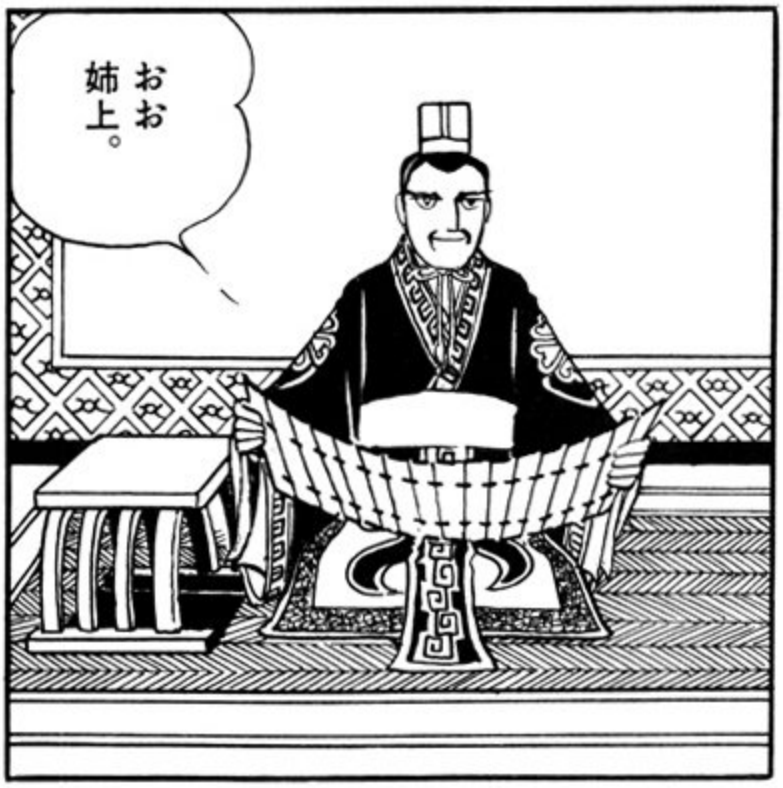
74

75

三人は意気投合し話ははずんだ。

はは
はは
はは

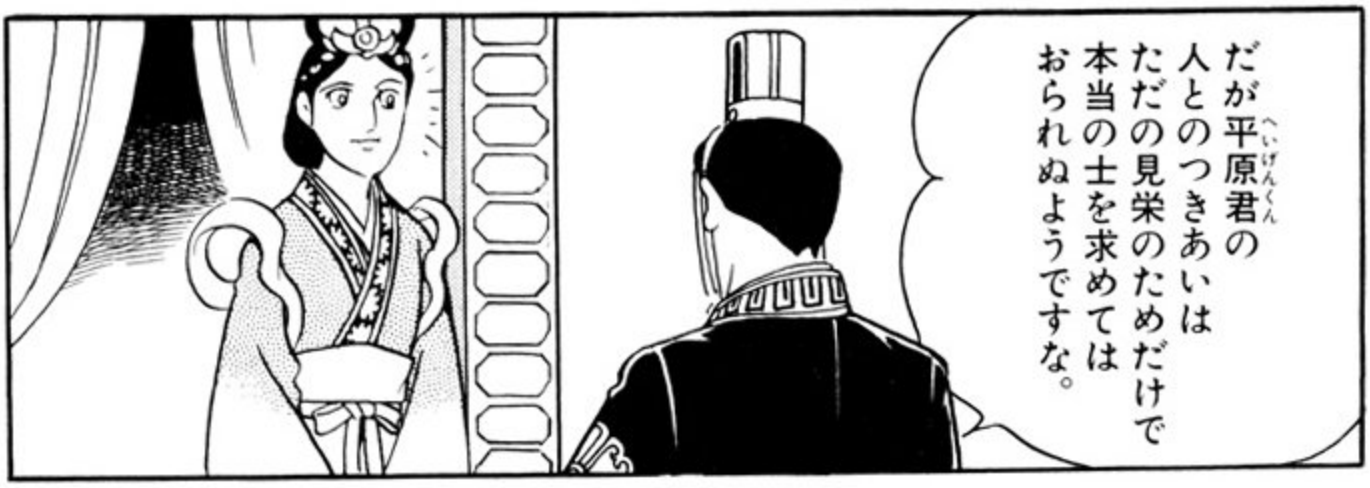




76

おまえの弟は天下にふたりとない人物だと評判だが、聞けば近ごろは博徒と酒を飲んで楽しんでいるとか……本当はだらしのない人間ではないのか。

77



わたしは魏にいた時から毛公と薛公はなかなかの人物と聞いておりました。趙に来てからも会っていただけるかどうか心配したほどです。

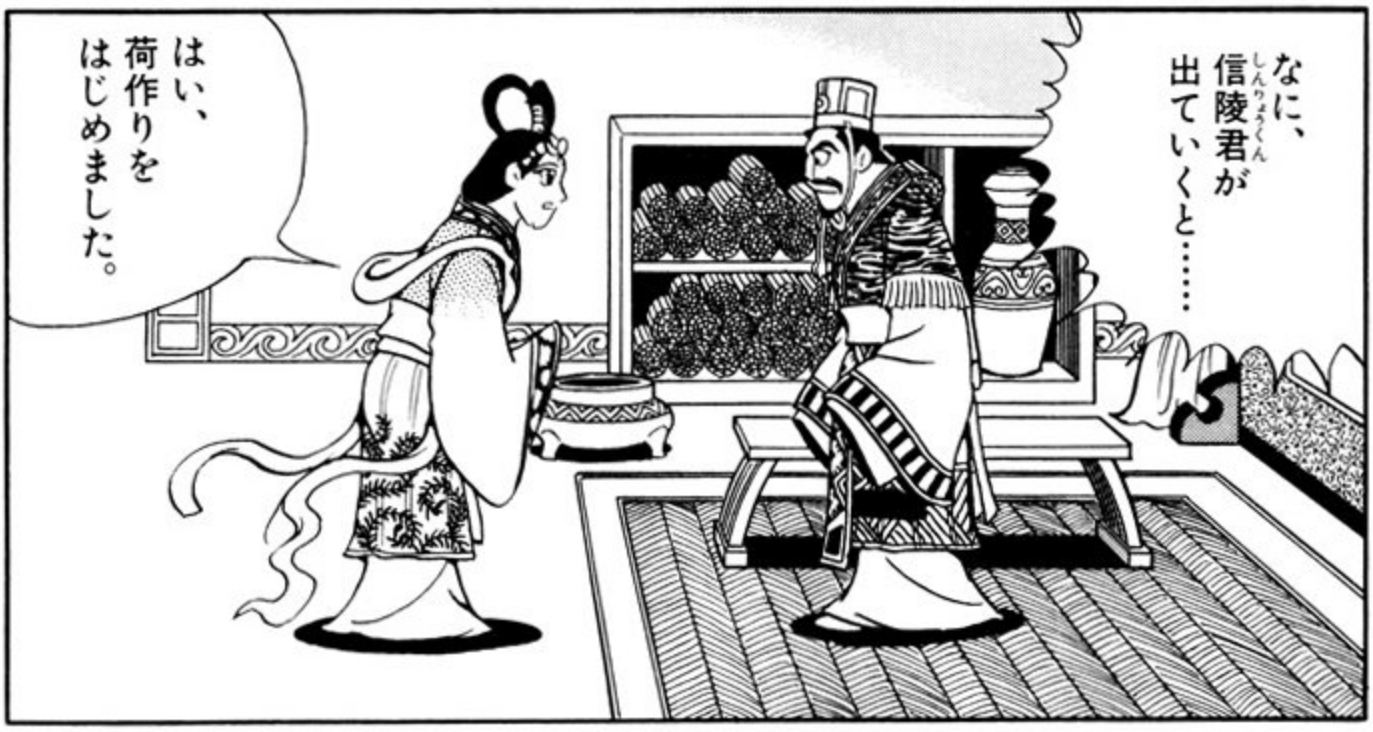
それほどの人物との交際を平原君が恥だと感じられるのなら、平原君こそつきあいに値しない人物です。わたしは趙を去ります。

これ、だれか！
はっ。

すぐ荷物をまとめよ。趙を出る。

78

これ弟よ、待っておくれ。ここを出てどこへ行こうというのです。主人が悪かったらあやまらせます。はやまったことはしないでおくれ。


なに、信陵君が出ていくと……
はい、荷作りをはじめました。

79

そ、それはまずい。信陵君がいるから秦は趙に手出しをしないのだ。

これ、すぐ馬車を用意いたせ。

平原君はおどろいて
信陵君のもとへ
駆けつけた。

80

そして冠をはずして
信陵君に
詫びたのである。

この話は平原君の食客の間にも広まった。

信陵君さまは身分に関係なく人を大切になされる。

そういうお方に自分の力を役立てていただきたいものじゃ。

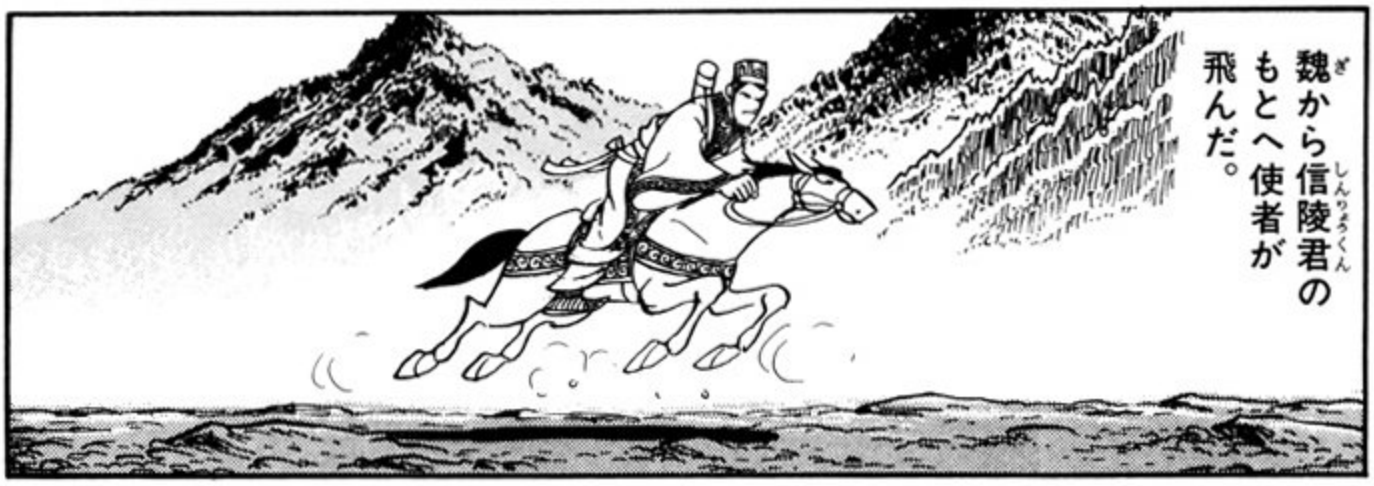
81

そうして平原君の食客半分が平原君を見捨て信陵君のもとへ身を寄せたのである。

一方、信陵君(しんりょうくん)のいなくなった魏(ぎ)は秦の標的となった。

82

秦(しん)はたびたび侵攻をくり返した。


魏から信陵君のもとへ使者が飛んだ。

なに、わたしに帰国してくれと……
はい、魏王さまが強くお望みでございます。

83

罠だ……口実をもうけてわたしを呼び出し処罰する気だ！
そういうことはよくあることなので、信陵君が疑うのは無理なかった。

ご使者よ、わたしは魏で罪を犯した人間だ。帰れるわけがなかろう。

その罪は問わぬと申されております。

魏王にお伝え下され、信陵君は帰りませぬと。

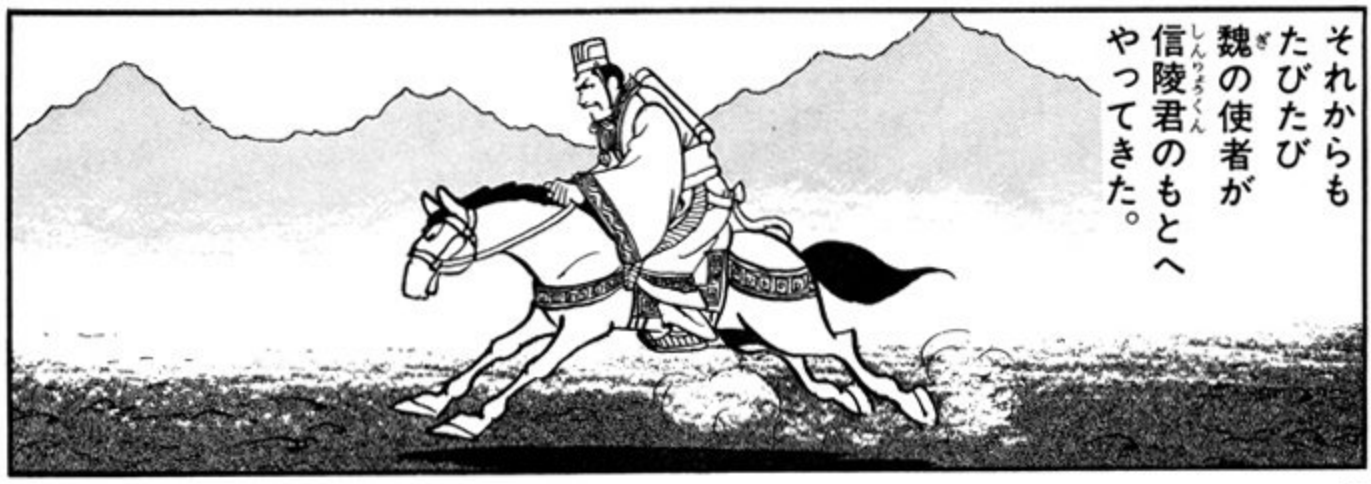
はっ。

84

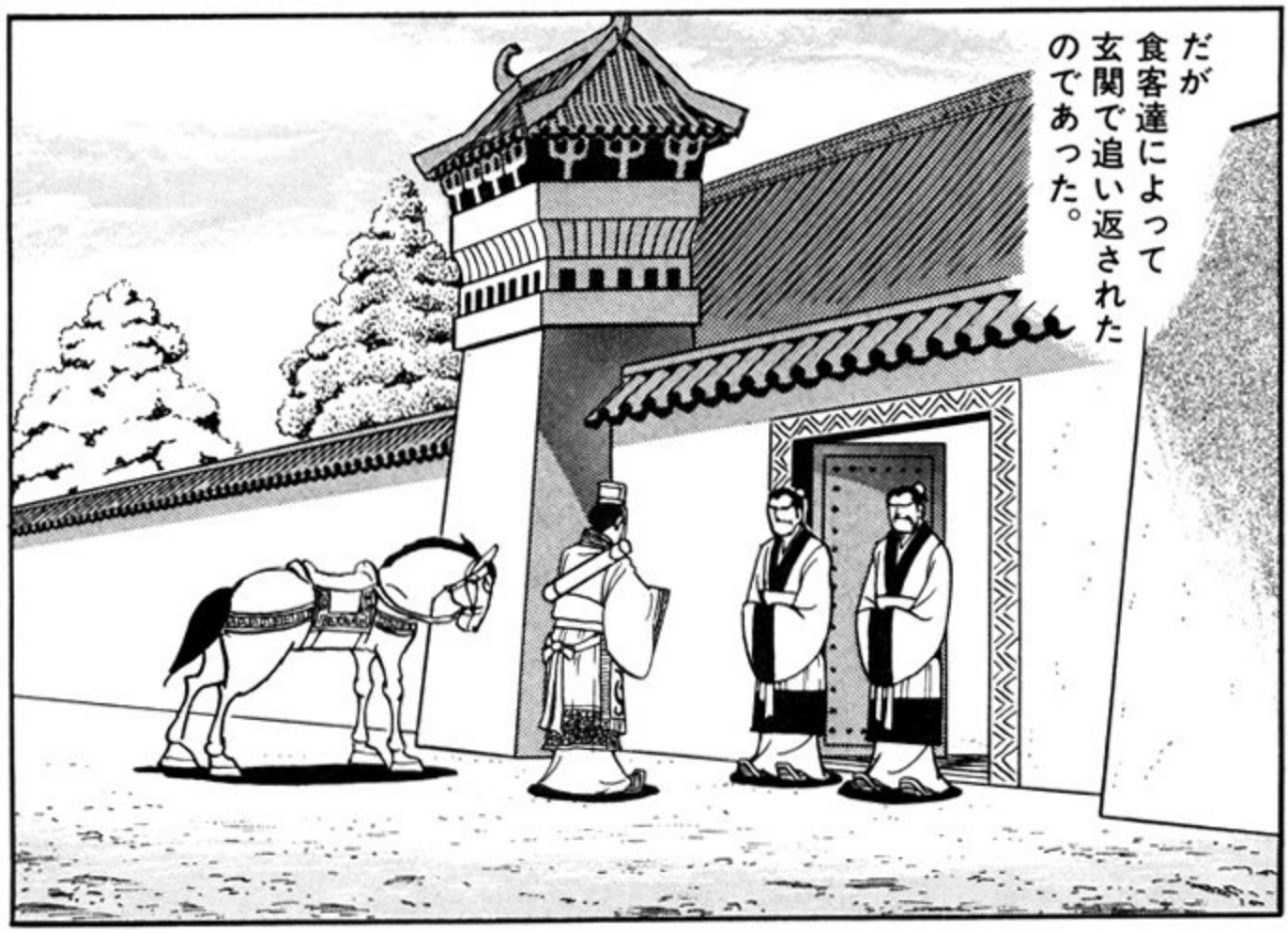
先生方、わたしの態度は間違っておりましょうか。
食客たちは返事に困った。自分達も魏にそむいて趙に来たのである。帰るようにと諫められなかった。

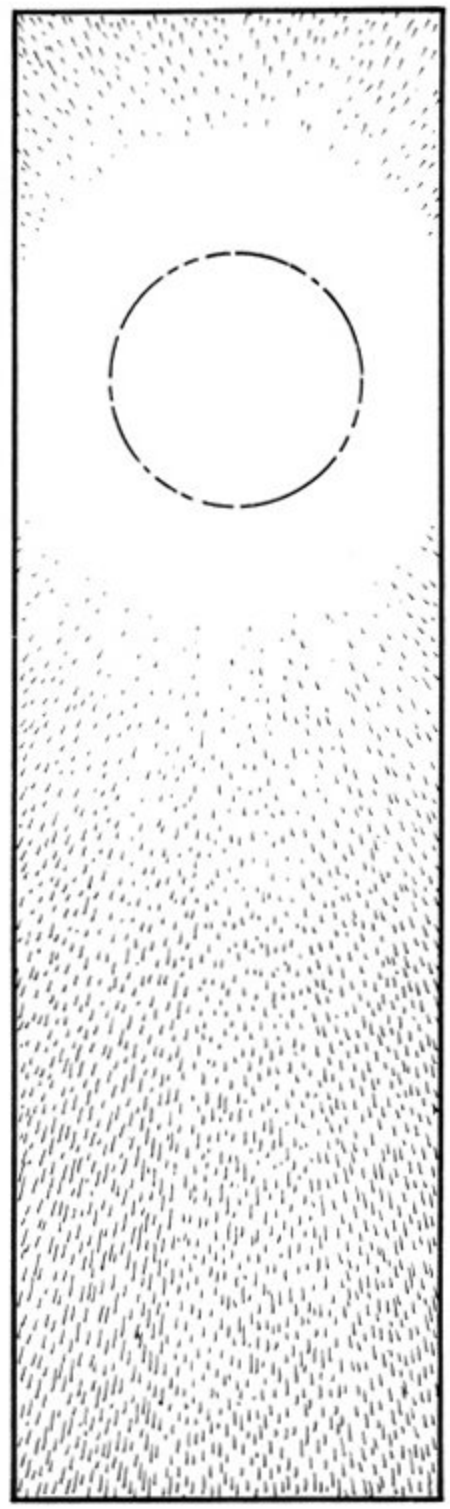
先生方、これから魏の使者が来ても取次がないでくだされ。

わかりました。

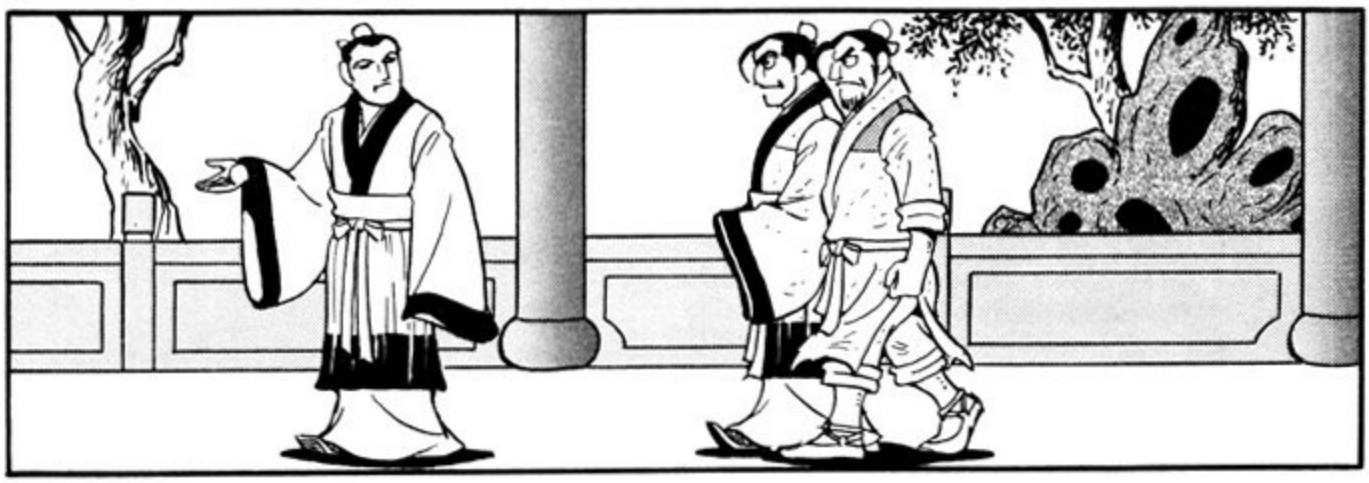

それからもたびたび魏の使者が信陵君のもとへやってきた。

85


だが食客達によって玄関で追い返されたのであった。



86



これはこれは両先生、ご用がありましたらわたしが居酒屋に参りましたのに。

いえ、今日は信陵君さまをお諫めに参ったのじゃ。

87

もし魏が滅亡すれば天下の諸侯はなんと言いましょう。平気で母国の滅亡を見ていた男と申しましょう。

先生のおっしゃる通りです。わたしは魏あっての信陵君なのです。

88

先生、ありがとうございます。

いえいえ、信陵君さまの名を汚さずにすめたことをうれしく思います。

これ、すぐに帰国の準備だ。

こうして信陵君は食客をつれて帰国した。魏を出てから十年目のことである。

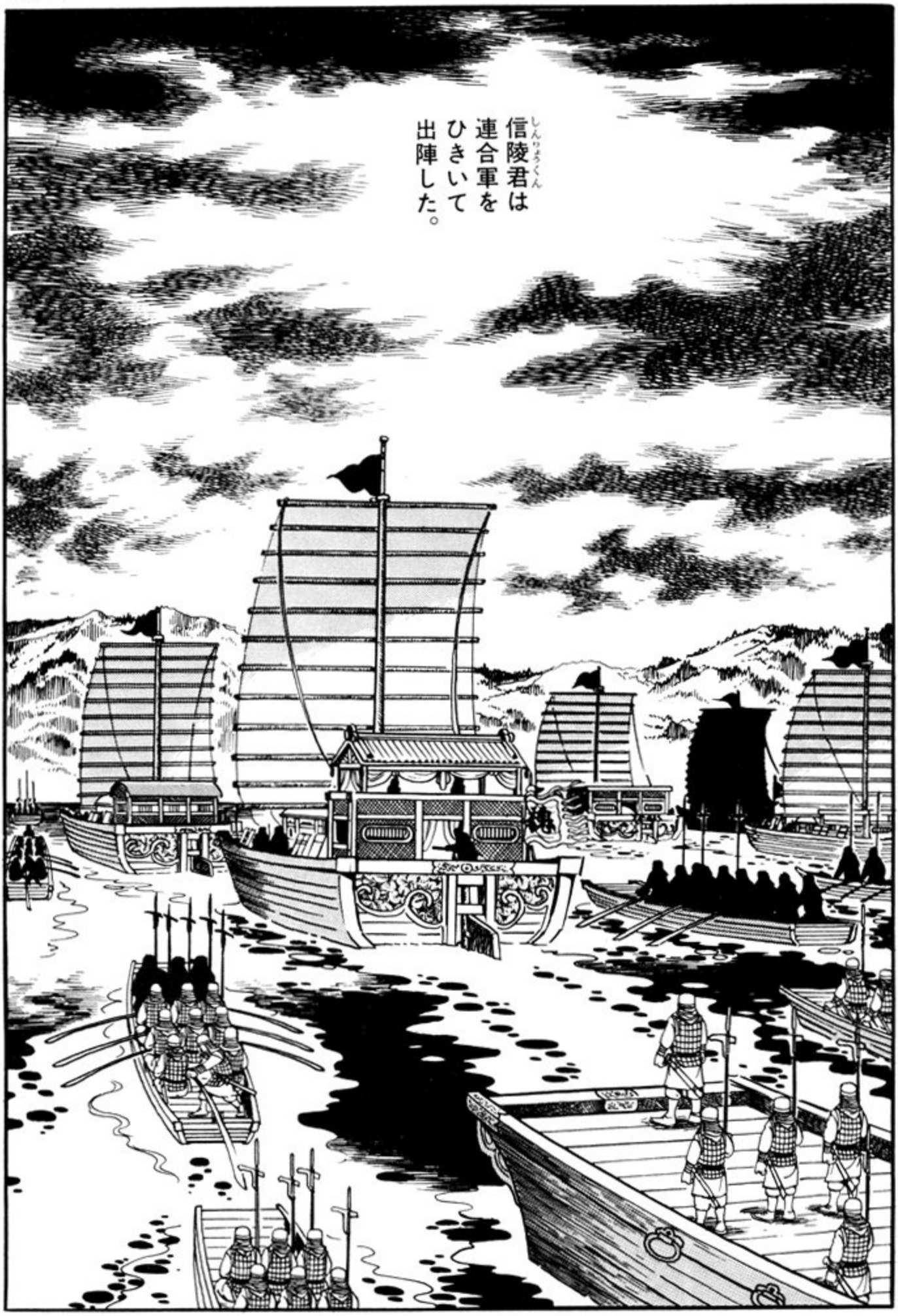
89

魏王は涙せんばかりに喜んで信陵君を上将軍に任命した。

信陵君は諸国に自分が上将軍に任命されたことを通知した。

90

これを聞くや楚、趙、韓、燕が続々と援軍を送ってきた。



91

そして黄河の南で秦軍と激突した。

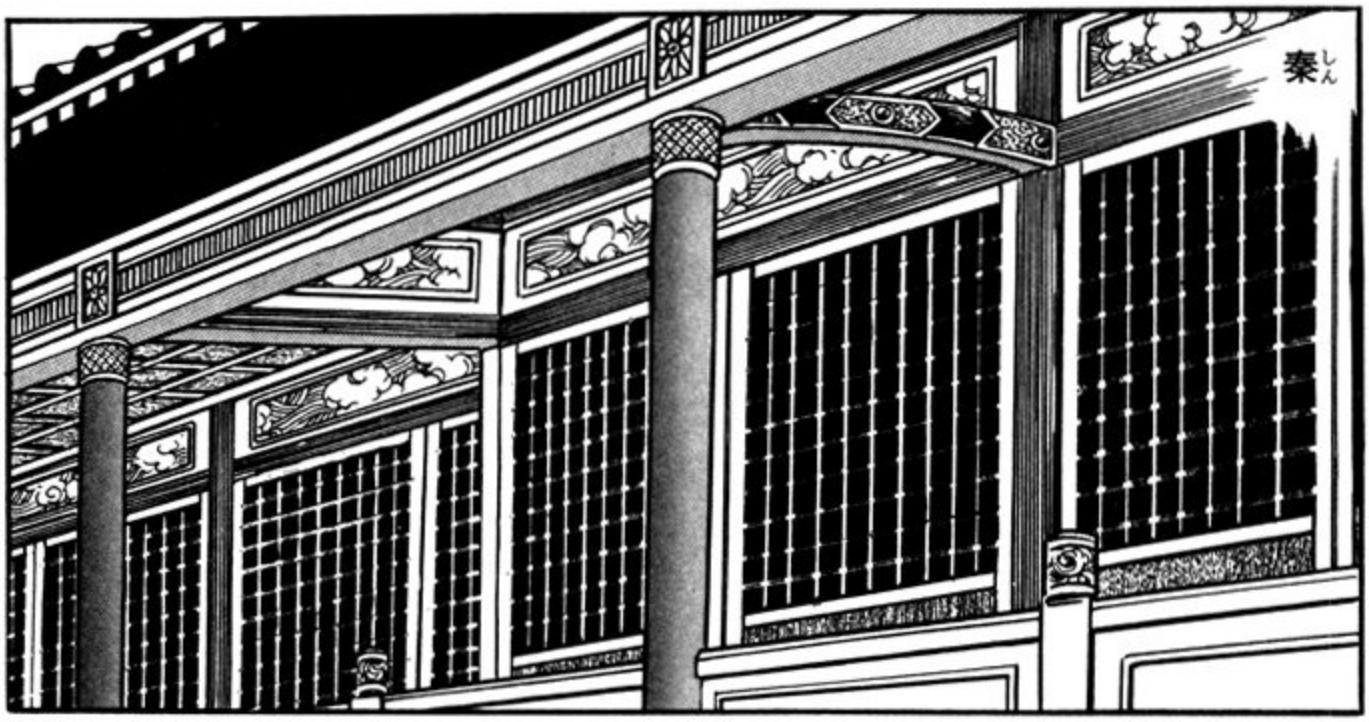
92

信陵君の作戦は見事なもので秦軍の砦を次々と撃破し……

ついに秦の要害・
函谷関まで
押し戻ったのである。

93

ここを突破することは
むずかしく、連合軍は
ここで引き上げたが、
信陵君の武威は
天下に轟いた。



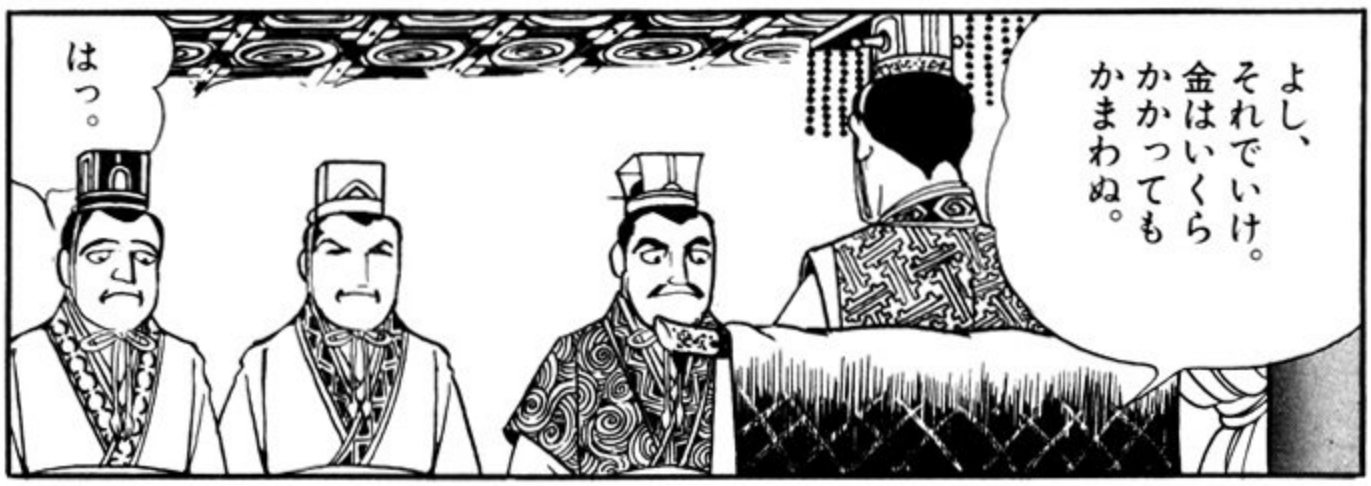
94

信陵君は諸侯に人望があり、このままでは秦の天下制覇など出来ませぬ。

では われらは方針を変更せねばならぬのか。

いやいや、まだ手はありますぞ。信陵君と魏王の間をまずくするのです。

信陵君は晋鄙将軍を殺しています。晋鄙将軍の食客達はそれを恨んでおりましょう。その者達を見つけ出し信陵君が王位を狙っていると噂させるのです。


よし、それでいけ。金はいくらかかってもかまわぬ。
はっ。

秦の間者たちは晋鄙の食客達を探しだした。

そして信陵君が王位を狙っていると噂するように頼んだ。

秦はこのために一万斤の黄金を使った。
（一斤は十六両 一金は十両）

先生、信陵君が王位を狙っていると申されるのか。
はい、その通りです。

96

信陵君は
趙に十年も逃亡して
おりながら、
いまは魏の上将軍、
そして五か国連合の
総帥でございます。

諸侯の心は
信陵君についており、
魏王さまを
無視しております。
信陵君は王位を
狙っておりますし、
信陵君が動けば
諸侯は信陵君に
味方しようと
しています。

97

秦の「離間の策」は
さらに手を加えてきた。
わざわざ魏に
即位祝賀の使者を
送ってきたのである。

えっ！ 信陵君さまは
まだ即位なされては
おりませぬのか。
即位されたと聞いて
祝いの品を持って
参ったのですが……

98

魏王は震えあがった。
信陵君には
それだけの力が
あるからである。

魏王は信陵君を解任し、またも政治の場から外した。

99

信陵君は失意のためそれ以後、病気と称し参内せず、酒と女に溺れる日々を過ごすようになった。

100

第4話

奇貨居(お)くべし

呂不韋は陽翟の人で
諸国を歩いて商売を
する大商人であった。
この日も商用で
趙の都・邯鄲へ来ていた。

2

あの若者
身分のあるお方の
ように見える
が、
着てるものは
貧しいのう。

ああ、
あのお方は
秦の人質の
子楚さまで
ございますよ。

秦の人質。

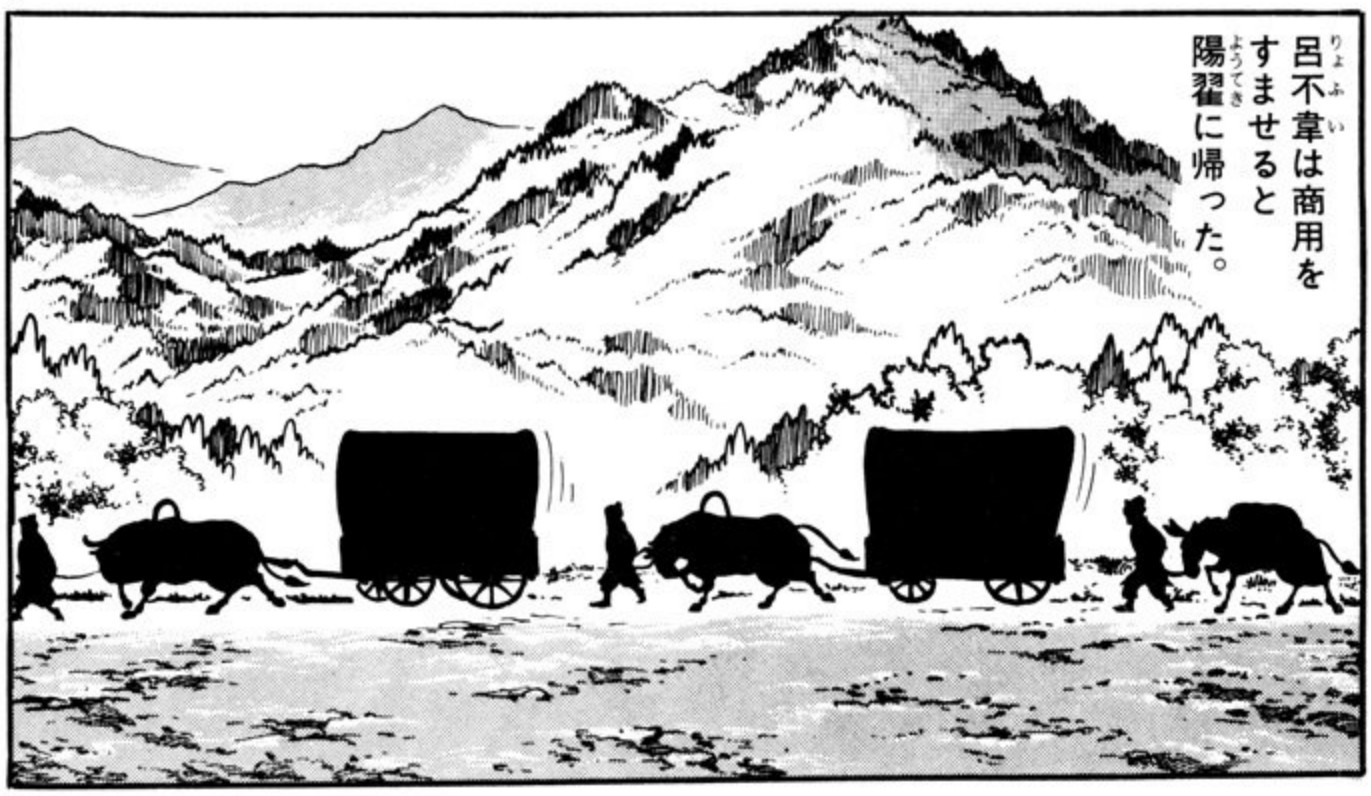
3

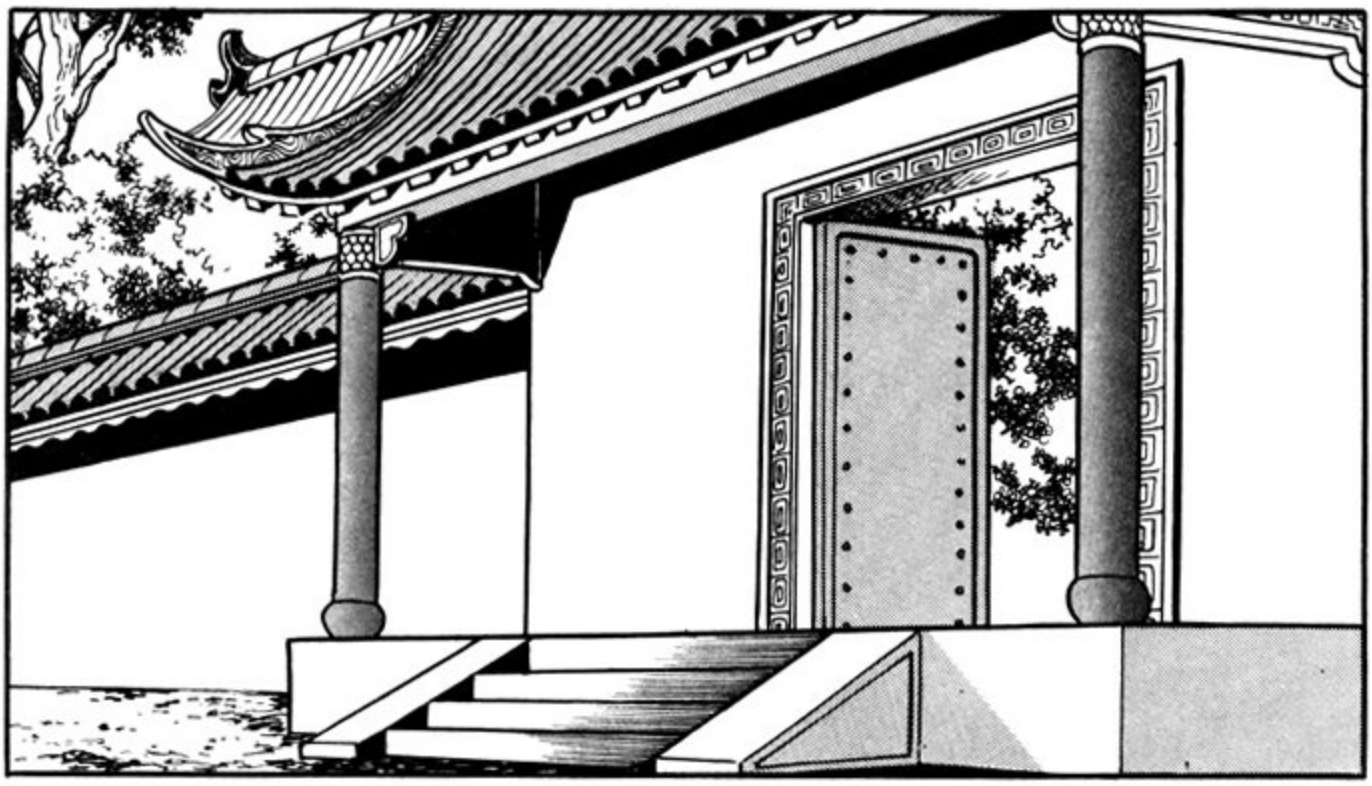
秦の太子
安国君さまの
お子で人質として
送られてきたのですが、
秦と趙の仲が
険悪になってからは
粗末にあつかわれ、
今では食事にも
こと欠くありさまとか。

さようですか、お気の毒な身の上でございますな。
公子といっても城や領土をもらえる人もいれば、こうやって他国の人質になりいつ殺されてもおかしくない人もいるんですな。

これは奇貨(きか)(将来値がはねあがる商品)かもしれぬぞ。

4


呂不韋(りょふい)は商用をすませると陽翟(ようてき)に帰った。



父上、一つおたずねしますが、田を耕して一年にいくら儲かりますか。
多くて十倍というところかのう。

5

では宝石ならばどのくらいです。

百倍くらいであろうな。

では一国の国王を仕上げたら？

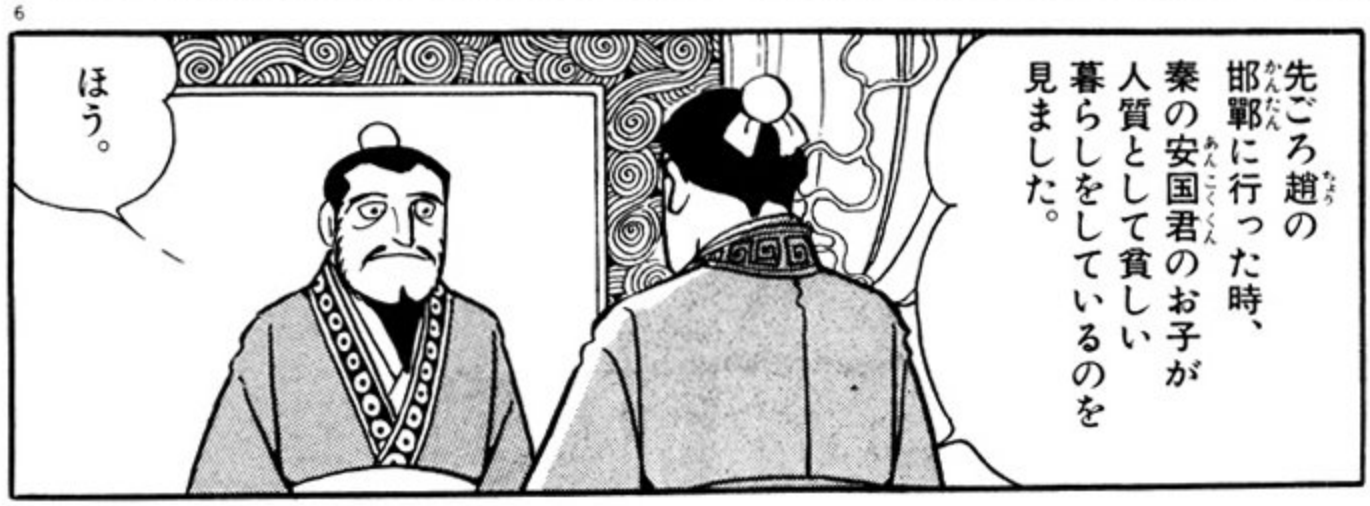
国王……

変なことを聞くやつだ。そんなことは計算できぬわ。
万倍くらいにはなりますか。

万倍のう……そんなものではないかも知れんのう。

なぜそんな事を聞くのだ。

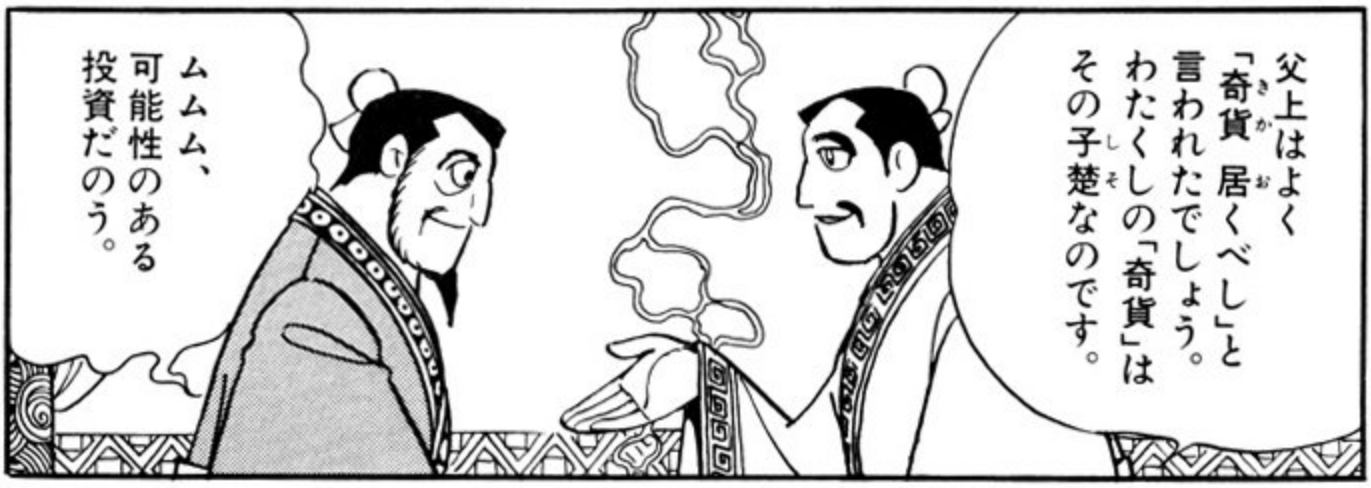
6


先ごろ趙の邯鄲に行った時、秦の安国君のお子が人質として貧しい暮らしをしているのを見ました。
ほう。

安国君さまは秦の太子、いずれ昭王さまの後を継ぎましょう。その安国君さまには二十数人の公子がおられる。即位すればその中から太子を選びましょう。
それはそうだ。

わたしはその子楚を太子にしようと思うのです。そうすれば、いずれ秦の王……

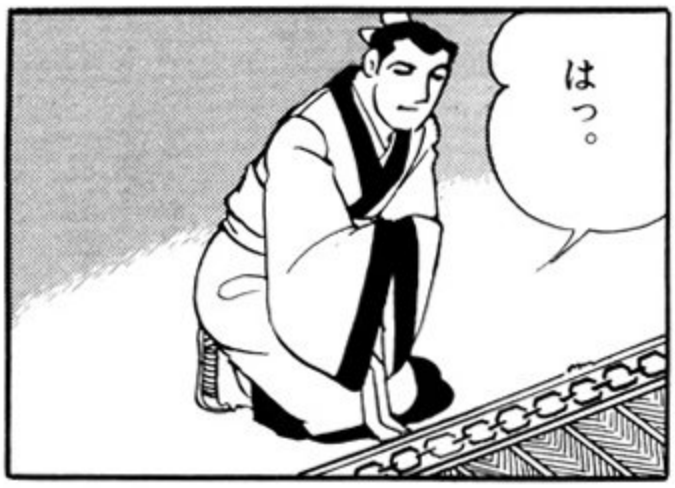
どえらいことを考えたのう。


父上はよく「奇貨居くべし」と言われたでしょう。わたくしの「奇貨」はその子楚なのです。
ムムム、可能性のある投資だのう。

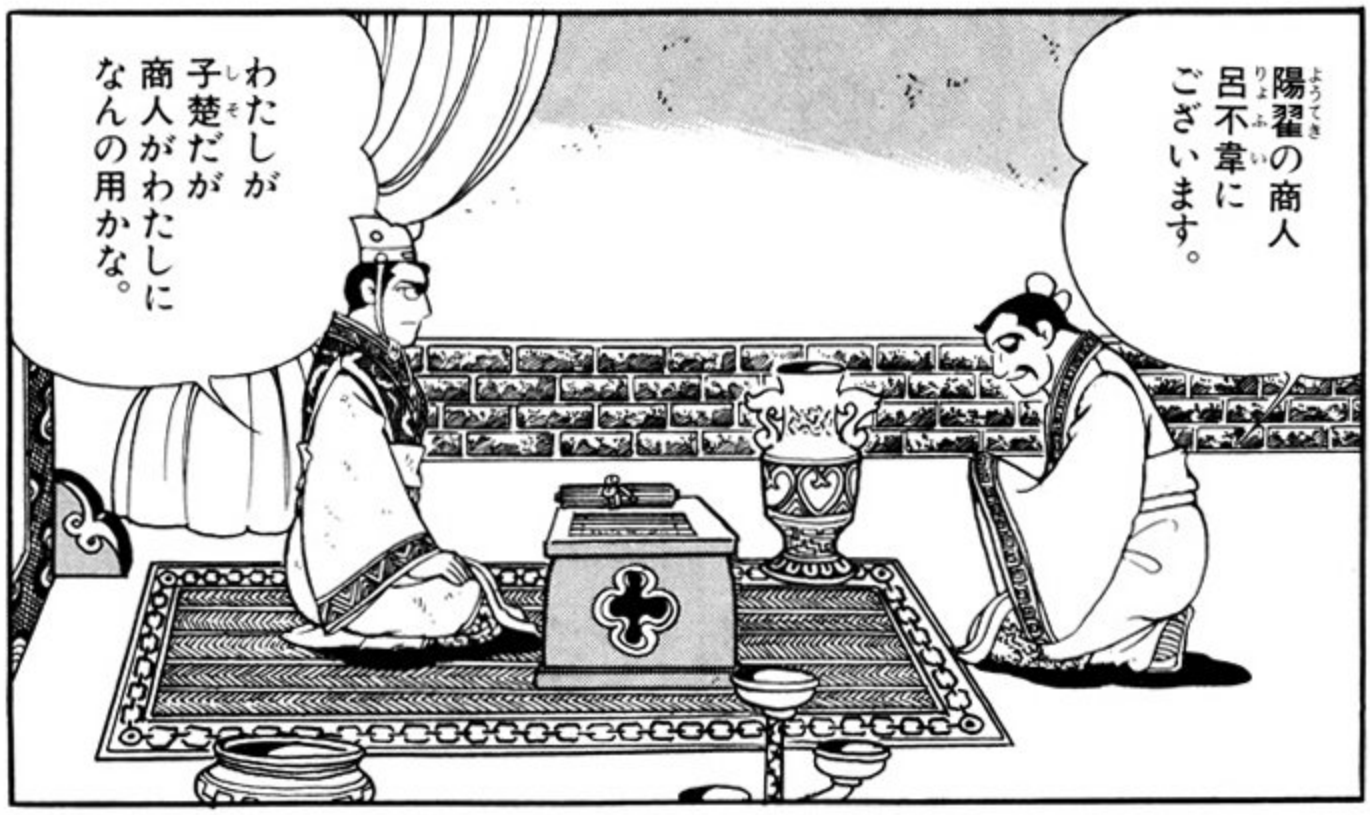
よし、全財産をつぎこんで賭けてみよう。
はい。

呂不韋は再び
邯鄲へ向かった。
商人として
一世一代の大勝負で
あった。

8



9



わたしは高価なものを買うゆとりなどないぞ。

いいえ、高価なものを買っていただくためにお金を持って参りました。

？
？

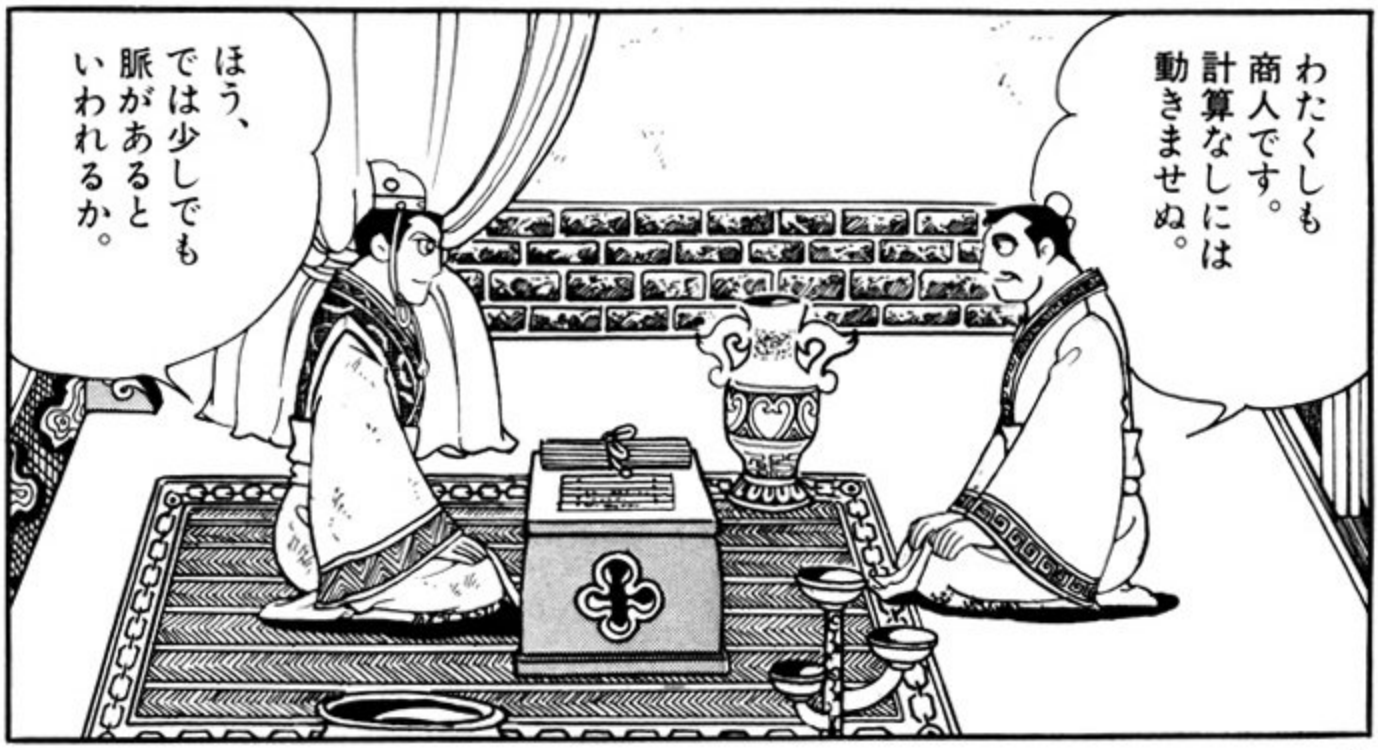
ここに五百金（五千両）ございます。これで高価な物を身につけ、趙にいる賓客と交遊を広めてくださいませ。

10

わからんのう、商人ならばこの金を使って大きい商売ができように。

あなたさまを世に出すことがわたしの商売の成功でもあるのです。

たしかにわたしが世に出られるならば、その恩返しもできよう。だが人質の身でわたしに何ができよう。


わたくしも商人です。計算なしには動きませぬ。
ほう、では少しでも脈があるといわれるか。

11

あなたさまは長く趙におられ交遊もないため、秦の情報はなかなかとどきますまい。
うむ。

あなたさまには二十数人の兄弟がおられます。

だが誰を後継ぎにするかはまだ決まっておりませぬ。これを決められるのは華陽夫人だけでございます。

華陽夫人。

はい、あなたさまの父君安国君さまがいま一番寵愛なさっている女性でございます。

ところが華陽夫人は子供が出来ませぬ。

あなたさまはその夫人の養子になればよいのです。

養子に……

12

はい、あなたさまが養子になられれば華陽夫人は間違いなくあなたさまを太子に薦めましょう。

ふむう。

もしわたしが秦の王になれたならその恩には充分報いるぞ。

はい、わたしは商人ゆえその投資資金は回収させてくださいませ。

それではさっそくあのお金を使って人々を招待し交遊を深めてくださいませ。わたしも金を使ってあなたさまのことを宣伝いたします。

13

おそらく趙にも秦の間者が多く入りこんでおりましょう。あなたさまの噂も秦に伝わります。わたしが華陽夫人に近づくのはそれからです。

わかりました、よろしくお願いいたします。

それから子楚は
積極的に交遊を
ひろめた。

また呂不韋も
金を使って
……

14

子楚の良い噂を
流させた。

そして再び
五百金を使って
高価な品物を
買いあさり、

15

今度は
秦へ向かった。

呂不韋はまず
華陽夫人の
姉に接近した。

そなたか、
陽翟の商人と
申すのは。

はい、
呂不韋と
申します。

16

秦でももっと
商売に手を広げ
たいと思い、
ご挨拶に参りました。

おう、
そうか。

これはお近づきのしるしとして持って参りました。お納め下さいませ。
おお、なんとすばらしい品々……

17

それから華陽夫人にも献上したい品物がございます。お取り次ぎ願えぬでしょうか。
おおお安いご用です。妹に伝えておきましょう。

18

おお、そなたが呂不韋か。姉から聞いております。秦でももっと商いをしたいそうじゃな。

はい。

19

ところで華陽さまは、安国君さまの公子・子楚(しそ)さまをご存じでございまするか。

子楚(しそ)…おう、夏姫(かき)どののお子じゃな。

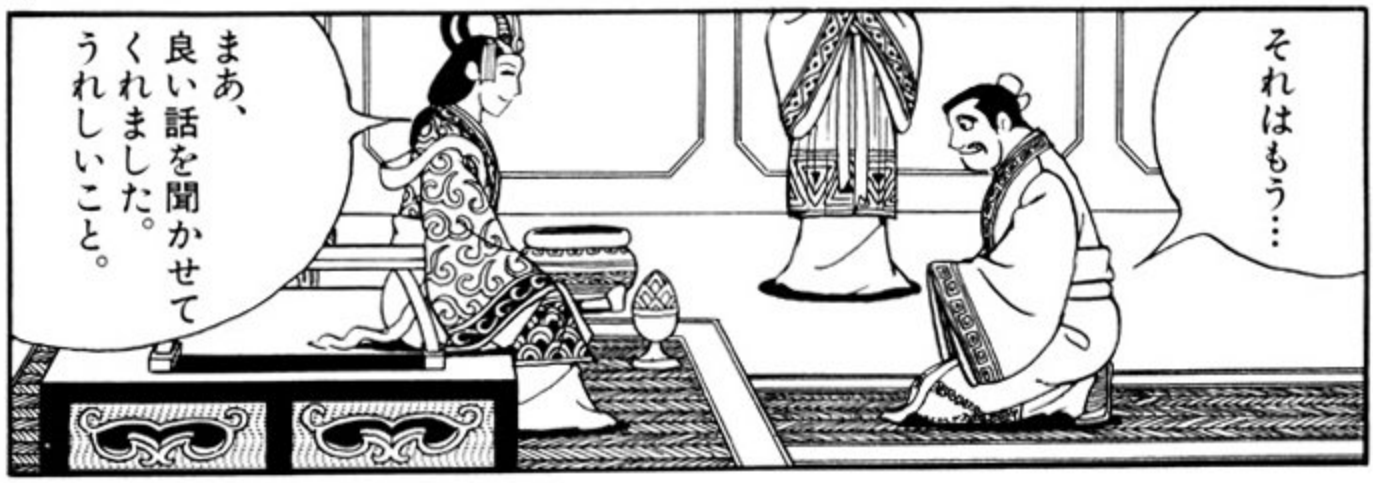
その子楚さまは今は趙の人質となっておりますが、なかなか聡明なお方で諸侯の賓客との付き合いも多く、評判のよいお方でございます。

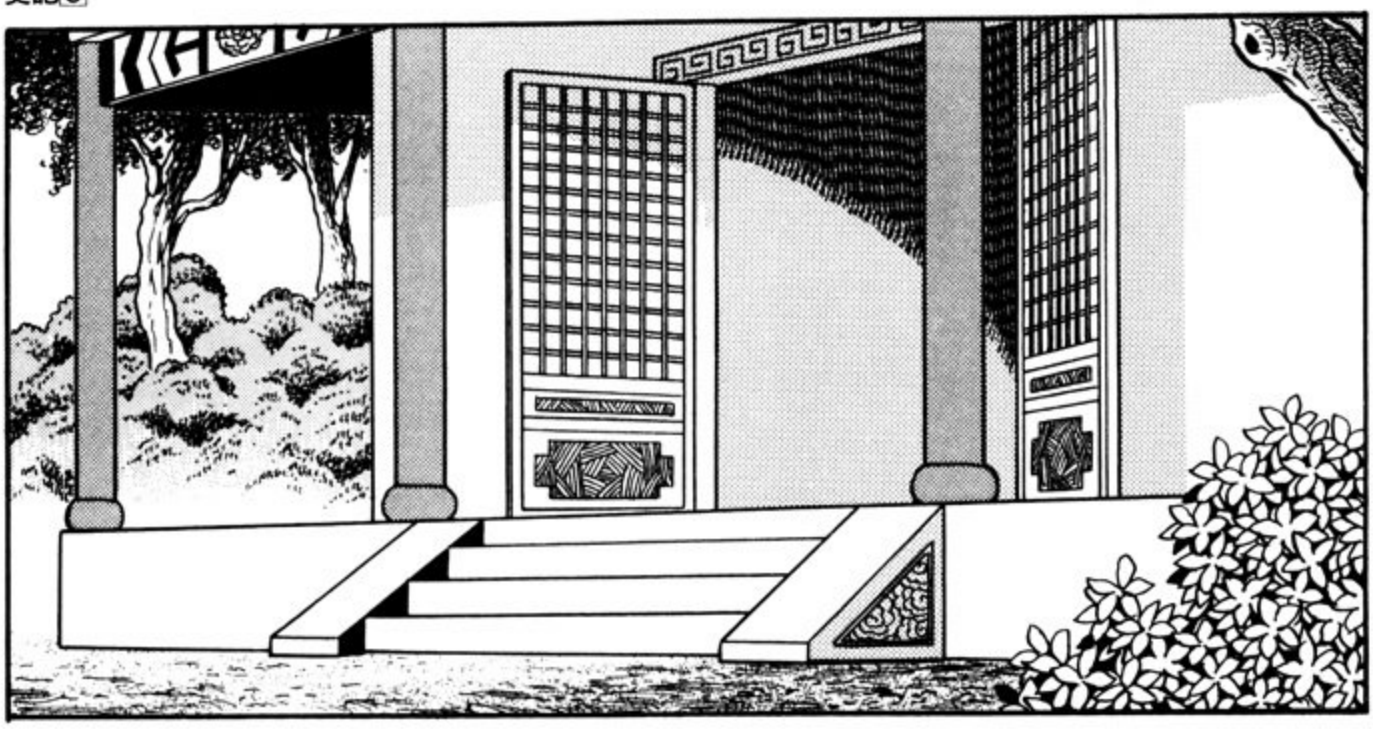
その子楚さまがあなたさまを心の底から敬慕なさっておられます。
わたしを……

はい、実母以上にあなたさまを尊敬なされておりまする。お会いするたびにあなたさまのことを口になされます。

まあ、わたしのことをそれほど慕っていてくれるのですか。

20


それはもう…
まあ、良い話を聞かせてくれました。うれしいこと。



姉上さまのおかげで華陽夫人と会うことができました。有難うございました。
いやいや、おやすいご用です。

21

華陽夫人には残念なことがございますな。

なにがでしょう。
？

あれほど安国君さまの寵愛を受けながら、華陽夫人にお子さまがいないことです。お子さまがいらっしゃれば、そのお子が安国君さまの世継ぎとなりましょうに。

そうなのよねえ。

安国君さまはお子さまが多いのですからその中から誰か聡明なお子を養子にもらい、世継ぎとなされるべきです。

養子をもらう……

22

そうすれば安国君さま在世中はもちろんのこと、もし安国君さまの身に何かあっても、その養子が王位を継げまする。そうなれば姉上さまも華陽夫人も勢力を失わずにすみましょう。

華陽夫人は今は若くとても美しゅうございます。しかし色香というものはいずれ衰え、ご寵愛を失うおそれもございます。

ご寵愛を失ってからでは手遅れです。今のうちに万全の手を打ち足もとを固めておくべきです。

そ、その通りじゃ。でも誰を養子にもらえばよいか……

23

趙の国に人質になっておられる子楚さまは、聡明で華陽夫人を慕っておられますゆえ、ああいうお方を養子になされば あなたさま達を大切になされるのではありませぬか。
でもそのお方は趙の人質でしょう いつ殺されるかわからぬではありませぬか。

いえいえ、わたしは諸国を歩く商人です。趙にも知人が多くいます。そのような危険の時はわたくしがかならず守ってみせます。

そうですか。

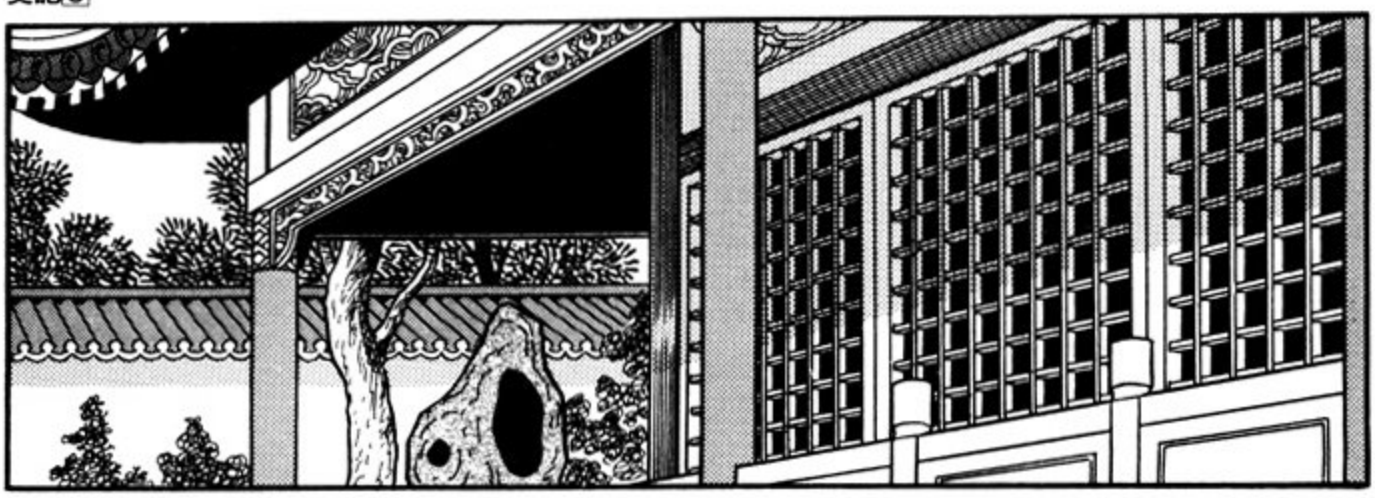
あなたのいうことはもっともです。その養子が世継ぎと決まれば、妹の地位も安泰でしょう。

お早いうちに検討なされたほうがようございますよ。

24

わかりました。すぐに妹に話してみましょう。

はい。



そうですか、あの商人がそのように申しましたか。
わたしもその通りだと思いました。

他の側室は子供を生んでいるのに、あなたにはいない。将来を考えるとあなたが一番不利ですよ。

25

お姉さまわかりました、安国君さまにお願いしてみます。
おう、それが一番です。

お殿さま、趙におられる子楚さまは聡明で、諸侯の賓客にも知人が多いそうでございますね。
誰に聞いた。

ちらりと聞きました。わたしの耳に入るくらいですからよほど立派なお子さまなのですね。

26

うむ、わしも間者から子楚の話は耳に入っている。

お殿さま、その子楚さまをわたくしの養子にして下さいませ。

わたしは
お殿さまから
可愛がられて
おりますが、
未だ子を産めませぬ。
その子楚さまを
世継ぎにして
わたしの将来を
守れるように
して下さいまし。

うむ、
趙においても
評判はいいし、
なかなか
出来る子の
ようじゃ。

よし、
子楚を養子にせい。
そして
世継ぎとして
みとめよう。

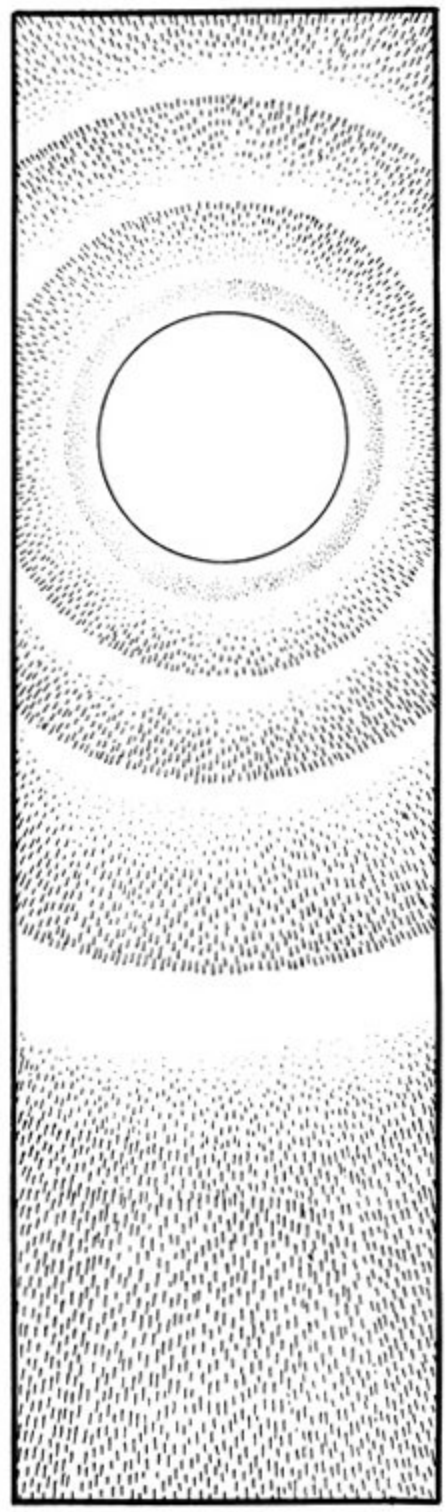
本当で
ございますか。

27

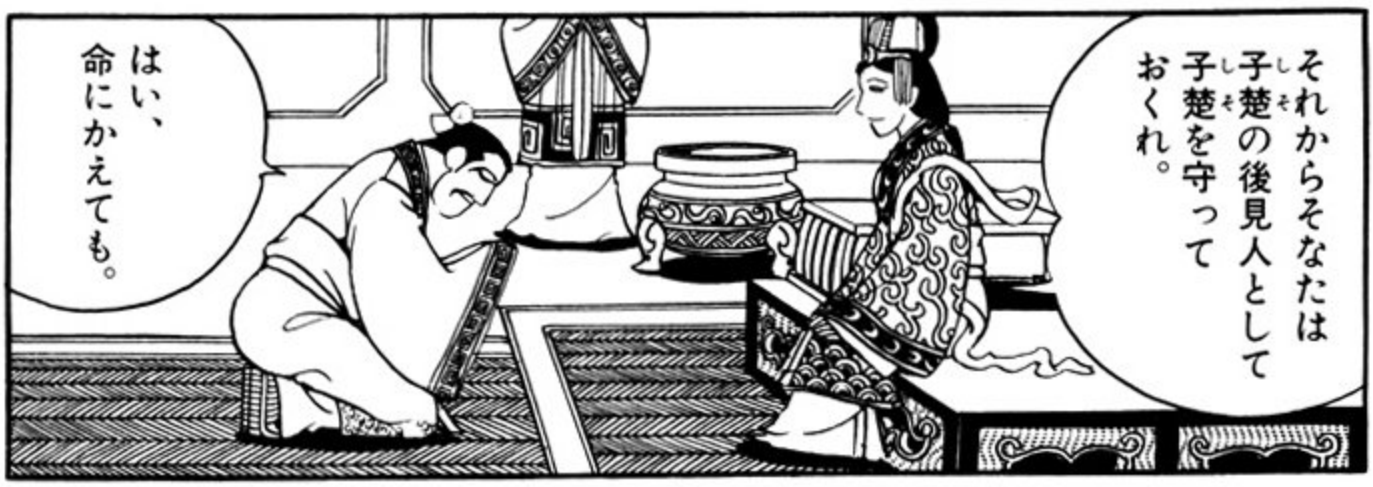
でもご兄弟が
多うございます。
あとで騒動に
なるのはいやで
ございます。
証拠の品を
下さりませ。
証拠のう。

よし。
カタ
この割符を渡しておけ。これを持つ者がわしの世継ぎだ。
お殿さま、うれしゅうございます。
それからな、その呂不韋とやらを子楚の後見人といたせ。
はい、お殿さま。

呂不韋、安国君さまは子楚を後継者と決められました。
おお、これであなたさまの将来は万全でございます。



これが証拠の割符です。子楚に渡しておくれ。
ははーっ。


それからそなたは子楚の後見人として子楚を守っておくれ。
はい、命にかえても。

30

子楚さま、安国君さまはあなたを世継ぎと認めました。これが証拠の割符でございます。

呂不韋よ、いろいろ力ぞえすまんのう。

ところで
もう一つ
ねだりたいものが
ある。

なんで
ございましょう。

あの舞いをしている
女をわたしに
くれぬか。

その遊女は
呂不韋の
囲い者であった。

えっ。

31

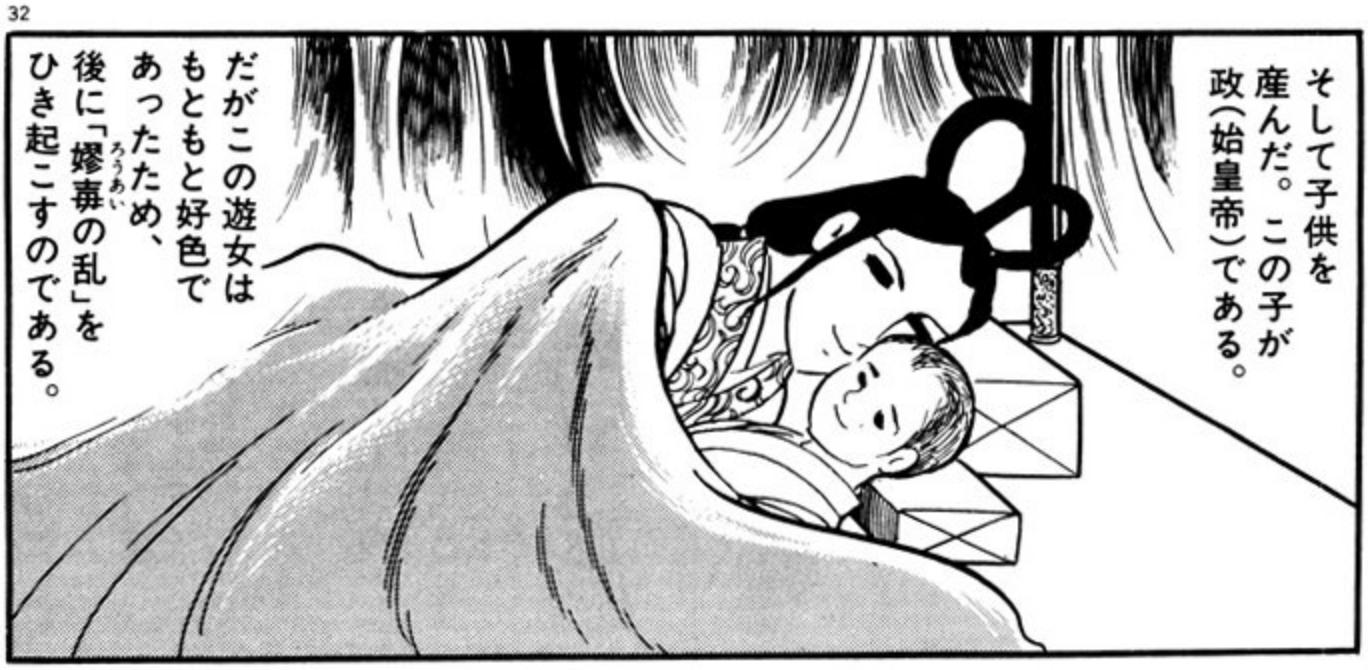
これはまずい。
あの女に二日前
身ごもったらしいと
いわれたばかりだ。
といって
全財産を賭けて
ここまで話が
うまくいったのだ。
ここで話がこわれても
困る。

わしも人質生活で一人暮しだ。妻がほしゅうなった。

わかりました。あなたさまに献上いたしましょう。

こうして遊女は呂不韋の子供をみごもったまま子楚の妻となった。

32


そして子供を産んだ。この子が政(始皇帝)である。
だがこの遊女はもともと好色であったため、後に「嫪毐の乱」をひき起こすのである。

前二五七年、秦は趙の邯鄲を包囲した。

33

趙は、楚の春申君や魏の信陵君に援軍を求めた。

子楚さま。

そうか、これがわたしの運命なのだ。

おう、呂不韋、あわててどうした。
趙ではあなたさまを殺すことを決定いたしました。

34

なにをいわれます。

あなたさまに死なれては、今までわたしがしてきたことは水の泡……

しかし戦争が始まれば、人質の運命は決まっている。

ご安心なされませ。わたくしは六百金を投じ城門の警備兵を買収してまいりました。あなた一人なら門を通れます。
では妻子は……

ある豪家でかくまってくれる約束をとりつけてあります。すぐに迎えに来るでしょう。

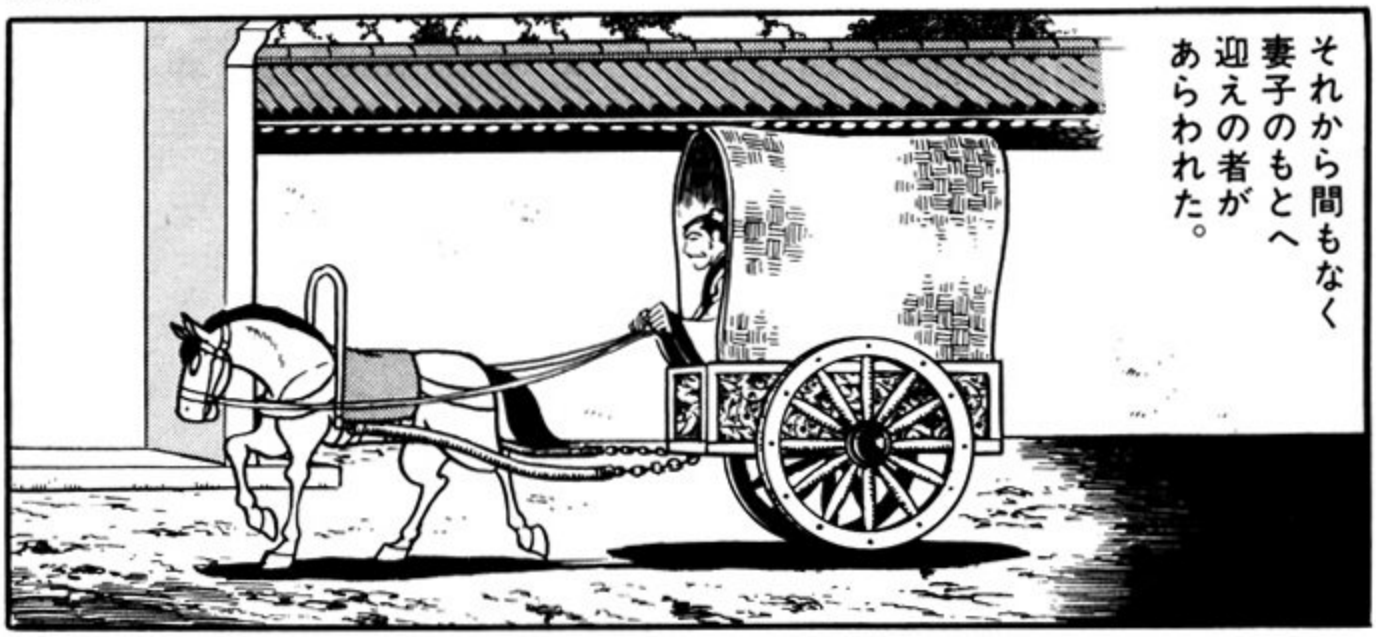
ともかく門が閉ざされる前に商人に化けてここを抜け出し、秦の陣へ逃げこみましょう。
わ、わかった。

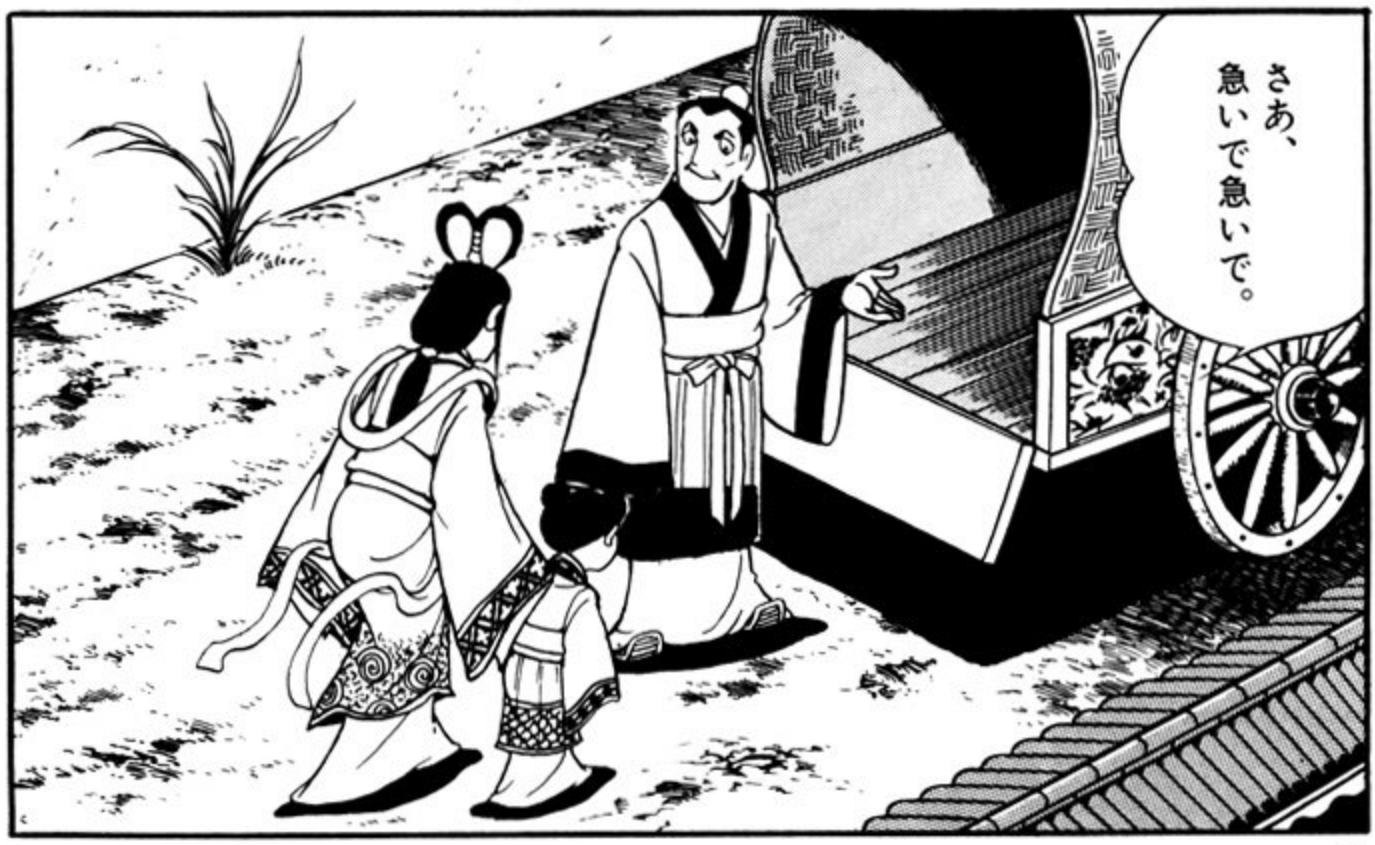
呂不韋と子楚は
妻子を残して
家をとびだした。

城門の警備兵は二人の
脱出を気づかぬ
ふりをして通した。
六百金といえば現代では
億を越える金額で、
警備兵には夢のような
大金だったのである。

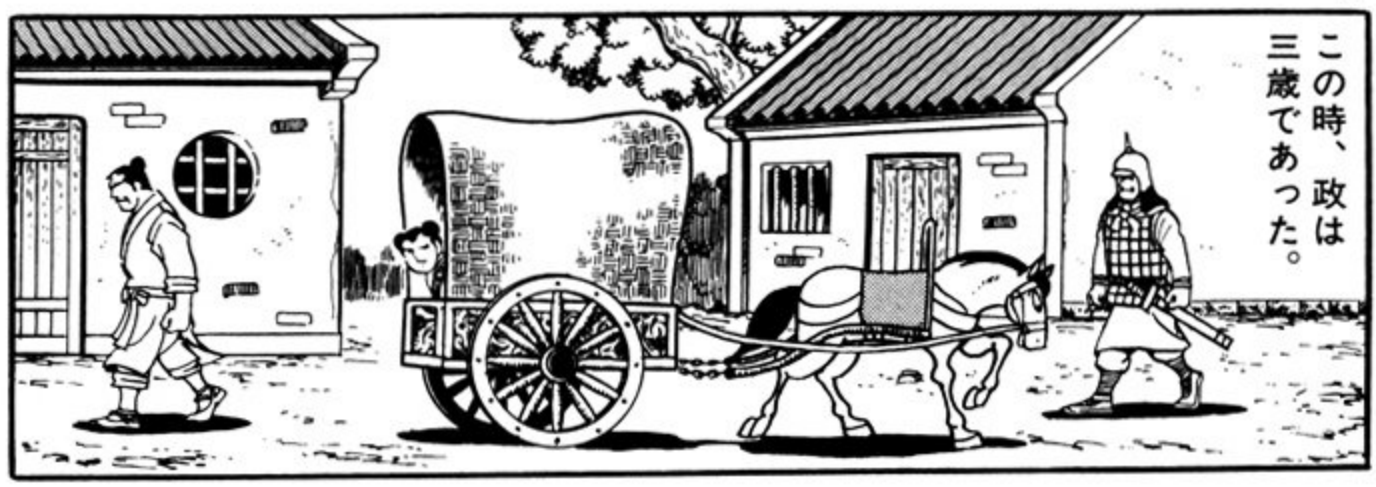
36

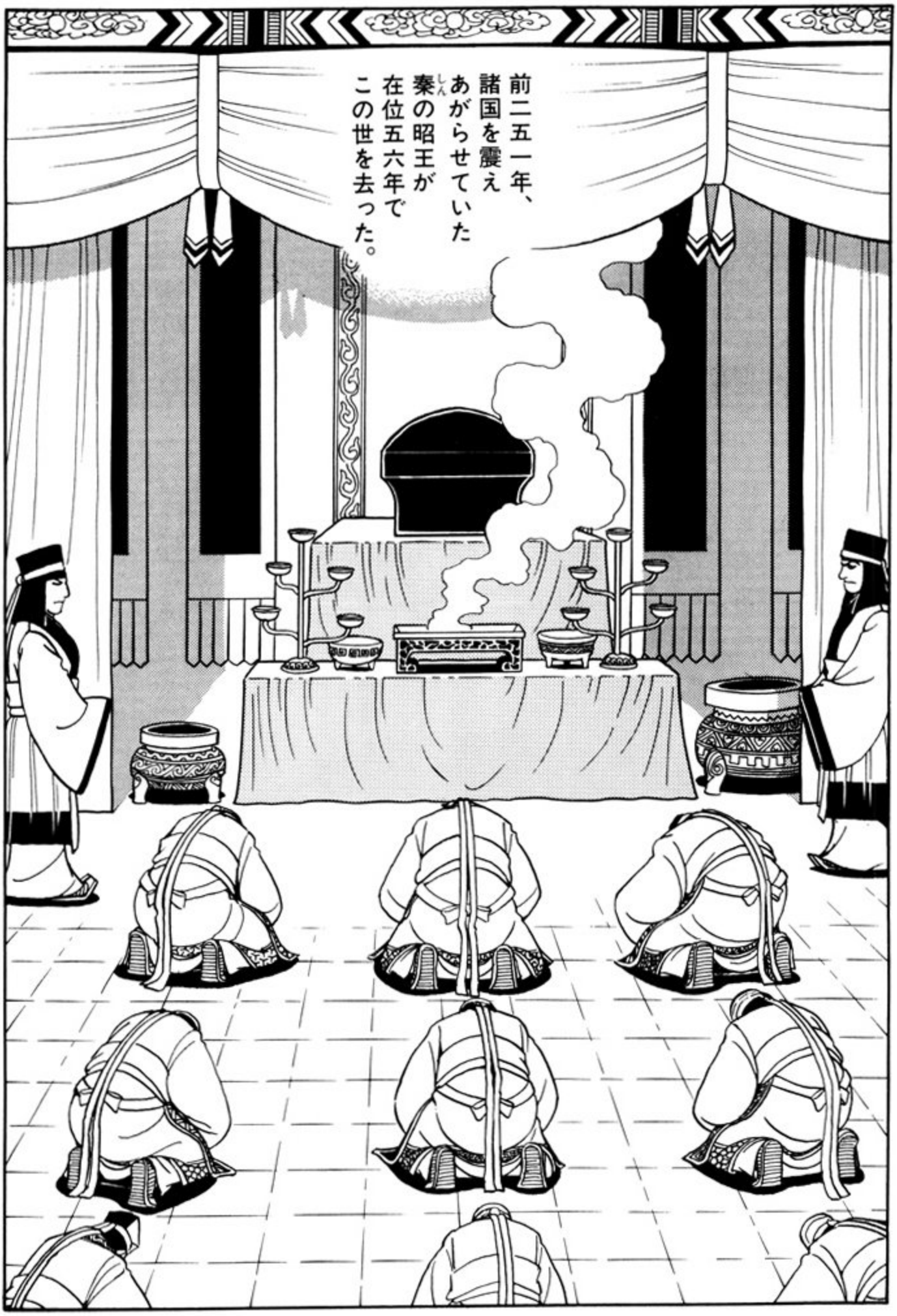
秦
秦
二人はそのまま
秦の陣へ
逃げこんだので
ある。





37





38

太子・安国君が秦王となった。孝文王である。昭王が長寿であったため、年をとっての即位である。

39

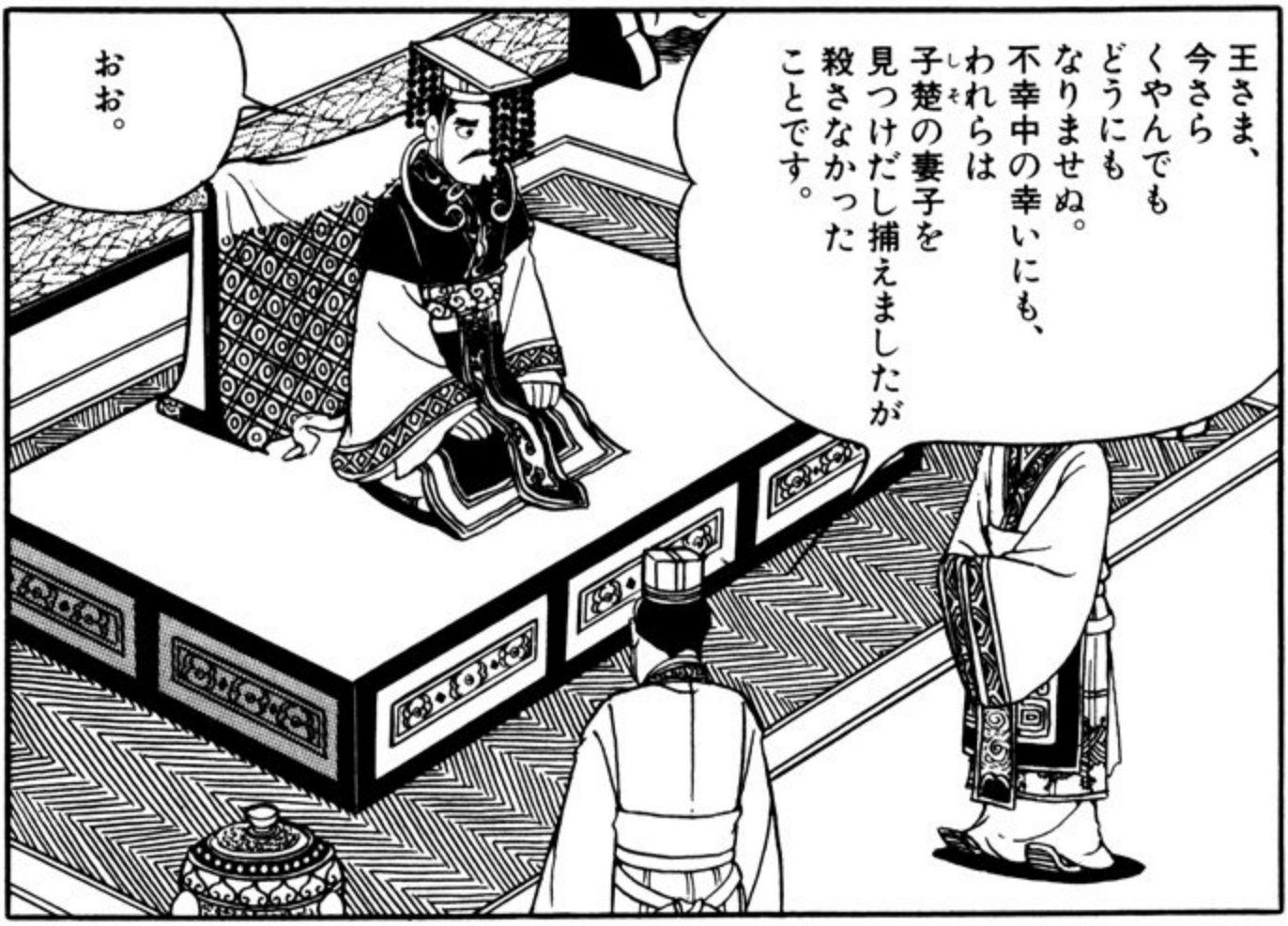
40

な、なにっ、あの人質だった子楚が秦の太子になったと。

はい。

まずいことになったのう。われらは子楚を粗末にあつかったからのう。

いにしえの覇者、晋の文公(重耳)も放浪中に粗末にあつかわれた国はすべて亡ぼしたというからのう。

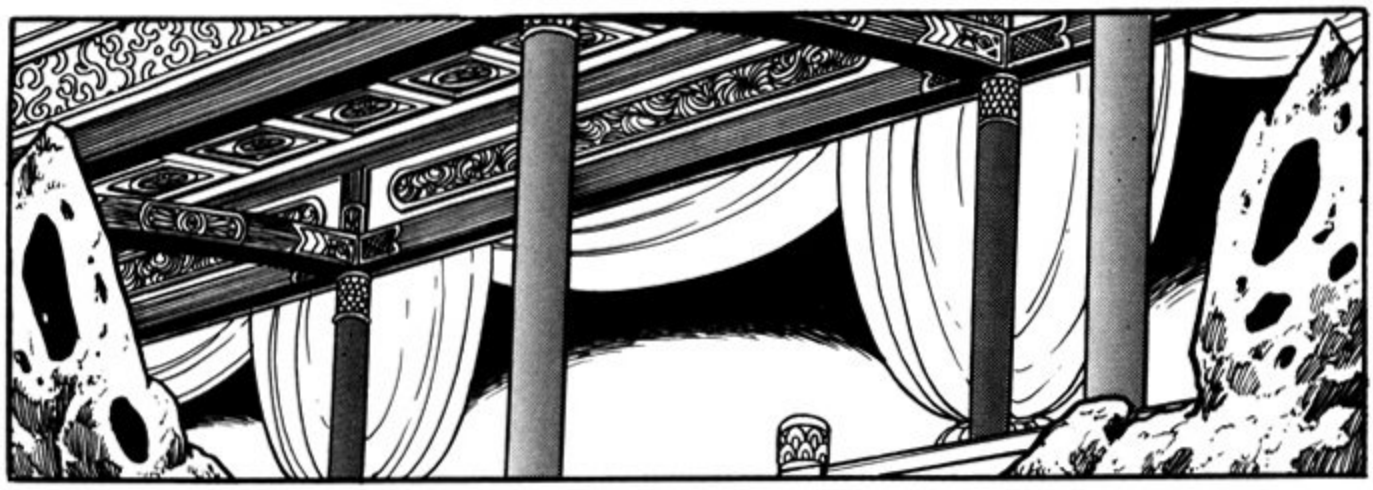

王さま、今さらくやんでもどうにもなりませぬ。不幸中の幸いにも、われらは子楚の妻子を見つけだし捕えましたが殺さなかったことです。
おお。

41

そうじゃ、その妻子を丁重に送り返すのじゃ。これ以上恨みを買ってはならぬ。
はっ。

こうして
妻子は丁重に
秦に送り
返された。

42



おお、政か、すっかり大きうなったの。何歳になったかな。
十歳です。

43

おう、そうであった。おまえと別れたのは三歳の時であった。

苦労したであろう。
……

よしよし、長旅で疲れたのであろう。退ってゆっくりとくつろぐがよい。

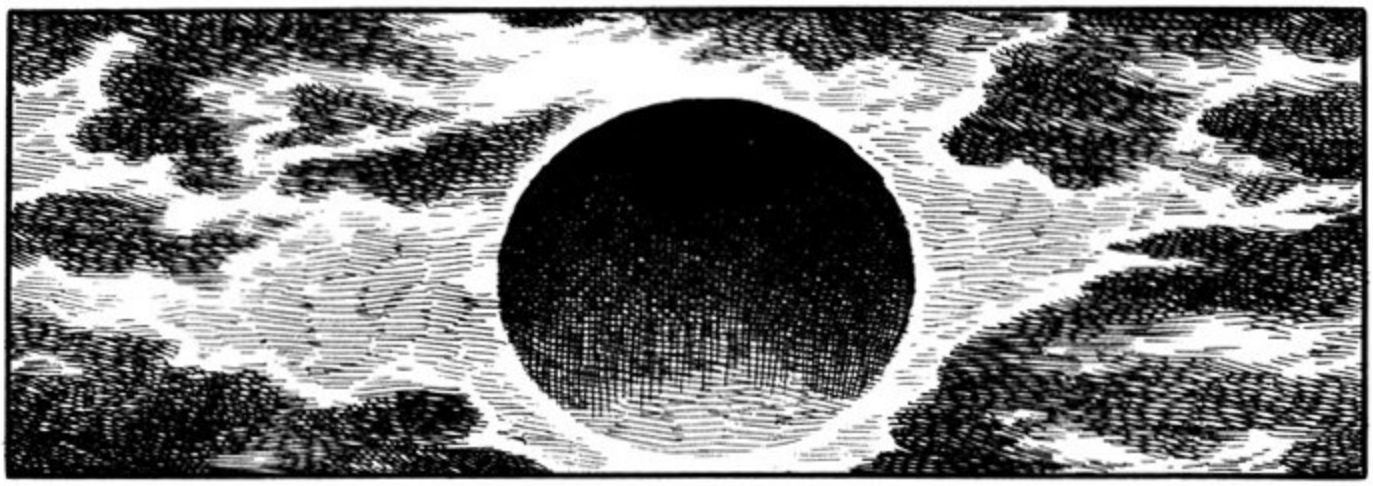
どう思うと申されますと……

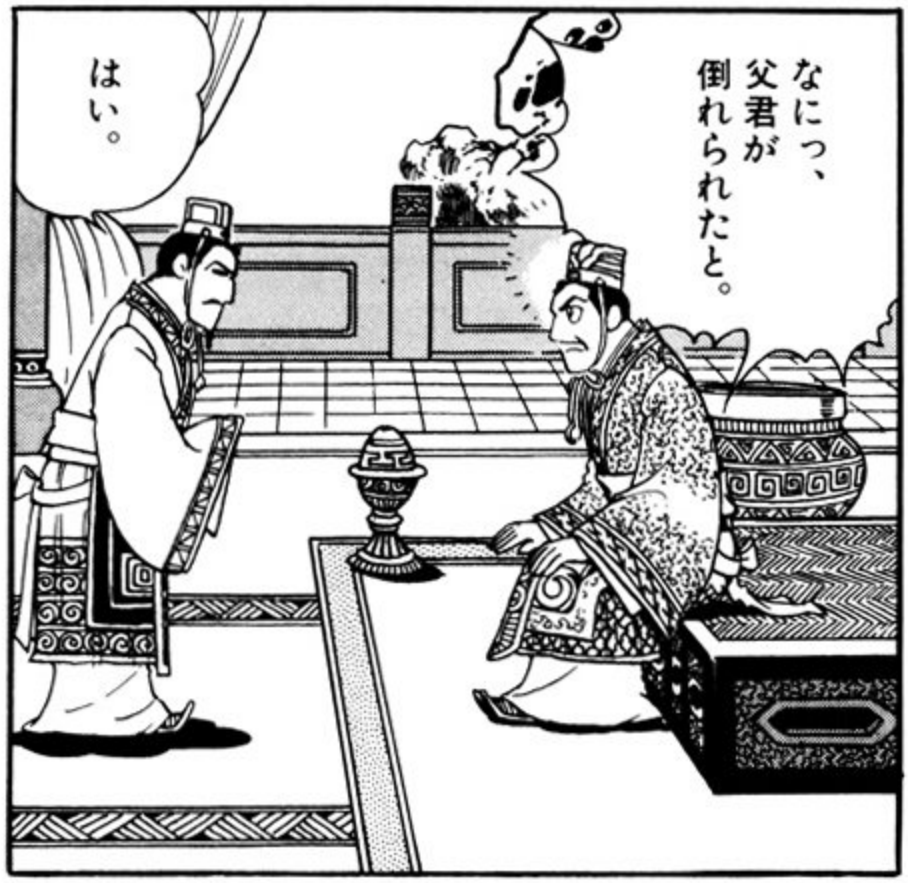
政をどう思う。

44

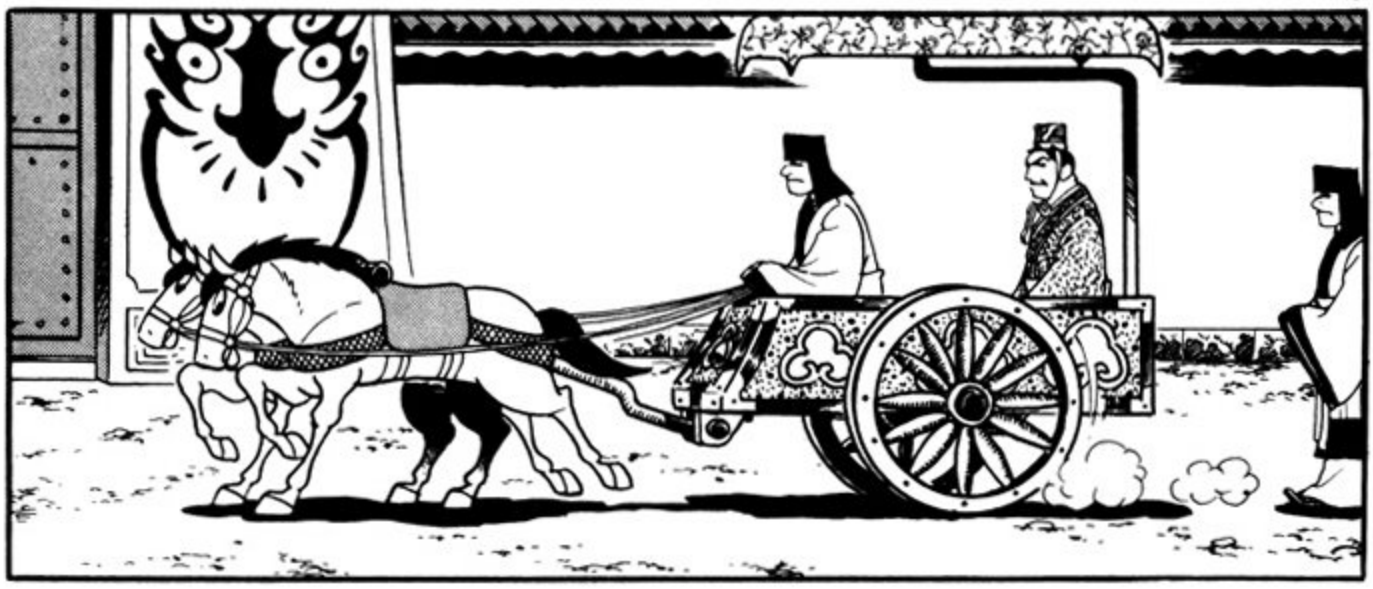
それは、いつ殺されてもおかしくない立場におられました。用心深くなるのは当然でございましょう。
そうよのう。

利口そうだが、なにか人に心を開かぬように見える。

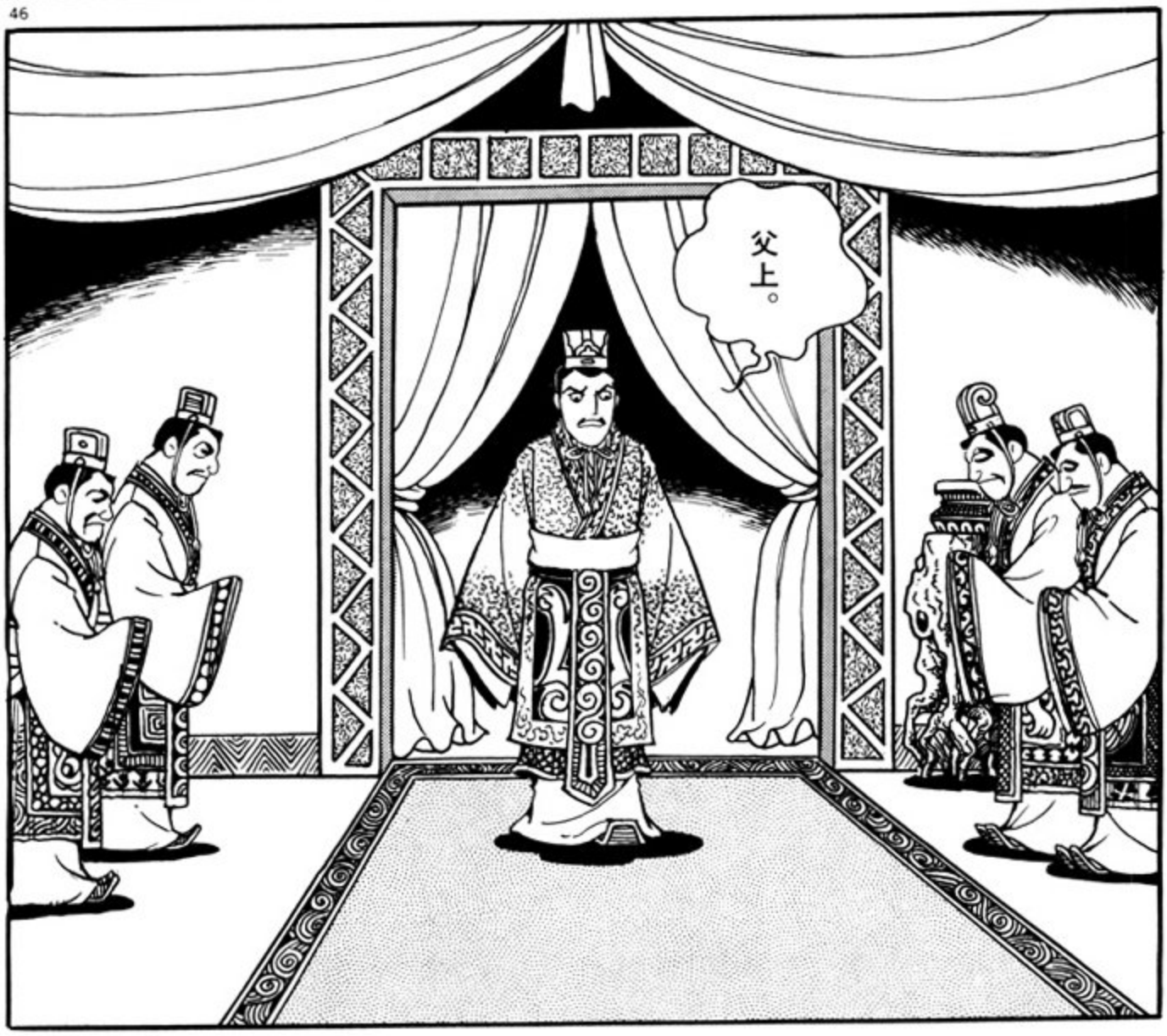




45



46



47

それから間もなく孝文王は世を去った。即位して一年目のことである。人々はあまりにもあっけない死に、老齢であったとか、病気であったと語った。

後を継いで
太子・子楚が
秦王となった。
荘襄王である。

48

そして
政が太子となった。

49

呂不韋よ、
そなたがわたしを
趙から救い出して
くれなかったら、
わしの今日はなかった。
その功績は大である。

ははーっ。

その功績により
黄河南部の土地
十万戸を与える。
さらに秦の丞相に
任命する。

ははーっ。

呂不韋はこれで
投資資金を
充分に取り戻し、
権力の座まで
手に入れたのである。
呂不韋にとって
子楚はまさに
「奇貨」であった。

『史記』第6集—完—

■『史記』関連年表

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
2550	黄帝、顓頊、帝嚳、堯、舜の五帝が支配した伝説の時代。	4000頃	エジプト初期王朝時代始まる。王都メンフィスを創設。
2144	夏、始まる。	2700頃	エジプト、ピラミッドを造営。
1711	殷、始まる。	2500頃	インダス文明はじまる。
1066	周、始まる。	2000頃	日本、縄文文化中期（発展期）。
1065	魯、燕、衛、晋、曹、蔡、呉、陳、宋、斉、楚の諸侯、成立。	1600頃	クレタ文明旧宮殿時代。日本、縄文時代後期。
		955	ソロモン（ダビデの子）イスラエル王となる。

770	東周、始まる。秦、諸侯に列する。	
722	春秋時代、始まる。	
686	斉の襄公、公孫無知の謀反により死す。	
685	斉の桓公、管仲を宰相に迎える。	
667	斉の桓公、周王より伯（覇者）を賜わる。	
666	晋の驪姫、その子・奚斉を立てようとし、重耳らの追放をはかる。	
645	斉の宰相管仲死す。	
636	重耳、亡命19年ののち即位し、晋の文公となる。	
546	宋の向戌の提唱で、晋、楚、魯、蔡、衛、秦など13か国間の和平成立。以降40年間休戦となる。	
522	楚の平王、伍奢とその子伍尚を死罪に処す。伍尚の弟伍子胥、呉に逃げる。	
515	呉の公子光、王、僚を討ち王位につく。名を闔廬と改める。	
511	呉、伍子胥の計を用いて楚に侵入。	
506	呉、楚軍を破り、楚の都郢に入る。	
505	越、呉に侵入。楚の申包胥、秦の援軍を得て楚を救う。呉敗北。	
496	呉王闔廬、越王句践と戦い、矢傷を負い敗死。	
494	呉王夫差、句践を会稽山で破る。	

776	ギリシア、オリンピアで第1回オリンピア競技会開催。	
753	ローマ建国。	
625	新バビロニア王朝はじまる。	
539	新バビロニア王朝滅亡。ペルシア帝国隆盛期。	
500	ペルシア戦争始まる。	
500頃	日本、縄文晩期時代。	
490	マラトンの戦いでペルシア、ギリシアに敗れる。	

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
484	呉王夫差、艾陵で斉軍を破る。伍子胥、呉王夫差より死を命ぜられ自害。		
482	呉王夫差、黄池で覇権を争う。その隙をついて越王句践、呉に侵入。呉、大敗を喫す。		
481	春秋時代終わる。		
479	孔子死す。		
473	越王句践、呉を滅亡させ、覇者となる。		
453	大国・晋、韓・魏・趙の三氏に分裂される。これより三晋おこる。		
446	魏、文侯即位。魏の国力盛んとなる。		
403	戦国時代始まる。		
387	魏の文侯没す。呉起、楚に移り宰相となる。		
384	秦、殉死を禁止。		
381	楚の悼王没す。呉起、楚の貴族たちに殺される。		
367	周、西周と東周に分裂。	457	ギリシア、オリンピアにゼウス神殿完成。
359	秦の孝公、商鞅を左庶長に任じ、新法を公布、国内改革を断行。	449	アテネ艦隊、キプロス島でペルシアを破る。ペルシア戦争終わる。
350	秦、咸陽へ遷都。	447	ギリシア、パルテノン神殿着工。

341	斉の将軍田忌、孫臏の計により魏軍を破る。魏の将軍龐涓、自害。		
340	秦の商鞅、魏軍を破り、商・於の地に封じられる。		
338	秦の孝公没す。商鞅、車裂きの刑に処される。		
299	秦の昭王、斉の孟嘗君を迎える。		
298	孟嘗君、秦より斉に逃げ帰り宰相となる。趙の恵文王、公子勝を平原君に封ずる。		
293	秦の白起将軍、韓・魏連合軍を伊闕で破り、二十四万人を殺害。		
289	このころ孟子没。		
286	斉、宋を滅ぼす。		
284	燕、秦、趙、韓、魏、連合して斉を討つ。		
	燕の将軍・楽毅、斉都臨淄に攻め入る。		
280	秦の白起将軍、趙を破る。		
279	秦の昭王、趙の恵文王と澠地で会談。		
	燕の昭王死去。楽毅、趙へ亡命。		
	斉の田単、楽毅に奪られた七十余城を取り戻す。		
278	孟嘗君死去。		
	秦の白起将軍、楚を討ち、首都・郢を占拠。楚、東方の陳へ遷都。		
		340頃	日本、弥生前期時代。
		336	アレクサンドル大王即位。
		331	ペルシア帝国滅亡。
		317	インド、マウリア王朝を興す。
		269	ローマ、銀貨を初めて鋳造。
		268	インド、アショーカ王即位。マウリア王朝最盛期に。

紀元前	中国
277	秦の白起将軍、武安君に封じられる。
276	魏の公子無忌、信陵君に封じられる。
273	秦の白起将軍、魏・韓・趙連合軍を破り、13万人を殺害。
270	趙の将軍・趙奢、作戦で秦軍を破る。
266	秦の昭王、范雎を宰相に任じ、応侯に封じる。
262	楚の孝烈王即位。黄歇を春申君に封じる。
261	戦国時代最大の合戦、趙・秦の両軍による長平の合戦始まる。
260	趙の孝成王、廉頗将軍を罷免し、趙奢の子、趙括を総大将に任命。秦の白起将軍、趙軍を長平で大破し、捕虜四十万余を生き埋めにする。
257	秦の白起将軍自害。秦の王陵将軍、趙の都、邯鄲を包囲するも、楚の春申君、魏の信陵君の助太刀により大敗。
256	秦、西周を滅ぼす。
255	秦の昭王、范雎を罷免する。
249	秦の昭王、呂不韋を相国とする。
247	秦、魏に侵攻。魏の信陵君、五か国の兵を率いて秦を破る。

紀元前	世界の国々
264	ポエニ戦争始まる。
248頃	パルティア王国建国

246	秦王政（後の始皇帝）即位。呂不韋、幼君政に代わって執権。	
241	趙・楚・魏・燕・韓の5か国、連合して秦を攻め、函谷関に敗れる。	
238	楚の李園、春申君を殺害。	
221	秦、天下統一。秦王政、始皇帝と名を改める。	
214	万里の長城の建設始まる。	
210	始皇帝、沙丘で死去。	
202	劉邦、項羽を破り、漢王朝を興す。劉邦、皇帝・高祖を名のる。	
145	司馬遷、生まれる。（異説あり）。	
140	武帝、天下の大学者、董仲舒を得る。	
136	武帝、五経博士を置く。	
110	武帝、泰山で封禅を行なう。	
104	太初暦（陰暦）完成。	
99	匈奴軍に降った李陵を弁護したため、司馬遷宮刑に処される。	
96	司馬遷、大赦により出獄し、中書令に任命される。	
87	武帝死去。	
86	司馬遷死去。（異説あり）。	

144	ローマ、マルキア水道建設。	
133	グラックス兄弟の改革	
87	民衆派ローマを占領。恐怖政治始まる。	

BIG GOLD COMICS
ビッグゴールドコミックス

史記
乱世に生きる
6

1994年12月20日　初版第一刷発行

著者
横山光輝
© 1994 MITSUTERU YOKOYAMA
発行者
猪俣光一郎
発行所
株式会社　小学館
振替(00180-1-200)
〒101-01東京都千代田区一ツ橋2-3-1
[編集]TEL03・3230・5481[販売]TEL03・3230・5749
印刷所
株式会社美松堂(カバー・表紙)
中央精版印刷株式会社
装幀
海野一雄
＋
Bay Bridge Studio

●本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上演・放送等をすることは、
法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。
●造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、「業務部」あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。業務部(TEL0120-336-082)
Ⓡ本書の一部または全部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書から複写を希望される場合は、日本複写権センター(TEL03-3401-2382)にご連絡ください。

検印廃止

ISBN4-09-189046-6

Printeb in Japan